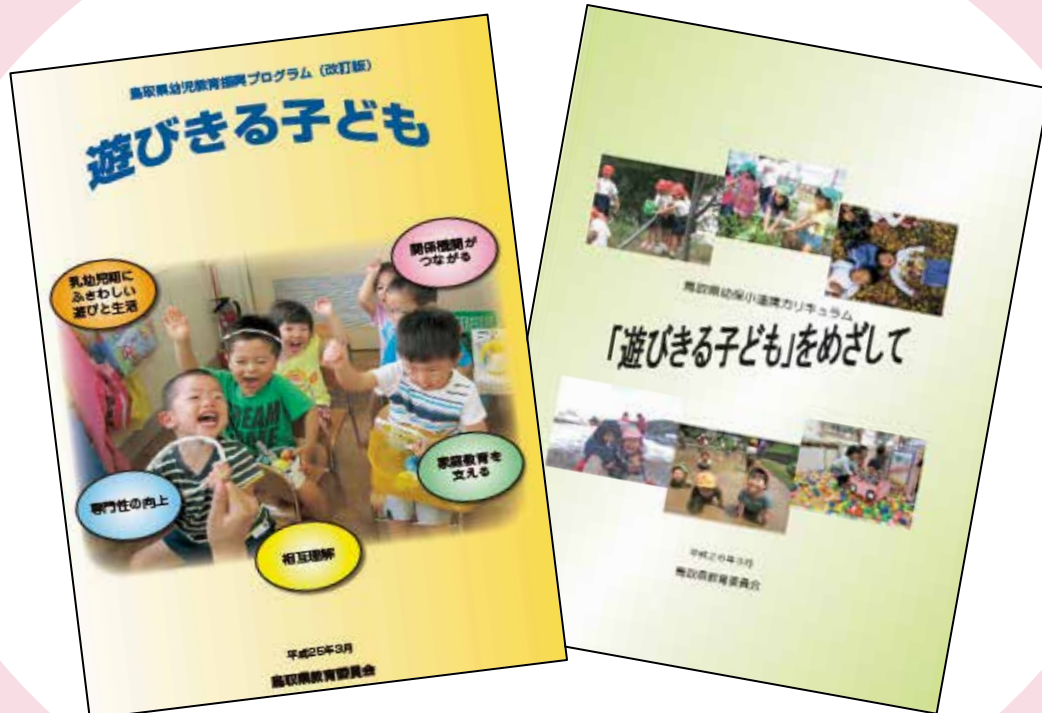


鳥取県 『遊びきる子ども』 を育む取組事例集

幼児教育・保育の充実をめざして



平成28年3月

鳥取県教育委員会

取組事例集 目次

はじめに

第I章「鳥取県『遊びきる子ども』を育む取組事例集」の活用に向けて

- 1 『遊びきる子ども』をめざして 1
- 2 「鳥取県『遊びきる子ども』を育む取組事例集」の内容 2
- 3 「鳥取県『遊びきる子ども』を育む取組事例集」の活用 2

第II章 園の特色ある取組

- 1 教職員の共通理解のための取組 3
- 2 保護者の理解・啓発に向けた取組 9
- 3 環境の構成の工夫に向けた取組 15
- 4 保育者の資質向上をめざす取組 19
- 5 教育課程・保育課程、指導計画の改善につながる取組 22

第III章 各園における実践事例

- 1 実践事例について 27
- 2 各園の実践事例 29
 - (1) 0歳児(4事例) 29
 - (2) 1歳児(4事例) 33
 - (3) 2歳児(5事例) 37
 - (4) 3歳児(4事例) 42
 - (5) 4歳児(5事例) 46
 - (6) 5歳児(5事例) 51
 - (7) 2～5歳児(2事例) 56



第IV章「園内研修用DVD」で紹介した実践

- ★ 掲載している保育実践及び園内研修例紹介 58
- 1 「みんなで『かえるの運動会ごっこ』をしよう」(4歳児) 59
- 2 「木工遊びを楽しもう」(4・5歳児) 62
- 3 「ばら組迷路を作ろう」(5歳児) 65

第V章 園と小学校の円滑な接続に向けた取組

- 1 接続期の子どもの姿の共通理解 68
- 2 スタートカリキュラムの編成 68
- 3 交流活動の充実 69
- 4 幼保小連携に向けた取組例 73

資料編

- 「鳥取県『遊びきる子ども』を育む取組事例集」作成協力者・アドバイザー 75
- 情報提供いただいた幼稚園・保育所・認定こども園・小学校等 76
- 「鳥取県教育振興基本計画」リーフレット 77
- 『遊びきる子ども』をめざして 78
- 「鳥取県幼児教育振興プログラム(改訂版)」概要版 79
- 「鳥取県幼保小連携カリキュラム」概要版 83
- 保護者版リーフレット「『遊びきる子ども』をめざして」 87
- 「園内研修用DVD～園内研修の充実をめざして～」リーフレット 89

はじめに

鳥取県教育委員会では、平成25年3月に「鳥取県幼児教育振興プログラム(改訂版)」を策定、平成26年3月に「鳥取県幼保小連携カリキュラム」を作成し、『遊びきる子ども』をめざした取組を推進してきました。

これまで、鳥取県教育委員会は、上記プログラムとカリキュラムの活用について、研修会等を通して周知を図るとともに各園における研修を支援してきました。各園においても、園や地域の特色を生かし、『遊びきる子ども』の育成をめざして、研究テーマに基づいた園内研修や、「遊び」を充実させるための様々な取組が行われています。

このたび、園内研修等での積極的な活用による保育者の資質向上や、幼稚園・保育所・認定こども園等の教育力・保育力の向上をめざして、今後の取組の参考となる様々な実践を収集した「鳥取県『遊びきる子ども』を育む取組事例集」と、園内研修例を紹介した「園内研修用DVD」を作成しました。

今後、自ら主体的に考え、友達と一緒に生活や遊びを楽しむ子どもを育むことに重点を置いたさらなる取組が求められています。そして、質の高い教育・保育を展開するため、保育者一人一人の資質、全ての保育者の専門性、及び園の教育力・保育力の向上を図ることが重要です。

この取組事例集と「園内研修用DVD」を参考に、鳥取県の明日をつくる子どもを育てるために、園内研修の充実による、園や地域の特色を生かした『遊びきる子ども』の育成をめざす取組が展開されることを心から願っています。

最後になりましたが、本取組事例集の作成にあたり、実践を提供いただいた園、小学校等、ならびに御尽力いただきましたみなさまに、深く感謝申し上げます。

平成28年3月

鳥取県教育委員会教育長 山 本 仁 志

第Ⅰ章 「鳥取県『遊びきる子ども』を育む取組事例集」の活用に向けて

1 『遊びきる子ども』をめざして

鳥取県教育委員会では、めざす幼児の姿を『遊びきる子ども』として、幼児教育の充実に向けた取組を推進しています。

『遊びきる子ども』を育むためには、保育者の資質の向上や園の教育力・保育力の向上を図ることが重要です。園内研修を進めていくにあたり、「鳥取県幼児教育振興プログラム（改訂版）」、「鳥取県幼保小連携カリキュラム」及び本冊子を参考に、園の課題等に応じた研修内容の在り方を考え、園内研修に取り組みましょう。

『遊びきる子ども』

遊びと生活の中で、心も頭も体も一緒に育つのが乳幼児期の特徴です。友達との集団生活を通して、『遊びきる子ども』を育てていくことをめざします。

遊びの楽しさは、子どもが**遊びたい**という意欲から、自ら**遊びだす**ことで始まります。そして、**遊びこむ**ことで、遊びの楽しさやおもしろさが深まったり広がったりしていきます。十分に遊びこむことが**遊びきる**ことにつながり、遊びきることで心地よい満足感や達成感を味わっていくのです。この満足感や達成感といった自己充実感が自信となり、新たな遊びを生み出すエネルギーになるのです。このエネルギーが育つことで気持ちの切り替えにつながるのです。

そのため、幼稚園・保育所・認定こども園では、友達とたっぷり遊ぶ時間と場を保障し、心ゆくまで遊びきることができる環境を構成することが必要となります。

また、幼児教育・保育の専門家である保育者が、主体的な遊びを中心とした乳幼児期にふさわしい生活をつくっていくことが重要です。（「鳥取県幼児教育振興プログラム(改訂版)」P 1 1）

『遊びの中の学び』

子どもは、幼稚園や保育所、認定こども園で、興味や関心に基づいた自発的な活動や具体的な体験を通して多くのことを学びます。子どもの遊びには、成長や発達にとって重要な体験がたくさん含まれています。遊びは幼児期にふさわしい学びなのです。

その学びの質を高めるために、保育者は幼児の内面を理解し、幼児が経験していることを的確にとらえなければなりません。（「鳥取県幼児教育振興プログラム(改訂版)」P 1 2）



保護者版リーフレット
『遊びきる子ども』を
めざして」より

2 「鳥取県『遊びきる子ども』を育む取組事例集」の内容

園の特色ある取組

＊職員の共通理解や保護者の理解・啓発、職員研修の進め方などを紹介しています。
→第Ⅱ章（3ページ～）

実践事例（29事例）

＊各園の特色を生かした保育実践等を紹介しています。
→第Ⅲ章（27ページ～）

「園内研修用DVD」で紹介した実践

＊別添のDVDの内容を紹介しています。DVDと合わせて園内研修の参考とすることができます。
→第Ⅳ章（58ページ～）

円滑な接続に向けた取組

＊様々な取組や交流活動の指導案等を紹介しています。
→第Ⅴ章（68ページ～）

**保育者の資質や園の保育力・教育力の向上、
小学校と園との円滑な接続のために活用を！**

3 「鳥取県『遊びきる子ども』を育む取組事例集」の活用

「鳥取県『遊びきる子ども』を育む取組事例集」は、「鳥取県幼児教育振興プログラム（改訂版）」、「鳥取県幼保小連携カリキュラム」及び「園内研修用DVD」と合わせて、幼稚園、保育所、認定こども園等（以下「幼稚園等」）及び小学校等において以下のように活用することができます。

【参考となる内容】

幼稚園等で

【教育・保育の充実】【相互理解】

- ・園内研修の内容や方法
- ・環境の構成、再構成
- ・保育者の援助
- ・保護者の理解・啓発の方法
- ・小学校との連携
- ・円滑な接続をめざす取組（指導案・交流活動 等）

園全体、年齢別、個人等の
研修に活用

小学校等で

【教育の充実】【相互理解】

- ・乳幼児期の発達や保育
- ・円滑な接続をめざす取組（スタートカリキュラム・交流活動 等）

学校全体、学年、個人等の研修に活用

幼保小合同の研修等に活用

【活用場面】

- ・乳幼児・児童の交流活動
- ・教職員合同研修会
- ・幼保小連絡会
- ・幼保小連携協議会

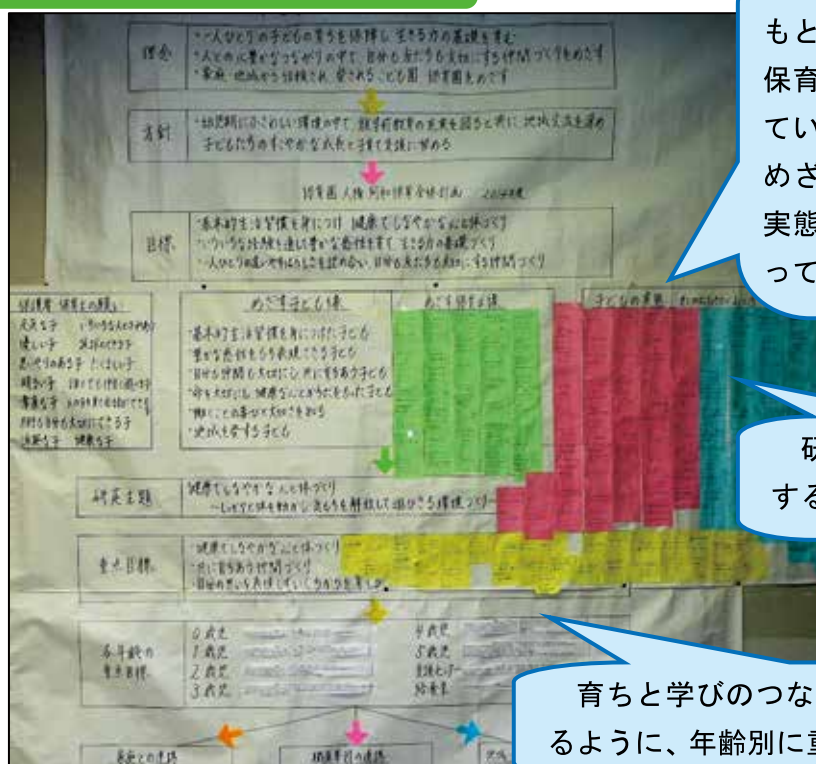
第Ⅱ章 園の特色ある取組

1 教職員の共通理解のための取組

教職員の専門性を高めることができる場の一つが園内研修です。全教職員が共通理解をして、教育・保育ができるよう、研修体制を整備し、研修の内容や方法を工夫している園の取組を紹介します。

(1)「めざす子どもの姿」の共通理解

設置者の「めざす姿」と園の取組

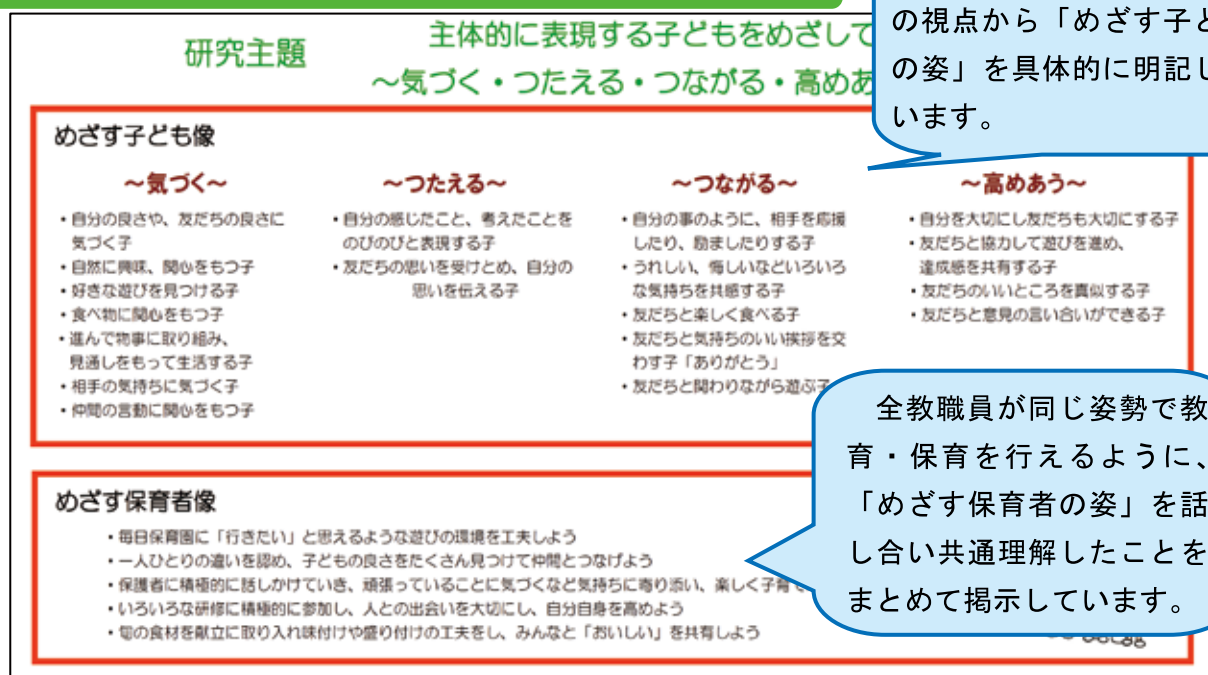


設置者の保育理念や方針をもとに、園の特色ある教育・保育へ展開することをねらっています。めざす子どもの姿、めざす保育者の姿、子どもの実態などを全教職員で話し合っています。

研究主題や重点項目を決定する際にも活用しています。

育ちと学びのつながりや連続性を意識できるように、年齢別に重点目標を挙げています。

研究主題と「めざす子どもの姿」「めざす保育者の姿」



研究主題につながる4つの視点から「めざす子どもの姿」を具体的に明記しています。

全教職員が同じ姿勢で教育・保育を行えるように、「めざす保育者の姿」を話し合い共通理解したことをまとめて掲示しています。

「めざす子どもの姿」と各年齢の取組



年齢ごとに、活動に対する保育者の意図や子どもの様子を写真や文章で記載しています。

園の研究テーマに沿い、視点を絞って「めざす子ども像の姿」を明確にしています。



- 全教職員が一貫した視点を持ち、育ちと学びのつながりを意識して教育・保育に取り組むことができます。
- 園の研究テーマに基づき、話し合ったことや共通理解した内容を掲示することで、いつでもめざす姿を確認しながら教育・保育を行うことができます。
- 子どもの生活や遊びの様子を写真や説明を付けて掲示することにより、保護者が子どもの発達や日々の教育・保育の内容に関心を持ち、園の取組を理解することにつながります。

『遊びきる子ども』の具体的な姿

遊びが充実しているときの子どもの姿

- A 遊びに意欲的に取り組む
- B 同じことを飽きることなく何度も繰り返す、失敗しても繰り返す
- C 「心が動く」ことで遊びに楽しさを感じる
- D 時間がたつのを忘れるほど集中する
- E 目標やめあてをもつ
- F 「もっと～したい」という思いが出てくる
- G 遊びに必要なものがわかり、準備する
- H 場、素材や道具を使いこなす
- I 友だちと一緒に遊ぶ楽しさを味わう
- J 友だちと思いを調整しながら、やりたいことを実現する
- K 充実感、達成感を味わう
- L 今までの経験を生かす、経験がつながっている
- M 新しい遊びを創り出す

など

具体的な姿を全教職員で話し合い、作成しています。子ども一人一人の興味・関心に応じた援助や環境の構成の在り方を考える時に活用し、より質の高い学びにつなげるよう意識しています。

遊びきる子ども

自己発揮

- ・一つの遊びをじっくりと楽しむ（集中、夢中）
- ・表情豊かに思いを表現する（表現、表情豊か）
- ・同じ遊びを繰り返してやる（挑戦、繰り返す、あきらめない）
- ・遊びの主役になる（充実感）
- ・〇〇したい！と遊びのイメージを持ち、やろうとする（意欲的）

友だちとの関わり

- ・遊びに友だちを誘い込む（協力）
- ・アイデアを出し合って、遊びを進める（共感、共有）
- ・一緒にやろう！と友だちを誘い、意欲的に行動する（意欲的）
- ・遊びの中で、友だちと喜び合い共感する（協力）

- ・遊びの中心となり、展開していく（見通し）
- ・疑問に思ったことや解決できないことを周りの人に聞き、やってみようとする（挑戦、繰り返す、あきらめない）
- ・友だちと関わり、意見を出し合いながら、一緒に遊びをやり遂げていく（協力）

- ・きらきらと目を輝かせ夢中で遊ぶ（集中、夢中）
- ・同じ遊びを繰り返して楽しむ（挑戦）
- ・遊びの時の表情がいきいきとしている（表現、表情豊か）

<過程の中で>

- ・失敗しても、最後まで満足するまでやり遂げる（挑戦、繰り返す、あきらめない）
- ・やりたいことがどうやったら出来るか考え、工夫しようとする（試す、工夫、探究心）
- ・やった！ できた！ おもしろかった！ など子ども自身で発した時（満足、達成感）
- ・楽しかった活動を振り返り、保育者や家族に伝えようとする（共感、共有）
- ・時間がたつのを忘れるほど、集中して遊ぶ（集中、夢中）
- ・心地よい空腹感、疲労感を感じる（満足、達成感）

満足感・達成感

園が大切にしている項目ごとに具体的な子どもの姿を話し合い、図に表しています。

●子どもたちの具体的な姿を話し合い、表や図に表すことで、共通理解して日々の教育・保育の改善に取り組み、「遊びの充実」につなげることができます。

(2) 研究主題・研究内容に沿った指導計画の作成

研究主題に沿った「めざす子どもの姿」

(2) 各年齢のめざす子どもの姿(表現領域) (参考: 幼稚園教育要領・幼稚園教育実践力アップ)

研究主題 生き生きと自分を表現する力を育てるために

	2歳半～3歳児	3歳児	4歳児	5歳児
興味・関心	・季節ごとの自然物に触れようとする。	・季節ごとの自然物に触れようとする。	・天気や気温の変化を感じ取ろうとする。	・様々な音、色等に気づき、遊びに役立てようとする。
表現	・いろいろなことに興味を持ちようとする。	・いろいろなことに興味を持ちようとする。	・いろいろなことに興味を持ち、発見したことを友達や保育者に伝える。	・いろいろなことに興味を持ち、試したり工夫したりしようとする。

研究主題と園の保育課程・教育課程や各年齢の年間指導計画とのつながりを考えています。

A 園

話し合いをもとに、園の子どもの実態に合わせて作成・修正しています。

研究主題 生活や遊びを通して 豊かな言葉を育む ～ 心が動く体験を通して ～		
心地よいかかわり 心ときめく体験 豊かな言葉		
3歳 めざす子どもの姿(書いて読む)		
自分の思いや感じたことを言葉にだして表現しようとする。		
①心地よいかかわり 思いや感じたことをありのまま受け止めてもらうことで安心して言葉で表現しようとする。	②心ときめく体験 教師や友だちの言葉による表現を聞きながら、自分の考えを言葉で表そうとする。	③豊かな言葉 絵本や物語などを聞く中で、新しい言葉や美しい言葉に
4歳・・・遊びの中で思ったことを言葉で表現しようとする。教師や友だちの話を注意して聞き内容を理解しようとする。		
①心地よいかかわり 言葉を使って表現する意欲をもち、相手の言葉にこたえようとする。	②心ときめく体験 自分の気づきや考えから、新たなやりとりが生まれ、活動が深められていく満足感や味わいある表現をしようとする。	③豊かな言葉 様々な言語活動の中で、聞き取りや話し、リズムの楽しさなどを通して言葉の世界の魅力を
5歳・・・自分の気持ちを相手にわかるように話そうとする。言葉で伝えようとする。		
①心地よいかかわり 自分の感じたことや考えたことを言葉で表現しようとする。	②心ときめく体験 体験を言葉で表現しようとする。	③豊かな言葉 絵本や物語などを通して、自分の生活や体験と関わりあわせ

B 園

各年齢の系統性を表した年間計画

平成27年度 運動あそび年間計画

目標		内容				
年間目標		2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	6歳児
自然との遊び	・植物	・観察し、名前を覚える。	・観察し、名前を覚える。	・観察し、名前を覚える。	・観察し、名前を覚える。	・観察し、名前を覚える。
	・動物	・観察し、名前を覚える。	・観察し、名前を覚える。	・観察し、名前を覚える。	・観察し、名前を覚える。	・観察し、名前を覚える。
歩く・走る	・歩く	・歩く	・歩く	・歩く	・歩く	・歩く
	・走る	・走る	・走る	・走る	・走る	・走る
たわむ	・たわむ	・たわむ	・たわむ	・たわむ	・たわむ	・たわむ
	・遊ぶ	・遊ぶ	・遊ぶ	・遊ぶ	・遊ぶ	・遊ぶ
リズム遊び	・リズム遊び	・リズム遊び	・リズム遊び	・リズム遊び	・リズム遊び	・リズム遊び
	・リズム遊び	・リズム遊び	・リズム遊び	・リズム遊び	・リズム遊び	・リズム遊び
ボール	・ボール	・ボール	・ボール	・ボール	・ボール	・ボール
	・ボール	・ボール	・ボール	・ボール	・ボール	・ボール
マット	・マット	・マット	・マット	・マット	・マット	・マット
	・マット	・マット	・マット	・マット	・マット	・マット
平均台	・平均台	・平均台	・平均台	・平均台	・平均台	・平均台
	・平均台	・平均台	・平均台	・平均台	・平均台	・平均台
フープ	・フープ	・フープ	・フープ	・フープ	・フープ	・フープ
	・フープ	・フープ	・フープ	・フープ	・フープ	・フープ
なわ	・なわ	・なわ	・なわ	・なわ	・なわ	・なわ
	・なわ	・なわ	・なわ	・なわ	・なわ	・なわ
プッシュ	・プッシュ	・プッシュ	・プッシュ	・プッシュ	・プッシュ	・プッシュ
	・プッシュ	・プッシュ	・プッシュ	・プッシュ	・プッシュ	・プッシュ
すべり台	・すべり台	・すべり台	・すべり台	・すべり台	・すべり台	・すべり台
	・すべり台	・すべり台	・すべり台	・すべり台	・すべり台	・すべり台
鉄棒	・鉄棒	・鉄棒	・鉄棒	・鉄棒	・鉄棒	・鉄棒
	・鉄棒	・鉄棒	・鉄棒	・鉄棒	・鉄棒	・鉄棒
砂	・砂	・砂	・砂	・砂	・砂	・砂
	・砂	・砂	・砂	・砂	・砂	・砂
水遊び	・水遊び	・水遊び	・水遊び	・水遊び	・水遊び	・水遊び
	・水遊び	・水遊び	・水遊び	・水遊び	・水遊び	・水遊び

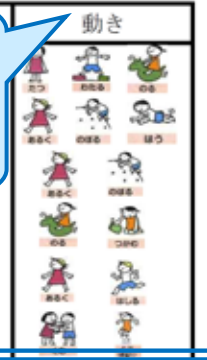
多様な動きにつながるよう、発達段階に合わせて遊具等を使った遊びも項目に入れ、活用しています。

園の環境に合わせた年間計画

あそび年間計画（５歳児）			
	第Ⅰ期（４月～６月）	第Ⅱ期（７月～９月）	第Ⅲ期（１０月～１２月）
ねらい	○戸外ですんで体を動かして遊ぶことを楽しむ。 ○友達と簡単なルールを確認したり伝え合ったりしてルールを意識して遊びをすすめようとする。	○季節ならではのさまざまな遊びを通して思いきり活動する楽しさを味わう。 ○自分なりのめあてをもっていろいろな遊びに繰り返し取り組む。	○友達と積極的に体を動かす運動に取り組み、競い合ったり、ルールを作ってみんなで遊んだりすることを楽しむ。 ○自分なりのめあてをもっていろいろな遊びに繰り返し取り組む。
活動的なあそび	○ルールを守って遊ぶ。 ・おにごっこ（木おに、バナナおに、色おに） ・しっぽとり、フルーツバスケット ○やってみよう。 ・縄跳び（前とび、後ろとび、駆け足とび） ・ボール遊び（転がす、ける、つく、投げる） ・竹馬	→（助けおに、手つなぎおに、陣取り） ○かいたいっせいのぞろろ。 ・リレー（エンドレス、チーム、リレー） ・大綱とび、片足とび ・よける、受ける、当てる ○気持ちいいな ・プール遊び（潜る、浮く、けのび） ・小学校のプールでのびのびの遊び	○いろいろな遊びで遊ぶ。 ・サーキット遊び
こまあそび	○一輪車		
探検的なあそび	・リサイクル材を使って製作 ・積み木、折り紙 ・レゴブロック、ラキュー	○作ったもの ・車、舟、色染め遊び	
表現あそび	○リズムにのって。 ・公園にいこう、めざせチャンピオン ○いろいろな素材や用具を使って ・のり、はさみ、絵の具、サインペン、クレパス ○楽器によれて ・箏笛演奏（太鼓、鍵盤ハーモニカ、ベルリラ）	・はやね、 ○みんなであそぼう ・竹太鼓 ・鳴子おど	

身につけさせたい動きを明記した指導計画

平成２７年度 運動あそび指導計画（０・１歳）

		動き
５月・６月	○先生との触れ合いあそび ・マット…動物模倣（馬、凸凹道歩き、 ・積み木…積み木歩き、 ・バスタオル…持ち手を付けて引っ張る（ジェットコースター） ・追いかけっこ…先生まで歩いていく ・手つなぎジャンプ ・タオル…両端を持ち合い引っ張り合い ・ひざ上バランス	
	○水遊び ・玩具を使って ・水に慣れる	
	○運動会に向けた取り組み	
	○先生との触れ合いあそび ・マット…動物模倣（馬、大きいペンギン、凸凹道歩き、お山登り、階段登り） ・積み木…段差歩き、階段登り	
７月	○階段登り（積み木） ※手は使わず足だけで登る。（子どもの足で登る）	
９月	○手つなぎジャンプ ※子どもがジャンプしやすいように少	
		共通理解して使えるものとなるよう、写真を使って「動き」をイメージしやすくしたり、指導のポイントを示したりしています。

遊びや生活の連続性を考慮した題材一覧

平成27年度 読み聞かせ題材一覧表

	4月	5月	6月	7月	
子どもの 情操を 育む活動	始業式 入所・入園式 春見つけ こいのぼり製作	いちご摘み 親子遠足（長） 栽培活動	ちまき作り 新聞遊び 人形劇 内科・歯科検診 プール開き	お泊り保育（長） みどりっこ祭り 笹飾り 海又は川へ園外保育	敬老会 伝承遊び
	遊び、シャボン玉、色水遊び、寒天遊び など				
関連する 絵本					
2歳 満3歳児	どーこだどこだ いないいないばあ くつくつあるけ	くだもの はらへこあおむし ぐるんぼのようちえん	どろんこももんちゃん つちどずん くもくん	うさこちゃんとうみ パオちゃんのなつまつり きんぎょがにげた ねないこ どこだ かくれんぼももんちゃん	ふうせんまて〜 たまごのあかちゃん
3歳児	ノンタンシリーズ ももんちゃんシリーズ とりかえっこ そうくんのおさんぽ はらへこあおむし	えんそくバス いちご くきむらのむしたち なにをたべてきたの？ ちいさいねこ	どろんこだ いずきもく もくだい やさいのおなか ごろごろにゃーん かぼくん	もうおねしょしません がたごがたご おばけのてんぷら そらめくんのベッド 三ひきのこぶた	おつききまてどんない じ さつぽのおいも おなべおなべにえたか な？ しょうぼうじどうしゃ ぶた
4歳児	ありのぎょうれつ はなのさくえぼん ちいさなたんけんたい くれよんのくろくん	ぽんぽんたのたんぽぽ めだかのぼうけん まあちゃんのぼうけん	たなばたプールびらき どろんこおそうじ おじさんのかさ せんたくかあちゃん ふしぎなナイフ	ぐりとぐらのかいすいよく つやつやなす めっきらもっくらおんどん 11ひきのねこ にじいろのさかな 10ひきのおばけとすすおばけ	まあちゃんのながいがい たべものたび
5歳児	ぼくのえんそく けんかのきもち とんことり だんごむしみつたよ おおきくなるっていう ことは	ちいさいたね ぜんべいじいさんのいち ご いちもうとのにゅういん ふたちはともだち かいじゅうたちのいると ころ おしゃべりなたまごやき	たんぽのかえるだいへ んしん はははのはなし はなのあなのはなし どろだんご かぐのとも きゅう きゅうぼこ はじめてのキャンプ	くらげゆらゆら かのににか 青いやどかり おしいれおばけ スイミー おしいれのぼうけん	しっほのはたらき からすのパンや 地球を回る わたし いのちのまつり おおきなおおきなおい
通年 読みたい 絵本	<2歳満3歳> なにか なにか さよなら さんかく ごあいさつ なあに	もも もももも みんな とぶよ		<3歳児> おおきなかぶ ぐりとぐらシリーズ おおき	

季節や行事に合わせて
絵本を選び、読み聞かせす
る時に活用しています。

園の研究の柱を明記し
ています。

活用しやすいよう、職員室の
壁面に掲示しています。

- 園の研究テーマに沿って、めざす子どもの姿を系統的・計画的に作成することで、見通しをもち、一貫した教育・保育を行うことができます。

2 保護者の理解・啓発に向けた取組

園がどのような考えのもと、教育・保育を行っているかをわかりやすく保護者に伝えることは、保護者の理解と協力を得て、よりよい園づくりを進めるための有効な手段です。園の方針や保育者の思いを伝えるために工夫した取組の一部を紹介します。

(1) 教育・保育方針を伝える

園の教育・保育方針と子どもの姿

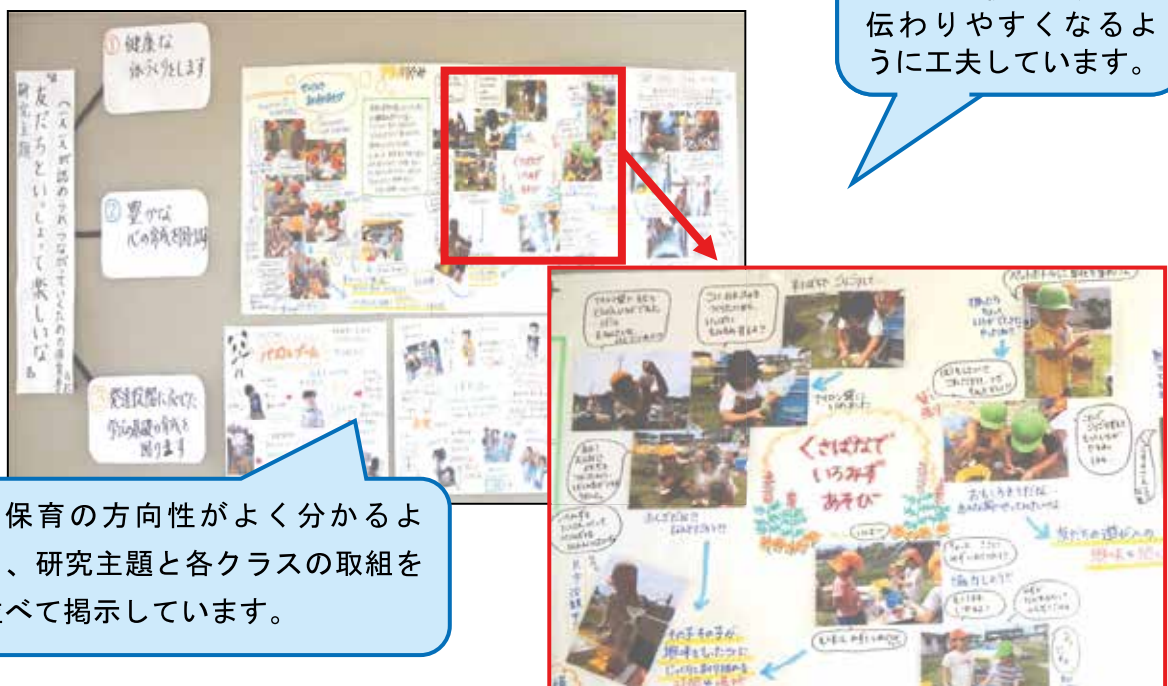
保護者に伝わりやすいように、子どもの写真を添えて掲示しています。



(2) 研究主題・研究内容を伝える

園の研究主題と学びの姿

写真や吹き出しを使って、子どもの言葉や学びの視点が、より伝わりやすくなるように工夫しています。



保育の方向性がよく分かるよう、研究主題と各クラスの取組を並べて掲示しています。

遊びの中で育てたい力



実施した活動を子どもの写真を使って年齢別に掲示していきます。

家庭で話題にし、取り組むきっかけとなっています。

(3) 園の具体的な取組を伝える

おすすめの絵本コーナー



園の研究テーマに沿って、読んで欲しい絵本を紹介しています。

迎えにきた保護者が子どもと一緒に絵本を選び、自由に読むことができるようなコーナーを設けています。

おすすめの絵本についてのコメント

りんごがドスン
 野原に大きなりんごが落ちてきました。ドスン。ちぐらがやってきてりんごを食べていると、次に、あり、はち、りすなどのいろんな動物がやってきて、りんごを食べます。すると大嵐、雨が降ってきてでも大丈夫。みんなで、りんごの下で仲良く雨宿り。
 動物たちの姿を通して、みんなで遊ぶことの楽しさや、友だちへの思いやりを感じることが出来ます。



「〇月のめざす姿」として、全年齢共通の
今月の約束、各年齢の目標やめざす子どもの
姿を掲載しています。

平成 27 年 10月のめざす姿

ふじ組(5歳児)



* 今月のやくそく *

くつをどうえよう

【※…子どもの姿 ○…保育者のかかわり】

運動会をしよう～運動会の余韻を楽しむ

- 勝ち負けよりも目標に向かって頑張ったり、元気いっぱい最後までやり遂げたり、今までの経験を生かして楽しい運動会にする。
- 友だちの頑張っている様子を応援したり、分担した役割に取り組んだり、みんなで力を合わせる大切さを感じる。
- 運動会をやり遂げ、自信がつく。自分たちで新しいルールを考え、内容を深めながら余韻を楽しむ。その中で力を発揮していきそう楽しく遊ぶ。
- 目標を持って頑張る姿を認めたり、みんなで力を合わせる経験を大切に進める。
- 運動会を再現したり、さらに新しい遊びに変化を加えていけるように必要なものを一緒に考え準備する。
- マラソンにチャレンジする中で、頑張れる自分を知ったり、目標を達成する喜びを感じたりできるよう関わる。

生活習慣

- 上靴やスリッパをそろえて気持ち良さを感知、習慣にする。
- 当番の仕事を意欲的に取り組み、気づいたことを伝え合う。
- 履物をきちんと履いたり、そろえたりで意識できるように声をかけていく。

- かけっこやリレー、パルーンやなわとびなど目標を持って取り組んだり、太鼓や竹で白鳥太鼓を楽しんだり、自分たちで運動会をしようという気持ちが少しずつ高まっていく。楽しく頑張りがちな運動会後も運動的な遊びに意欲的に挑戦したり、友だちと簡単なルールのある遊びを展開して楽しむ姿、共通の目的に向かって工夫して遊んだりする姿も見られるようになる。
- 身近な自然の中で木の実や生き物などを見つけて秋の自然に触れる。畑では大小、様々な形のさつま芋が育ち、いよいよ待望のいも掘りをする。楽しみに迎えて実りの秋を喜び合う。

今月の目標

- 自分の思いを出したり、友だちの考えやイメージに気づいたりしながら、共通の目的に向かって一緒に遊びを進める楽しさを味わう
- 遊びや食を通して秋の季節を感じる



秋の自然や恵みに感謝する

- 園外散歩をしたり、チクタク山を探索して遊んだりする中で木の実を見つけたり、虫に出会ったり秋の自然にたくさん触れて遊ぶ。
- 水やり、草とりなど収穫までの過程を思い起こしながら芋ほりをし、収穫の喜びを一層深める。芋づる料理や芋を使ってご馳走をつくり、おいしさを味わう。
- 農作業の苦労を感じながら、お米の収穫を体験する。
- 季節の変化を感じて、身近な秋の自然に十分触れられる場を大切に、興味や疑問を探索していけるようにする。収穫物は、素材の味を生かしてクッキングをし、おいしさを味わえるようにする。
- 遊びの中でお互いの考えに気づき、イメージを伝えて遊ぶように一人一人の動きや言葉を確認しながら仲立ちしていく。

♪今月のうた♪

・どんぐりころころ

・さんぽ

チャレンジしよう!!

マラソン

下旬号

保護者に今月の
目標とそれに対する
子どもの様子を
知らせるため、クラ
スだよりを毎月2
回発行しています。

平成27年10月26日

ふじ組だより

気温がぐっと下がり始め、季節は秋へと向かってきましたね。園庭には、何のプラタナスの葉も落ちてしまっています。子どもたちの秋の遊びは静かになっていきます。色鮮やかな葉の落ちる様子は、秋祭りのおみこし飾りに使ったり、工作の材料になったり、葉を山を作ったりと遊びが広がります。プラタナスの葉は大きく、沢山あるので、踏んで音や感触を楽しんだり、運送にして寝転んだりしながら楽しみます。「先生、落ち葉を集めるの出て」と言ってくる子どもも、一つ両手を出すと、僕も私も、落ち葉集めの大会が始まります。両手の使い方もあるもので、あっという間にたくさんの落ち葉が集まりました。積みあげた落ち葉の上に寝転がると、全身がすっばりと隠れます。先生を呼んできかせたり、もぐったり、飛び込んだり、思い切り落ち葉で楽しんでいます。

10月のクッキング

- 梨のケーキ
- 干し柿作り
- 芋づるのポキポキ料理

今年、白鳥の丘の柿の実がたくさんできました。取ってみると「しぶい」と顔をしかねる。でも、「おいしく食べる方法があるんだよ」と干し柿作りに挑戦。日々、そそめしながら甘くなるのを楽しみにしています。

お芋のつるをポキポキたのしみ～♪

梨ケーキパーティー

今年、白鳥の丘の柿の実がたくさんできました。取ってみると「しぶい」と顔をしかねる。でも、「おいしく食べる方法があるんだよ」と干し柿作りに挑戦。日々、そそめしながら甘くなるのを楽しみにしています。

ラン・ラン・RUN

10月のチャレンジは「マラソン」。園庭や大学周辺を歩いて走ってみました。息を切らせながらも、走りきった後の園庭の笑い、「疲れるけど、走るのが楽しい」とつぶやく子ども達。大平山遠足でも往復コースを歩き切り、体力が付いてきたなと感じました。気持ちの良い季節、お家の周りでも一緒に走ってみたいかな。

お米ができたよバーンザイ!!

今年も園庭裏の申本さんにお世話になり、お米栽培ができました。10月15日には稲刈りをさせていただきました。みんなで協力しながらやり遂げました。刈った後はコンバインが登場し、稲穂の動きに目を輝かせる子ども達。稲穂の様子をじっくり見ていました。今日は収穫祭があります。おにぎりとお汁作りを行います。新米の味が楽しみです。



今月の目標に対する子どもの姿や活動の様子などを掲載します。
園が大切にしていることや子どもの様子が伝わるように工夫しています。

保育参加日

●日保守参事について（ご協力・お返し）

- | 1. 一般の放映 | | 2. 特別上映・再上映 | |
|----------|---------------|-------------|------|
| ～9:00 | 公開 | ～9:00 | 特別上映 |
| 9:20 | 宮城野子(1) 宮城野子 | 9:30 | 特別上映 |
| 9:40 | 宮城野子(2) 宮城野子 | 9:45 | 特別上映 |
| 10:00 | 宮城野子(3) 宮城野子 | 10:00 | 特別上映 |
| 10:15 | 宮城野子(4) 宮城野子 | 10:15 | 特別上映 |
| 10:30 | 宮城野子(5) 宮城野子 | 10:30 | 特別上映 |
| 10:45 | 宮城野子(6) 宮城野子 | 10:45 | 特別上映 |
| 11:00 | 宮城野子(7) 宮城野子 | 11:00 | 特別上映 |
| 11:15 | 宮城野子(8) 宮城野子 | 11:15 | 特別上映 |
| 11:30 | 宮城野子(9) 宮城野子 | 11:30 | 特別上映 |
| 11:45 | 宮城野子(10) 宮城野子 | 11:45 | 特別上映 |
| 12:00 | 宮城野子(11) 宮城野子 | 12:00 | 特別上映 |
| 12:15 | 宮城野子(12) 宮城野子 | 12:15 | 特別上映 |
| 12:30 | 宮城野子(13) 宮城野子 | 12:30 | 特別上映 |
| 12:45 | 宮城野子(14) 宮城野子 | 12:45 | 特別上映 |
| 13:00 | 宮城野子(15) 宮城野子 | 13:00 | 特別上映 |
| 13:15 | 宮城野子(16) 宮城野子 | 13:15 | 特別上映 |
| 13:30 | 宮城野子(17) 宮城野子 | 13:30 | 特別上映 |
| 13:45 | 宮城野子(18) 宮城野子 | 13:45 | 特別上映 |
| 14:00 | 宮城野子(19) 宮城野子 | 14:00 | 特別上映 |
| 14:15 | 宮城野子(20) 宮城野子 | 14:15 | 特別上映 |
| 14:30 | 宮城野子(21) 宮城野子 | 14:30 | 特別上映 |
| 14:45 | 宮城野子(22) 宮城野子 | 14:45 | 特別上映 |
| 15:00 | 宮城野子(23) 宮城野子 | 15:00 | 特別上映 |
| 15:15 | 宮城野子(24) 宮城野子 | 15:15 | 特別上映 |
| 15:30 | 宮城野子(25) 宮城野子 | 15:30 | 特別上映 |
| 15:45 | 宮城野子(26) 宮城野子 | 15:45 | 特別上映 |
| 16:00 | 宮城野子(27) 宮城野子 | 16:00 | 特別上映 |
| 16:15 | 宮城野子(28) 宮城野子 | 16:15 | 特別上映 |
| 16:30 | 宮城野子(29) 宮城野子 | 16:30 | 特別上映 |
| 16:45 | 宮城野子(30) 宮城野子 | 16:45 | 特別上映 |
| 17:00 | 宮城野子(31) 宮城野子 | 17:00 | 特別上映 |
| 17:15 | 宮城野子(32) 宮城野子 | 17:15 | 特別上映 |
| 17:30 | 宮城野子(33) 宮城野子 | 17:30 | 特別上映 |
| 17:45 | 宮城野子(34) 宮城野子 | 17:45 | 特別上映 |
| 18:00 | 宮城野子(35) 宮城野子 | 18:00 | 特別上映 |
| 18:15 | 宮城野子(36) 宮城野子 | 18:15 | 特別上映 |
| 18:30 | 宮城野子(37) 宮城野子 | 18:30 | 特別上映 |
| 18:45 | 宮城野子(38) 宮城野子 | 18:45 | 特別上映 |
| 19:00 | 宮城野子(39) 宮城野子 | 19:00 | 特別上映 |
| 19:15 | 宮城野子(40) 宮城野子 | 19:15 | 特別上映 |
| 19:30 | 宮城野子(41) 宮城野子 | 19:30 | 特別上映 |
| 19:45 | 宮城野子(42) 宮城野子 | 19:45 | 特別上映 |
| 20:00 | 宮城野子(43) 宮城野子 | 20:00 | 特別上映 |
| 20:15 | 宮城野子(44) 宮城野子 | 20:15 | 特別上映 |
| 20:30 | 宮城野子(45) 宮城野子 | 20:30 | 特別上映 |
| 20:45 | 宮城野子(46) 宮城野子 | 20:45 | 特別上映 |
| 21:00 | 宮城野子(47) 宮城野子 | 21:00 | 特別上映 |
| 21:15 | 宮城野子(48) 宮城野子 | 21:15 | 特別上映 |
| 21:30 | 宮城野子(49) 宮城野子 | 21:30 | 特別上映 |
| 21:45 | 宮城野子(50) 宮城野子 | 21:45 | 特別上映 |
| 22:00 | 宮城野子(51) 宮城野子 | 22:00 | 特別上映 |
| 22:15 | 宮城野子(52) 宮城野子 | 22:15 | 特別上映 |
| 22:30 | 宮城野子(53) 宮城野子 | 22:30 | 特別上映 |
| 22:45 | 宮城野子(54) 宮城野子 | 22:45 | 特別上映 |
| 23:00 | 宮城野子(55) 宮城野子 | 23:00 | 特別上映 |
| 23:15 | 宮城野子(56) 宮城野子 | 23:15 | 特別上映 |
| 23:30 | 宮城野子(57) 宮城野子 | 23:30 | 特別上映 |
| 23:45 | 宮城野子(58) 宮城野子 | 23:45 | 特別上映 |
| 24:00 | 宮城野子(59) 宮城野子 | 24:00 | 特別上映 |
| 24:15 | 宮城野子(60) 宮城野子 | 24:15 | 特別上映 |
| 24:30 | 宮城野子(61) 宮城野子 | 24:30 | 特別上映 |
| 24:45 | 宮城野子(62) 宮城野子 | 24:45 | 特別上映 |
| 25:00 | 宮城野子(63) 宮城野子 | 25:00 | 特別上映 |
| 25:15 | 宮城野子(64) 宮城野子 | 25:15 | 特別上映 |
| 25:30 | 宮城野子(65) 宮城野子 | 25:30 | 特別上映 |
| 25:45 | 宮城野子(66) 宮城野子 | 25:45 | 特別上映 |
| 26:00 | 宮城野子(67) 宮城野子 | 26:00 | 特別上映 |
| 26:15 | 宮城野子(68) 宮城野子 | 26:15 | 特別上映 |
| 26:30 | 宮城野子(69) 宮城野子 | 26:30 | 特別上映 |
| 26:45 | 宮城野子(70) 宮城野子 | 26:45 | 特別上映 |
| 27:00 | 宮城野子(71) 宮城野子 | 27:00 | 特別上映 |
| 27:15 | 宮城野子(72) 宮城野子 | | |

2. 内容
千太郎と一緒に遊んだりの経験もあり、千太郎は純粋な少年心で、
何事にも熱中することができた。千太郎の生活は、

- 3、見るポイント
- ・ 全身の様子 (安定した姿勢がとれているか、身の丈に合った姿勢、顔を覗いているかなど)
 - ・ 食事、姿勢、排便、睡眠、おしゃべりなどがあるか
 - ・ 遊びの様子
 - ・ 人との関わり (友だち、お母さん、お父さん、保育士さん)

- 4、用途
·用者半日或更短 ·用于 ·户外用剂，室内用剂
·夏秋时将白粉撒布于蔬菜上(防霉病)

5. 保存期間中の携帯電話は原則使用禁止です。どうしても必要な場合は事前に申し出ていただくこと。

日付	人数	そのファミリー	そのファミリー	参加者
6/10(火)	13人			
7/6(月)	13人			
7/24(金)	10人			
8/6(火)	3人			
9/24(木)	5人			
10/6(火)	42人			
10/26(月)	44人			
11/9(火)	13人			
12/4(月)	4人			
1/16(金)	4人			
2/4(木)	6人			

保護者が都合に合わせて参加する日を選択できるように、保育参加日を数設定しています。

保護者が都合に合わせて参加する日を選択できるように、保育参加日を複数設定しています。

- 「フジヤ」にははじき、のめには入らず、満ち溢れる。
※グループは、修養3人+補助員1人の計4人が基本。
- 参加開始するのは約8時、朝7時、夜8時、夜9時、アンケート用紙、ワークシート。
- トビーズ 11:00~12:00 バブルワーク法(1人、2人、自己紹介+感想
12:30~13:30) ワークシートと自己紹介+感想
- 修養車に 1人乗車は1乗車者で、参加する。
2人乗車は2人乗車に約半と進行する。
2人乗車に2人乗車は、乗車者2人乗車



話しやすい内容・雰囲気づくりを工夫したワークショップを行い、学年を超えた保護者のつながりを生み出せるようにしています。



鳥取県教育委員会が作成し、各園、小学校等へ配布しているこの冊子には、親同士が楽しく交流を深める中で、お互いに支え合える仲間づくりをすすめる参加型プログラムの例を掲載しています。このプログラムを参考に、研修会等を進行することができます。

日々の保育の様子（玄関の掲示コーナー）

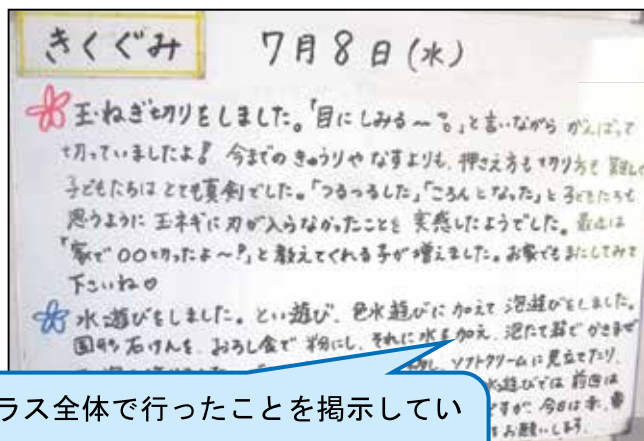
園での活動が家庭にもつながるよう意識して書いています。



保護者同士で、写真や活動内容について会話が弾み、保護者の仲間づくりにもつながっています。

日々の保育の様子（各クラスの保育室前）

子どものつぶやき等を絵と吹き出しで紹介しています。



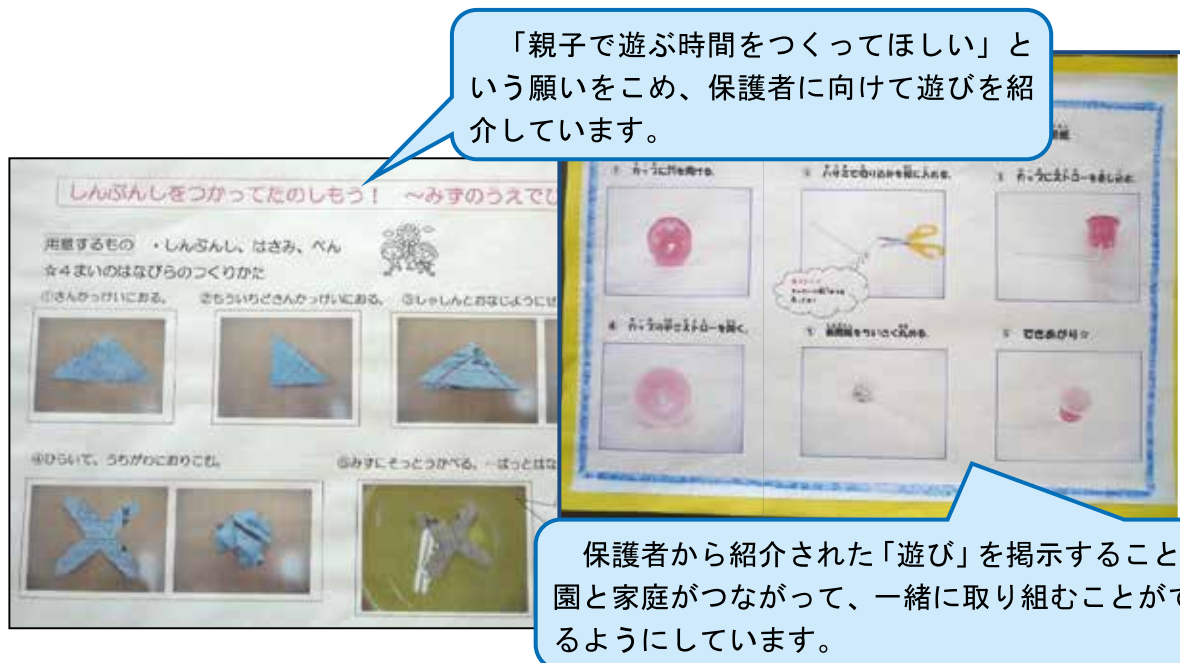
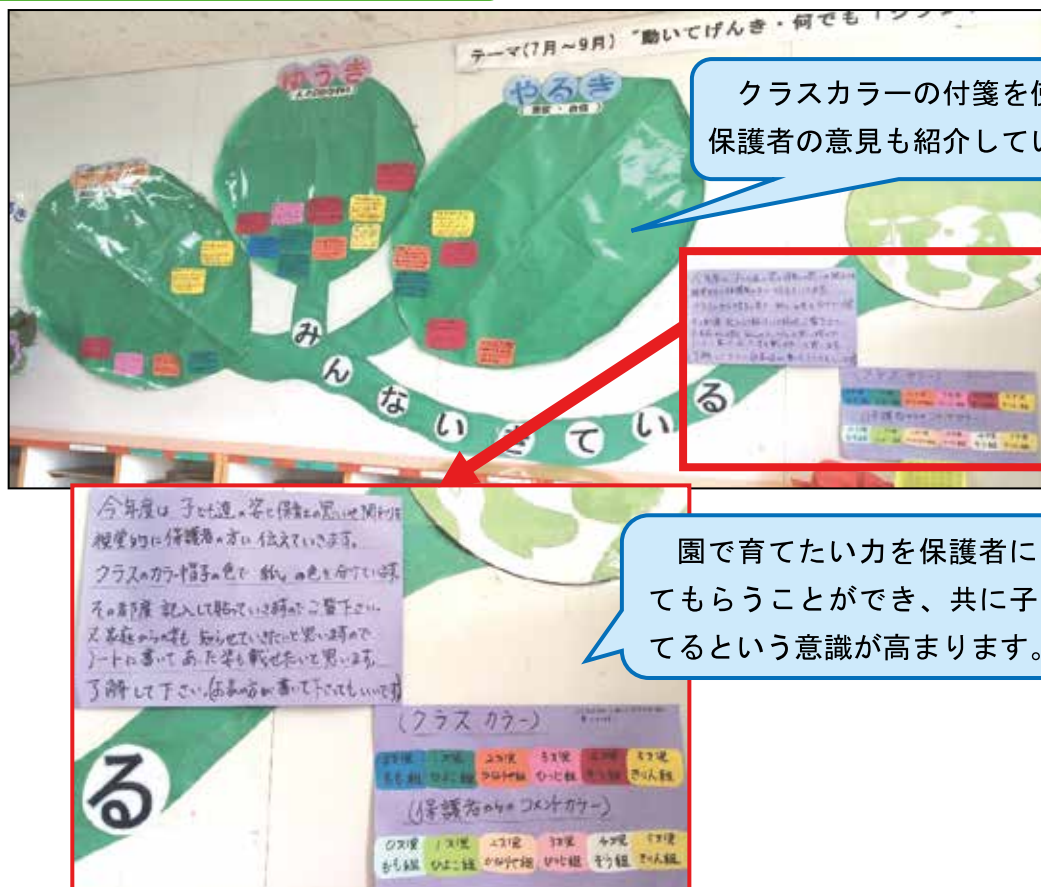
クラス全体で行ったことを掲示しているため、個人の連絡帳には一人一人の具体的な姿を書いています。



- 子どもたちの様子を文や写真、絵等でわかりやすく掲示することで、園で行っている保育について、保護者に関心をもってもらうことができます。
- 保育者の意図や遊びの中で大切にしていること等を伝えることで、保護者に乳幼児期の子どもの学びや育ちを理解してもらうことにつながります。
- 日々の保育の様子を知ってもらうことが、保護者と担任、園の信頼関係づくりへとつながります。

(4) 保護者の意見を生かす

保護者の感想や家庭の取組を紹介



- 園のめざす子どもの姿や成長の様子などを保護者に伝えることで、子どもの成長を共に支えることにつながります。
- 園の取組について工夫してわかりやすく伝えることで、「開かれた園づくり」につながり、保護者の信頼、協力を得ることができます。

3 環境の構成の工夫に向けた取組

ここでは、各園において行われている「主体的な活動を生み出す環境構成の工夫」の一部を紹介します。

(1) 生活に必要な習慣や態度を身に付けていくために

生活環境の工夫



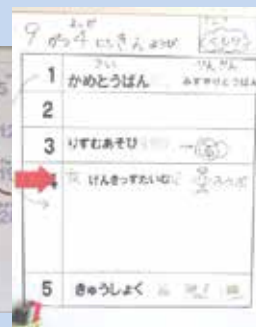
下着の着脱に使う椅子



年齢に合わせた枠



今日が分かるカレンダー
(予定を絵で)



一日のスケジュール表
(絵と文字で)



持ち物を自分で片付けるための掲示



食育コーナー
・ 3色食品群
・ 絵本、図鑑
・ 調理道具
・ 本物の種



子どもが使う道具箱
(写真表示付)



めくると種が
見えます。

(2) 主体的な遊びとするために

園内（屋内）環境の工夫



自由に使える
材料コーナー



テーマをもった
絵本コーナー



図鑑と実物の野菜、虫眼鏡を
設置した観察コーナー



自由に使って遊べる
音楽コーナー



同じ色に片付ける
絵本箱



園に咲いた花の種クイズ



種類や長さを選べる
なわとび



家庭的な雰囲気
のままごとコーナー



本物に近い
野菜・果物コーナー



季節の果物コーナー



指先を使った遊びを
選べるコーナー

園内（屋外）環境の工夫



園庭の実のなる木



高低差のある砂場



そばに高い木のある砂場



盛り土のある砂場



園舎のそばに畑



園児が耕す畑



自然のままの草



園庭に手動式ポンプ



移動式の道具入れ



写真付きの
種類別道具入れ



遊びに使える草



大きさや長さ、
形の違うとい



園庭に築山



遊びに活用できる
園庭の傾斜



園庭の一角に
遊びに使える丸太



園庭と
つながった山



園庭の「ツリーマップ」



園庭の「生き物マップ」



竹馬スタート台



築山で
ウォータースライダー

地域資源の活用

地域にある野山



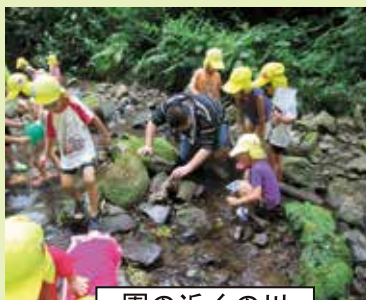
園の近くの山



地域にある漁港



園の近くの川



園の近くの海岸



園の近くの水田



地域にある滝



地域の方との交流
～さつまいも栽培～



地域の方との交流
～ちまき作り～



園外探検をした場所を
子どもが書きこんだ地図



主体的な活動を生み出す環境構成の工夫に向けて

- 自園の子どもの実態・園や地域の特色を生かした取組を進めましょう。
- 幼児の主体性と保育者の意図のバランスを考え、「『自由に』『自分で選んで』使える」という環境の構成を行いましょう。
- 主体的な遊びが展開できるよう、環境の中に教育的価値を含ませながら、保育者が意図して環境を構成していくことが大切です。

4 保育者の資質向上をめざす取組

「園組織としての教育力向上」のためには、園の課題等に合った研修内容や方法、日々の保育・教育の改善につながる園内研修を行うことが大切です。

各園の実態や課題等に合わせて保育者同士が学び合い、研修を充実させるよう工夫している取組を紹介します。

(1) 職員研修の工夫

視点を明らかにした公開保育・研究協議

計画的に見通しをもった園内研修を実施しています。

平成26年度 園内研修計画			
テーマ 楽しく活気ある保育園 ～ 一人ひとりを大切に 育ちをしっかりと見つめよう ～			
園内研修計画			
4月	・テーマ、年間計画の確認 ・各クラスの子どもの姿・目標を明確にする (指針をもとに目標を立てる) ・指導案の書き方	10月	・公開保育 要請訪問担当クラス ・要請訪問の報告
5月	・園内公開保育(未満児) 未満児2クラスエピソード ・トレセミの勉強会	11月	・園内公開保育(以上児) 以上児エピソード
6月	・園内公開保育(以上児) 以上児2クラスエピソード ・主任担当者の会(保育リーダー来園) ・チェックリスト提出(1回)	12月	・演習 ・チェックリスト提出(2回)
7月	・園内公開保育(未満児) 未満児2クラスエピソード 給食職参加	1月	・各
8月	・コアリーダー報告 ・全年齢の子どもの姿の報告 ・中間保育の振り返り(各自)	2月	・ま
9月	・支援の必要な子と集団との関係 講演+勉強会(講師来園)	3月	・来年度の
※ 公開保育を見るポイント ・保育の中での言動が自尊感情を育てていると感じるところを探す ・子ども同士をつなげる言動			

保育を見るポイントを明らかにし、研究のテーマや協議の視点に沿った話し合いができるようにしています。

保育映像を活用した園内研修

午睡の時間を使い視聴しています。

研修を深めるために、保育場面を録画し、映像を視聴した後、協議をしています。



写真を活用した園内研修

参観者が、研究テーマや保育のねらいに沿った子どもや環境（物的、人的）の写真を撮ります。

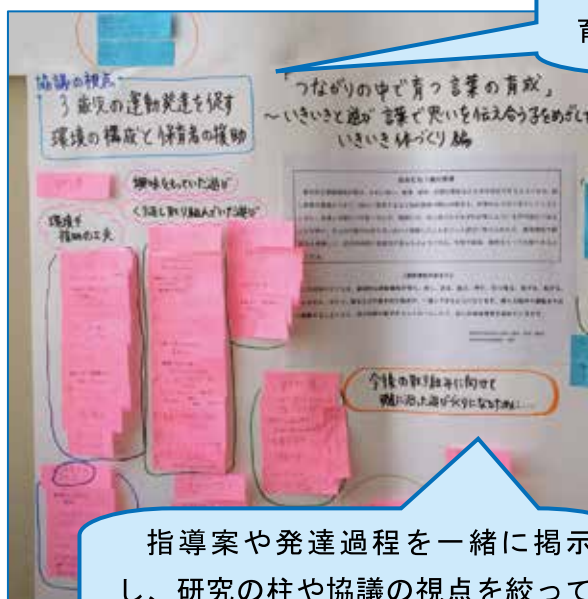


各自が撮影したベストショット写真を使って協議することで、幼児理解が深まり、テーマに沿った話合いとなります。



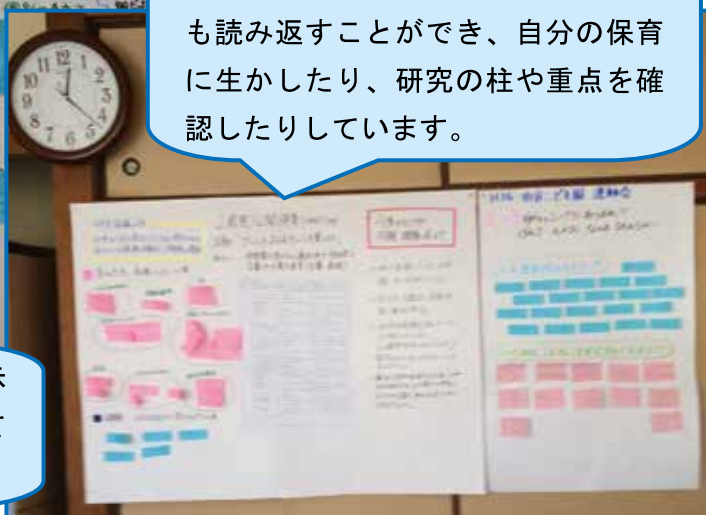
付箋を活用した園内研修

事前に協議の視点を明確にしておき、保育を参観するポイントを絞っています。



指導案や発達過程を一緒に掲示し、研究の柱や協議の視点を絞って協議を行っています。

休憩室に掲示することで、いつでも読み返すことができ、自分の保育に生かしたり、研究の柱や重点を確認したりしています。



- テーマを決めて、同じ保育場面について協議することで、子どもの表情や行動、言葉等についての見方を深めたり、広げたりすることができます。
- 保育映像や写真等を活用することで、子どもの主体的な遊びにつなげるための保育者のかかわりや環境の構成等について具体的に話し合うことができ、保育の幅を広げることになります。
- 掲示物を作成することが、園の教育・保育で大切にしていること（研究テーマ等）や協議の視点を意識して話し合うことにつながります。
- 付箋に書いたことを発表したり、紙面にまとめながら協議したりすることで、ポイントを押さえて意見をまとめる力が身につきます。

第Ⅱ章 園の特色ある取組

実践事例

指導案の一部

地域の年齢別研修など、
同じ様式で事例を作成し、
他園と共通テーマで研修を
行う際の素材としても活用
しています。

【遊びの経過】

【ねらい】

自分の好きな動物になりながら、簡単な言葉遊びを楽しむ。

【○幼児の活動】	★環境の構成	■保育者の援助【】
★劇遊び「てぶくろ」に沿ったペープサートを準備する。リズム遊び中はピアノを弾くなど楽しい雰囲気を作る。 ○ペープサートを見て楽しむ。 ○動物になりきりながらリズム遊びをする。 次はこんな動物がしたい。 【音楽】 【イメージの表現】 僕もやってみよう。 【異味・関心】 【チャレンジ】  ザリガモはこんなふうに動くよ。 【提案】【思考】【気づき】 【動きの工夫】		■飼育した生物など子どもたちの身近な動物をペープサートに、イメージがわかりやすいようにする。 ■ピアノの音楽に合わせて、楽しんでなりきり遊びが出来るようにする。 ■とまどっている子どもにはそばについたり手をつないだりして一緒に楽しんでいく。 ■子どもたちの言葉聞きながら動物の動きをみながら考えていく。 ■友だちの動きの工夫に注目できるように言葉をかけていく。 ■自分で描いた好きな動物をお面にしてつけることで、よりイメージに合わせた動きをしたり、劇遊びにつながる言葉が出たりするようにする。
★段ボールの箱を動物のおうち（手ぶくろ）に見立てる。 みんなでてぶくろを運ぼう。【協力】  ちようさいだあ。（わっしょい） 【通過の目的】	いれて、いいよ。 【人との関わり】  せまいよ。 【気づき】【驚き】 もう議員です。【共有】	■てぶくろを子どもたちと「ちようさいだあ。（わっしょい）」などがけ声を言いながら遊ぶ。 ■「いれて」「いいよ。」など、言葉のやり取りを楽しんでいくことができるようにする。 ■いっしょに楽しみながら、子どものイメージを受け止め、自分の感じたことや思ったことを言葉に出来るようにしていく。 てぶくろ、あったかいな。 【遊び】
【評価】 ・自分の好きな動物になって、友達と言葉のやりとりを楽しみながら遊んでいる。		

＜成果と課題＞

○子どもの言葉は生活経験や感動体験を通して育まれ、友達や教師との安心感の中で相手に思いを伝える事ができるようになる。子ども達は、表情が思いを共感したり認めたりのことで、自分の思いを相手に伝えることが自信を持ってできるようになってきた。子ども達の驚きや発見・つづきを大切にしながら、会話の展開を楽しませていくことで、話しをしたいと思う意欲が育ってきた。

□子ども達が興味や関心をもてるように、わくわくするような絵本やペープサートなどの教材の準備。
ごっこ遊びが発展する環境の準備など、環境の再考が必要かもしれない。

○人の話を聞くことの楽しさを積み重ねることで、相手の話に集中して聞き取ることが出来るようになり、言葉が豊かになることと感情のコントロールも少しずつ出来るようになってくる。

○聞く姿勢など形からはいるのではなく、自然な声の発達にふさわしい環境とし、意見の交換（コミュニケーション）を通じて関係性を築いていく。

○「言葉」は人と人をつなぐ大切な道具である。言葉で気持ちを伝え合えることは、人間として生きていく上でとても大切なことです。

○言葉は、自分自身を表現し、他者と交流するための重要な手段です。言葉を通じて、自分の考えや感情を伝え、他者の反応を受け取り、関係を築いていくことができます。

○言葉は、社会生活において不可欠なスキルであり、適切な言葉遣いやコミュニケーション能力は、子どもの成長にとって非常に重要です。

○言葉は、文化や価値観を伝える役割を果たしており、異なる背景を持つ人々之间の理解と尊重を促進します。

○言葉は、創造性と想像力を刺激し、新しいアイデアを生み出すための強力なツールとなります。

○言葉は、自己肯定感を高め、自尊心を育てるのに役立ちます。

○言葉は、健康な関係を築く鍵であり、相互理解と信頼の基盤を提供します。

○言葉は、人生の質を向上させるために必要な要素であり、それを効果的に活用することが大切です。

○言葉は、未来を切り拓く力を持ち、希望と夢を実現するための道を開きます。

○言葉は、愛と絆を深める魔法の杖であり、私たちの心を繋ぎ合わせる素晴らしい存在です。

○言葉は、世界を変革するための最も強力な武器であり、正義と平和のために使われるべきです。

○言葉は、知識と経験を共有するための橋渡しとなり、学びの機会を提供します。

○言葉は、個性を発見し、自己表現の自由を保障するために必要不可欠なものです。

○言葉は、多様性を尊重し、包摂的な社会を構築するための重要な要素です。

○言葉は、責任と誠実さを示すための明確なコミュニケーション手段であり、信頼を得るために欠かせません。

○言葉は、勇気と決断を伝えるための強力なツールであり、目標達成のための推進力となります。

○言葉は、感謝の気持ちを表すための美しい言葉であり、人々の心を温かくしてくれます。

○言葉は、謙虚さと礼儀正しさを示すための基本的なマナーであり、社会的に受け入れられるコミュニケーション方法です。

○言葉は、忍耐と寛容さを養うための練習場であり、異なる意見に対処するための貴重な機会を提供します。

○言葉は、好奇心と探求心を刺激し、新たな発見へと導くための素晴らしいガイドとなります。

○言葉は、希望と楽観主義を伝えるための明るいメッセージであり、困難な状況下でも前向きな態度を保つ助けになります。

○言葉は、責任感とリーダーシップを発揮するための重要なスキルであり、チームワークを強化するのに役立ちます。

○言葉は、愛と情熱を注ぎ込むための最高の方法であり、人々の心に深く刻まれるような瞬間を生み出します。

○言葉は、人生の旅路における忠告と指導を提供するための貴重なリソースであり、成功への道を照らす明灯となります。

○言葉は、平和と調和を築くための普遍的な言語であり、すべての人々が理解し合うことができる共通の世界を創ります。

○言葉は、美しさと芸術性を感じさせるための素晴らしい媒体であり、人間の感情と経験を豊かにしてくれます。

○言葉は、責任と義務を説明するための明確なコミュニケーション手段であり、社会的規範を理解するのに役立ちます。

○言葉は、勇気と信念を伝えるための強力なツールであり、変革を起こすための原動力となります。

○言葉は、感謝と敬意を表すための基本的なマナーであり、良好な人間関係を築くための土台を提供します。

○言葉は、好奇心と学習意欲を刺激し、知識の探求を促すための素晴らしいインスピレーション源となります。

○言葉は、希望と夢を語るための美しい物語であり、未来に対する積極的な展望を形作るのに役立ちます。

○言葉は、責任と誠実さを示すための明確なコミュニケーション手段であり、信頼を得るために欠かせません。

○言葉は、愛と情熱を注ぎ込むための最高の方法であり、人々の心に深く刻まれるような瞬間を生み出します。

○言葉は、人生の旅路における忠告と指導を提供するための貴重なリソースであり、成功への道を照らす明灯となります。

○言葉は、平和と調和を築くための普遍的な言語であり、すべての人々が理解し合うことができる共通の世界を創ります。

○言葉は、美しさと芸術性を感じさせるための素晴らしい媒体であり、人間の感情と経験を豊かにしてくれます。

○言葉は、責任と義務を説明するための明確なコミュニケーション手段であり、社会的規範を理解するのに役立ちます。

○言葉は、勇気と信念を伝えるための強力なツールであり、変革を起こすための原動力となります。

○言葉は、感謝と敬意を表すための基本的なマナーであり、良好な人間関係を築くための土台を提供します。

○言葉は、好奇心と学習意欲を刺激し、知識の探求を促すための素晴らしいインスピレーション源となります。

○言葉は、希望と夢を語るための美しい物語であり、未来に対する積極的な展望を形作るのに役立ちます。

○言葉は、責任と誠実さを示すための明確なコミュニケーション手段であり、信頼を得るために欠かせません。

○言葉は、愛と情熱を注ぎ込むための最高の方法であり、人々の心に深く刻まれるような瞬間を生み出します。

○言葉は、人生の旅路における忠告と指導を提供するための貴重なリソースであり、成功への道を照らす明灯となります。

○言葉は、平和と調和を築くための普遍的な言語であり、すべての人々が理解し合うことができる共通の世界を創ります。

○言葉は、美しさと芸術性を感じさせるための素晴らしい媒体であり、人間の感情と経験を豊かにしてくれます。

○言葉は、責任と義務を説明するための明確なコミュニケーション手段であり、社会的規範を理解するのに役立ちます。

○言葉は、勇気と信念を伝えるための強力なツールであり、変革を起こすための原動力となります。

○言葉は、感謝と敬意を表すための基本的なマナーであり、良好な人間関係を築くための土台を提供します。

○言葉は、好奇心と学習意欲を刺激し、知識の探求を促すための素晴らしいインスピレーション源となります。

○言葉は、希望と夢を語るための美しい物語であり、未来に対する積極的な展望を形作るのに役立ちます。

○言葉は、責任と誠実さを示すための明確なコミュニケーション手段であり、信頼を得るために欠かせません。

○言葉は、愛と情熱を注ぎ込むための最高の方法であり、人々の心に深く刻まれるような瞬間を生み出します。

○言葉は、人生の旅路における忠告と指導を提供するための貴重なリソースであり、成功への道を照らす明灯となります。

○言葉は、平和と調和を築くための普遍的な言語であり、すべての人々が理解し合うことができる共通の世界を創ります。

○言葉は、美しさと芸術性を感じさせるための素晴らしい媒体であり、人間の感情と経験を豊かにしてくれます。

○言葉は、責任と義務を説明するための明確なコミュニケーション手段であり、社会的規範を理解するのに役立ちます。

○言葉は、勇気と信念を伝えるための強力なツールであり、変革を起こすための原動力となります。

○言葉は、感謝と敬意を表すための基本的なマナーであり、良好な人間関係を築くための土台を提供します。

○言葉は、好奇心と学習意欲を刺激し、知識の探求を促すための素晴らしいインスピレーション源となります。

○言葉は、希望と夢を語るための美しい物語であり、未来に対する積極的な展望を形作るのに役立ちます。

○言葉は、責任と誠実さを示すための明確なコミュニケーション手段であり、信頼を得るために欠かせません。

○言葉は、愛と情熱を注ぎ込むための最高の方法であり、人々の心に深く刻まれるような瞬間を生み出します。

○言葉は、人生の旅路における忠告と指導を提供するための貴重なリソースであり、成功への道を照らす明灯となります。

○言葉は、平和と調和を築くための普遍的な言語であり、すべての人々が理解し合うことができる共通の世界を創ります。

○言葉は、美しさと芸術性を感じさせるための素晴らしい媒体であり、人間の感情と経験を豊かにしてくれます。

○言葉は、責任と義務を説明するための明確なコミュニケーション手段であり、社会的規範を理解するのに役立ちます。

○言葉は、勇気と信念を伝えるための強力なツールであり、変革を起こすための原動力となります。

○言葉は、感謝と敬意を表すための基本的なマナーであり、良好な人間関係を築くための土台を提供します。

○言葉は、好奇心と学習意欲を刺激し、知識の探求を促すための素晴らしいインスピレーション源となります。

○言葉は、希望と夢を語るための美しい物語であり、未来に対する積極的な展望を形作るのに役立ちます。

○言葉は、責任と誠実さを示すための明確なコミュニケーション手段であり、信頼を得るために欠かせません。

○言葉は、愛と情熱を注ぎ込むための最高の方法であり、人々の心に深く刻まれるような瞬間を生み出します。

○言葉は、人生の旅路における忠告と指導を提供するための貴重なリソースであり、成功への道を照らす明灯となります。

○言葉は、平和と調和を築くための普遍的な言語であり、すべての人々が理解し合うことができる共通の世界を創ります。

○言葉は、美しさと芸術性を感じさせるための素晴らしい媒体であり、人間の感情と経験を豊かにしてくれます。

○言葉は、責任と義務を説明するための明確なコミュニケーション手段であり、社会的規範を理解するのに役立ちます。

○言葉は、勇気と信念を伝えるための強力なツールであり、変革を起こすための原動力となります。

○言葉は、感謝と敬意を表すための基本的なマナーであり、良好な人間関係を築くための土台を提供します。

○言葉は、好奇心と学習意欲を刺激し、知識の探求を促すための素晴らしいインスピレーション源となります。

○言葉は、希望と夢を語るための美しい物語であり、未来に対する積極的な展望を形作るのに役立ちます。

○言葉は、責任と誠実さを示すための明確なコミュニケーション手段であり、信頼を得るために欠かせません。

○言葉は、愛と情熱を注ぎ込むための最高の方法であり、人々の心に深く刻まれるような瞬間を生み出します。

○言葉は、人生の旅路における忠告と指導を提供するための貴重なリソースであり、成功への道を照らす明灯となります。

○言葉は、平和と調和を築くための普遍的な言語であり、すべての人々が理解し合うことができる共通の世界を創ります。

○言葉は、美しさと芸術性を感じさせるための素晴らしい媒体であり、人間の感情と経験を豊かにしてくれます。

○言葉は、責任と義務を説明するための明確なコミュニケーション手段であり、社会的規範を理解するのに役立ちます。

○言葉は、勇気と信念を伝えるための強力なツールであり、変革を起こすための原動力となります。

○言葉は、感謝と敬意を表すための基本的なマナーであり、良好な人間関係を築くための土台を提供します。

○言葉は、好奇心と学習意欲を刺激し、知識の探求を促すための素晴らしいインスピレーション源となります。

○言葉は、希望と夢を語るための美しい物語であり、未来に対する積極的な展望を形作るのに役立ちます。

○言葉は、責任と誠実さを示すための明確なコミュニケーション手段であり、信頼を得るために欠かせません。

○言葉は、愛と情熱を注ぎ込むための最高の方法であり、人々の心に深く刻まれるような瞬間を生み出します。

○言葉は、人生の旅路における忠告と指導を提供するための貴重なリソースであり、成功への道を照らす明灯となります。

○言葉は、平和と調和を築くための普遍的な言語であり、すべての人々が理解し合うことができる共通の世界を創ります。

○言葉は、美しさと芸術性を感じさせるための素晴らしい媒体であり、人間の感情と経験を豊かにしてくれます。

○言葉は、責任と義務を説明するための明確なコミュニケーション手段であり、社会的規範を理解するのに役立ちます。

○言葉は、勇気と信念を伝えるための強力なツールであり、変革を起こすための原動力となります。

○言葉は、感謝と敬意を表すための基本的なマナーであり、良好な人間関係を築くための土台を提供します。

○言葉は、好奇心と学習意欲を刺激し、知識の探求を促すための素晴らしいインスピレーション源となります。

○言葉は、希望と夢を語るための美しい物語であり、未来に対する積極的な展望を形作るのに役立ちます。

○言葉は、責任と誠実さを示すための明確なコミュニケーション手段であり、信頼を得るために欠かせません。

○言葉は、愛と情熱を注ぎ込むための最高の方法であり、人々の心に深く刻まれるような瞬間を生み出します。

○言葉は、人生の旅路における忠告と指導を提供するための貴重なリソースであり、成功への道を照らす明灯となります。

○言葉は、平和と調和を築くための普遍的な言語であり、すべての人々が理解し合うことができる共通の世界を創ります。

○言葉は、美しさと芸術性を感じさせるための素晴らしい媒体であり、人間の感情と経験を豊かにしてくれます。

○言葉は、責任と義務を説明するための明確なコミュニケーション手段であり、社会的規範を理解するのに役立ちます。

○言葉は、勇気と信念を伝えるための強力なツールであり、変革を起こすための原動力となります。

○言葉は、感謝と敬意を表すための基本的なマナーであり、良好な人間関係を築くための土台を提供します。

○言葉は、好奇心と学習意欲を刺激し、知識の探求を促すための素晴らしいインスピレーション源となります。

○言葉は、希望と夢を語るための美しい物語であり、未来に対する積極的な展望を形作るのに役立ちます。

○言葉は、責任と誠実さを示すための明確なコミュニケーション手段であり、信頼を得るために欠かせません。

○言葉は、愛と情熱を注ぎ込むための最高の方法であり、人々の心に深く刻まれるような瞬間を生み出します。

○言葉は、人生の旅路における忠告と指導を提供するための貴重なリソースであり、成功への道を照らす明灯となります。

○言葉は、平和と調和を築くための普遍的な言語であり、すべての人々が理解し合うことができる共通の世界を創ります。

○言葉は、美しさと芸術性を感じさせるための素晴らしい媒体であり、人間の感情と経験を豊かにしてくれます。

○言葉は、責任と義務を説明するための明確なコミュニケーション手段であり、社会的規範を理解するのに役立ちます。

○言葉は、勇気と信念を伝えるための強力なツールであり、変革を起こすための原動力となります。

○言葉は、感謝と敬意を表すための基本的なマナーであり、良好な人間関係を築くための土台を提供します。

○言葉は、好奇心と学習意欲を刺激し、知識の探求を促すための素晴らしいインスピレーション源となります。

○言葉は、希望と夢を語るための美しい物語であり、未来に対する積極的な展望を形作るのに役立ちます。

○言葉は、責任と誠実さを示すための明確なコミュニケーション手段であり、信頼を得るために欠かせません。

○言葉は、愛と情熱を注ぎ込むための最高の方法であり、人々の心に深く刻まれるような瞬間を生み出します。

○言葉は、人生の旅路における忠告と指導を提供するための貴重なリソースであり、成功への道を照らす明灯となります。

○言葉は、平和と調和を築くための普遍的な言語であり、すべての人々が理解し合うことができる共通の世界を創ります。

○言葉は、美しさと芸術性を感じさせるための素晴らしい媒体であり、人間の感情と経験を豊かにしてくれます。

○言葉は、責任と義務を説明するための明確なコミュニケーション手段であり、社会的規範を理解するのに役立ちます。

○言葉は、勇

参観者の意見や感想をもとに、子どもの思いや言葉の意味、学びを実践事例に書いています。

- 21–

第Ⅱ章 園の特色ある取組

–22–

(2) 日々の記録と指導計画

週日案の様式・記載内容の工夫

<週日案>		月	第	週	歳児	組	担任	
活動内容	<行事>							
ねらい								
曜日	月 日 (月)							
設定 重点視点								
ねらい								
活動の流れ	8:30	順次登園		8:30	順次登園		8:30	順次登園
	13:45	順次降園		13:45	順次降園		13:45	順次降園
環境構成								
振り返り	付箋							
欠席園児								

主に5領域や『遊びきる子ども』に向けた10の視点を明記し、内容が偏らないように確認しています。

振り返りをもとに、次の日の活動の流れや環境の構成等を赤字で修正します。

ねらいや視点に対する振り返りを記入しています。

特に残しておきたい子どもの様子は、付箋に書き込み、この週日案に添付しています。

- 子どもの遊びの様子や願いなどをとらえ、幼児の主体性と保育者の意図のバランスを大切に記録を行うことで、短期の指導計画を改善する取組となっています。
- ねらいや重点視点を明らかにすることで、「振り返り」欄へ書く内容（ねらいの達成や子どもの育ちの見取り等）を精選することができます。

ねらいを明確にした指導計画と記録の工夫

[illegible]

- 研究テーマに基づき、日案の中で毎日のねらいを明確にしています。
- 教育・保育課程→長期の指導計画（年間指導計画・月案）→短期の指導計画（週案・日案）へとつながりがある記録の様式であり、P D C Aサイクルを意識した保育実践を行うことができます。

PDCAサイクルを生かした記録の工夫

【記録の手順】

- 研究実践記録に園のめざす子どもの姿や経験する内容等を明記する。・・・①
- 週案に主活動におけるねらいと保育の振り返りを毎日記入する。・・・②
- 週案の記録から研究テーマ「言葉」に関する内容を抜き出し
研究実践記録の保育の実践記録に転記する。・・・③
- 期の評価を行い、翌期に向けての課題や取組等を記入する。・・・④
- 振り返りをもとに、次の期のねらいや内容を計画する。・・・⑤ → ②へ

研究（言葉）実践記録	
学年 目標	目指す子どもの姿（全体） ◎友達と一緒に遊びや生活を進めている ◎自分の思いや欲求を言葉で表現しようとする気持ちをも
期 ねらい	Ⅰ ねらい Ⅱ ねらい
初めの姿	○自分の経験したことや思いを保育者や友達に伝えようとする。 ○遊びや生活の中で、自分のしたいことや経験したことを保育者に伝える。 ○絵本の読み聞かせを好み、気に入った絵本は自分でも開いてみる。 ○歌や手遊びを好み、単純な繰り返しフレーズを楽しんでいる。 ●言葉が不明瞭で聞き取りにくい子どもが多い。 ●自分のしてほしいことを言葉や表情で出せずにいたり、困ったことがあっても泣きだけで思いを言葉で伝えられない子どもが多い。 ●思いを上手に伝え合えないため、トラブルになることが多い。
育てたい姿に向けて	① ・自分の思いを出せずにいる子どもが多いので、保育者との1対1の関わりを大切にしながら、保育者への信頼関係を築き、思いを出しやすくしていく。 ・のびのびと自己発揮する場を多くももたせながら、自分の思いを出せるようにする。 ・自分の知っていることや考えたことを保育者に受け止めてもらえる嬉しさを感じさせていく。 ・トラブルの際、自分の意見ばかり主張するのではなく、友達の思いを知る場をもてるようにする。
子どもが経験する姿	⑤
生活	○保育者との1対1の関わりの中で、保育者に親しみを持って自分を出す。 ○保育者との会話を楽しむ。
遊び	○友達と一緒に遊ぶ楽しさを感じ、友達に興味・関心を持つ。（ふれあい遊びなど） ○発散できる遊びの中で自分を開放し、のびのびと遊ぶ。（新聞遊び・水遊びなど） ○遊びの中で、受け入れてもらえる喜びを味わう。（ダンスの自由表現など） ○絵本を通してお話に親しんだり、イメージを持って聞いたりする。
保育の実践記録（週目案より）	③
期の評価	④
翌期に向けて	②

週案	
週案	月 日（月）～ 月 日（土）
希望のねらい	実施計画
月 日	【主活動に迫る振り返り】 ○…良かった点 ☆…反省点 ねらいに向け、意味づけをしながら記入
月 日	【1日の振り返り（全体・個人）】 ○…生活の中での良かった点 ☆…反省点を育てたい姿に向かって評価 ●…前月の課題点に関する内容（全体・個人） 研…今年度の研究に関する内容
文 日	

クラス全体や一人一人のねらいに迫る姿・育ちを確認することができます。

- 園の研究主題に沿って記録をすることにより、「指導計画の作成→実践→評価→改善（PDCA）」を意識した取組となっています。

(3) 教育・保育課程の改善と園内研修の工夫

PDCAサイクルを生かした園内研修の工夫

園の研究テーマ：「主体性のある子ども」を育む

【園内研修計画】

- 「主体的に遊びや生活を進める姿」とはどんな姿か考えよう。
→ 「個別のワークシート」に記入（資料1）
- 記入したワークシートをもとに、研究テーマである「主体性のある子ども」の育成に向けた「つきたい力」や「めざす姿」を共通理解しよう。
- 5歳児卒園時における「めざす姿」を具体的に考えよう。（グループ討議）（資料2）
- めざす姿をもとに、各年齢における「つきたい力」「めざす姿」を考えよう。
- 園のめざす教育・保育に向けた「教育・保育課程」を見直そう。

（資料1）個別のワークシート

☆主体性のある子どもを育てる支援について
 学年 _____ 名前 _____
 ☆小学校への進学、生活を支えて、幼少期に育てておきたい主体性とは？
 ☆保護者支援、保護者指導、家庭との連携？
 ☆幼稚園教育要領子ども園の本質として、本園ならではの・・・の主体的な生活とは？・・・等を踏まえて、
 ☆主体性のある子、主体的な生活とは、どのようなものか。

※今、各年齢・クラスで取っている支援・環境は、どのような子どもの育ちにつながると考えているか。

※今後、主体性のある子どもを育てるため、主体的な生活を育てるためには、どのような支援・環境が必要か。

保育者一人一人の意見を
引き出すことを大切に
しています。

（資料2）

5歳児卒園時における「めざす姿」

【3歳】

つきたい力
めざす姿

【4歳】

つきたい力
めざす姿

【5歳】

つきたい力
めざす姿

具体的な取組

具体的な取組

具体的な取組

教育課程・保育課程の改善へ
→ めざす子どもの姿に向けて

「めざす姿」を具体化し、各年齢の「つきたい力」や具体的な取組を共通理解することで、一人一人の保育者が園の研究テーマに沿った教育・保育を行うことができます。

- 研究テーマに向けて保育者の共通理解のもとに研修を進めることが、教育課程・保育課程の改善につながっています。
- 教育課程・保育課程を見直すことで、作成した年間計画や週日案等が、園や各年齢のめざす子どもの姿につながっているか、日々振り返ることができます。

第Ⅲ章 各園における実践事例

本章に掲載している実践事例は、下記の様式に沿って各園の実践をまとめていただいたものです。

1 実践事例について

実践事例の見方

() 歳児 実践事例 () 活動名 () () 月
 観点 () 視点 () ~ ()

【遊びの経過】
 ※この活動の視点に即した子どもの様子を書いています。

【ねらい】
 ※視点に沿ったねらいを書いています。
 心情・意欲・態度面の育成をねらい、「～できる。～知る。」というような技能や理解の向上を図るものではありません。

【評価】 ← 保育を評価するポイント、評価の観点を記入しています。
 ※どんな行動や言葉が見られれば、ねらいを達成していると言えるのか、具体的な子どもの姿を書きます。

【○幼児の活動 ★環境の構成 ■保育者の援助】

★

子どもの言葉・思い
 【見取りの視点・キーワード】
 子どもの具体的な姿・育ちつつある心情・意欲・態度を書きます。

どうやったら○○ちゃんみたいにできるのかな。
 【疑問】【探究心】

写真

【吹き出し】には、
 ①実際に子どもが発した言葉
 ②子どもの表情や姿などから、保育者がねらいにつながると考える子どもの思いや言葉を記入しています。
 ※それぞれ、文字の色を分けたり、吹き出しの形を変えたりすることもできます。

■保育者の援助
 ★環境の構成
 ※ねらいにせまるための援助や構成を焦点化して書きます。

【考察】 ← 保育の内容等の振り返り、及びこれに基づく改善点を記入しています。
 ※【ねらい】【評価】に対する子どもたちの様子、それを受けてどう環境の再構成や援助を行うのか、次回の活動へ発展させる際の留意点等を記入します。

- 1つの遊び・活動を通して、子どもたちは頭と心と体を働かせながら、様々な資質・能力を身に付けていきます。また、子どもたちの諸能力は、それぞれ単独で発達するのではなく、相互に関連し合いながら総合的に発達していくものです。保育者は、遊びを通して子どもが発達していく様々な姿を総合的にとらえるとともに、そのために必要な経験が得られるような状況を作ることを大切にしなければなりません。

このように考えると、活動のねらいを1つに絞って実践事例を作成していることは矛盾しているように感じられるかもしれません。もちろん、その活動から期待できるたくさんの子どもの姿を予想し、一人一人の子どもについて見取り、評価していくことは大切です。しかし実際には、ねらいが曖昧なままで子どもまかせの活動に陥ってしまい、どのような力が育ったのか見取るのが難しいという現状もあります。



- そこで、「視点」を絞って実践事例を書くことをすすめています。そのことが、ねらいに基づき、「子どもの姿」や「保育者の援助」、「環境の構成」等について振り返ることになり、保育者がねらいを達成するために何をしたのか、どうすべきだったのか、今後どのようにしていくのかなどについて考察し、実践することになるからです。そのことにより、結果的に様々な子どもの育ちや学びを見取る力を保育者がつけることにつながると考えています。



実際に、実践事例を作成している多くの園から、「主なねらいを絞って子どもの姿を見取ることを意識して保育を行っていたら、子どものいろいろな姿がよく見えるようになった。」「子どもの多様な姿に合わせ、指導や援助も適切で具体的なものになってきた。」という声をいただいています。

- 実践事例を作成することによって、意図的に行っていた援助・環境構成についての振り返りや子どもの見取り等がより確かなものとなります。また、意識しないで行った援助等についても考えることになり、それまでは気付かなかった子どもの姿や自分の指導の課題などを多角的に反省・評価していくことにつながると考えています。

保育者が総合的な指導をする力を発揮するためには、子ども一人一人の発達段階と個別の状況に応じて計画的・具体的に保育を構想し、実践する力が求められます。

本章で掲載している実践事例を参考に、自園の記録や指導のあり方を考え、子どもの実態や地域の特色などを考慮した自園ならではの実践を展開していきましょう。

2 各園の実践事例

(1) 0歳児

0歳児 実践事例 好きなおもちゃであそぼう (10月)
 観点 (人とのかかわり) 視点 (協同性 ~いっしょにやろうよ~)

【遊びの経過】

保育者や友達のしている遊びに興味をもち、同じ動きを模倣したり、同じおもちゃで遊んだりする姿も見られるようになった。保育者が仲立ちをすると、「どうぞ。」「ありがとう。」などのしぐさをしてかわりを喜んでる。

【ねらい】

好きなおもちゃで遊んだり、保育者や友達の真似をしたりして遊びを楽しむ。

【評価】

- ・自分の好きなおもちゃを見つけ、思い思いに遊びを楽しんでいる。
- ・保育者や友達のしている遊びを見たり、やってみようとしたり、真似をしようとしたりしている。

【〇幼児の活動

★環境の構成

■保育者の援助】

★落ち着いた遊びが楽しめるよう、見やすく手が届きやすい場所に遊びのコーナーを設定する。

〇自分の好きな遊びを楽しむ。

いない、いない
 ばあ。出てきた。
 【驚き】【好奇心】

おもしろいなあ。
 【好奇心】【興味・関心】



楽しそうだな。
 【興味・関心】
 【好奇心】

■一人一人が自分の好きな遊びをゆつたりと楽しめるよう見守りながら、楽しい気持ちに共感したり、指さしや表情から思いを受け止めたりするとともに、子どもの思いを言葉にして伝えるようにする。

〇友だちのしていることを真似て遊ぶ。

何だろう。【疑問】

何だか楽しそう。
 【期待感】【好奇心】



はい、どうぞ。
 【人とのかかわり】

■好きな遊びを楽しみながら、自然に友達とのかかわりがもてるよう声掛けをし、仲立ちをしていく。
 ■友達の持っているものが、気になって、取り合いになる時は、お互いの気持ちをくみ取りながら声掛けをして気持ちを満たしていけるよう関わる。

- ★保育者や友達がしている姿がよく見えるように大型の「ポットン落とし」を用意する。
- ★一人一人がやりたい遊びを楽しめるようにおもちゃを十分に用意する。

入るかなあ。
 【没頭】【思考】

よし。入った。
 【満足感】



ぼくもしてみようかな。
 【意欲】【模倣】

■保育者がポットン落としをして見せたり、友達の様子を知らせたりして、興味をもてるようにする。
 ■うまく穴に入らない子どもには、必要に応じて手を添えるなど、「できた。」という満足感が得られるようにする。
 ■「入ったね。楽しいね。」と楽しさを共感し、まわりの子どもにも知らせて興味・関心を広げていく。

【考察】

大好きな絵本の動物が出てくることを喜び、繰り返し紙をめくりに来たり、「ばあ。」と声を出しながらめくったりする姿があった。ままごとや「ポットン落とし」を見ているだけだった子どもも、友達がしているのを見て興味をもち始めた。「どうぞ。」「ありがとう。」など保育者や友達とのやりとりも楽しんでおり、一人遊びから人とのかかわりを楽しむ姿に変わってきた。子どもたちが安心して周囲に働きかける中で、友達と共に過ごすことの喜びを感じ、満足感を味わうことができるように、保育者は言動や表情を見守りながら適切な援助を工夫していきたい。

【遊びの経過】

はいはいや歩行が活発になってきたこの時期、保育室を出て園内探索を楽しんできた。さらに園外へ活動範囲を広げ、地域の公園へと出かけるようにしている。子どもたちは、広い場所で開放感を味わいながら、色々な場での探索や歩行を楽しんでいる。

【ねらい】

戸外で、自ら体を動かすことを喜ぶ。

【評価】

- ・公園内の色々な場所で、たくさん歩いたり、はいはいしたりして進んで体を動かすことを楽しんでいる。

【0幼児の活動

★環境の構成

■保育者の援助】

★現地をあらかじめ下見し、動きや遊びの予測を立て、安全に遊べるように職員を配置する。

○公園内の遊具で遊ぶ。



よいしょっと。
【意欲】

上ってみよう。【チャレンジ】



がんばるぞ。
【意欲】
保育園のより大きいな。
【好奇心】

■自由に探索できるよう全体を見る保育者、子どもの側で見守る保育者と役割を分担し、広い公園内や遊具で安全に遊べるようにする。

■傾斜や段差、遊具の高さなどのある所でも意欲的に挑戦する姿を認め、危険のないように見守るとともに、手を添えたり、体を支えたりするなど個々に合った援助をしていく。

★さらにたくさん歩いたり走ったりできるよう、隣接する広い芝生の方へ移動する。

○広い芝生の上で遊ぶ。

逃げろ逃げろ。
【安心感】【信頼感】

いっぱい歩くよ。
【意欲】【挑戦】



■遠くの景色や青空を子どもたちと一緒に眺め、心地よさを言葉で伝えることで、開放感を味わいながら自分から進んで体を動かせるようにする。

■はいはいや歩行、かけっこを楽しめるよう、一緒に体を動かしたり、「おいで。」と呼びかけたりして、たくさん活動できるようにする。

○東屋で休憩したり、遊んだりする。



いっぱい動いたな。
【達成感】

いないいない、ばあっ。
【多様な動き】



楽しいね。
【喜び】

■時間や子どもたちの様子を見て東屋に誘い、涼しい場所で心地よい風を感じたり、休憩をとったりできるようにする。

■かくれんぼや探索遊びを楽しめるよう声をかけたり、満足するまで一緒に遊んだりしていく。

■帰る支度へと誘いながら、たくさん遊んだ満足感を言葉にして伝える。

【考察】

運動遊具を使った室内遊びから廊下や階段、遊戯室へと活動の場を広げ、次の段階として戸外での活動を設定した。公園では、広い空間や大型すべり台、砂場など普段とはちがうものや場所にどんどん挑戦しようとする姿、広場ではどこまでも続く芝生の緑や空の青さ、心地よい風などを五感で味わい、のびのびと体を動かし遊ぶ姿や笑顔が多く見られた。このように自然の中でのびのびと体を動かして遊ぶことで体のいろいろな機能の発達が促される。保育者は、戸外の中でのびのびと子どもとの関心が戸外に向くような動線の見直しに努める必要がある。また、月齢差、体力などの個人差に配慮しながら、自ら喜んで心と体を動かそうとする意欲を育てていくために、組織的、計画的に日々取り組んでいきたい。

【遊びの経過】

天気の良い日は戸外遊びを楽しみ、芝生の上をはいはいや歩行などで移動することを楽しんでいる。また、園外にも出かけ自然事象を肌で感じたり、果物、植物、生き物に興味を示し、指さしをしたり、触ってみたりする姿も見られた。

【ねらい】

落ち葉の感触を楽しみながら、戸外で遊ぶ気持ちよさを味わう。

【評価】

・落ち葉の音や手触りの不思議さなど、落ち葉の感触を楽しみながら遊んでいる。

【0幼児の活動

★環境の構成

■保育者の援助】

★子どもたちが安全に遊べるよう、落ち葉に混じっている危険物を取り除く。

★赤・黄・茶色など色とりどりの木の葉が十分にある場を確保する。

○落ち葉に興味を示す。

ひっぱってみよう。

【興味・関心】【没頭】

触ってみたいな。

【好奇心】【意欲】



破れたよ。

【発見】

かけてあげるね。

【人とのかわり】



■保育者も子どもたちと一緒に落ち葉に触れ、手触り、におい、色彩、音などに興味を持てるような声かけをし、知らせていく。

■落ち葉を口に入れないように、十分に気をつける。

■「どうぞ。」「ちょうだい。」など保育者が子どもの動き、思いを言葉に代え、友達との関わりを楽しめるようにする。

★落ち葉を入れる袋やバケツを準備する。

★友達とぶつかったりしないよう、十分な場所を確保する。

○落ち葉の感触を楽しみながら様々に遊ぶ。

投げてみよう。

【意欲】

やったあ。
できた。

【満足感】

葉っぱ持ってきたよ。入れて。

【人とのかわり】



ふんでみよう。【好奇心】



カサカサ音がしたよ。【発見】

動くとき音が
するよ。【発見】
【興味・関心】



いいよ。【自己決定】【共有】

■走る、はいはいをする、寝転がる、投げるなど保育者も楽しみ、子どもの様々な動きを引き出せるようにする。

■遊びに入れない子どもには無理をしないようにし、そばで見守りながらそっと落ち葉を手渡し「カサカサ」「パリッ」など落ち葉の音や感触が感じられようにする。

■投げる、集める、ちぎるなど子どもたちが遊びを楽しんでいる姿に「わあ。すごいね。」「上手、上手。」などの声をかけ、満足感を味わえるようにする。

【考察】

大量の落ち葉に興味を示し、投げたり破ったりする子どもや、落ち葉の上でかけっこやはいはいをする子どもなど、それぞれにしたい遊びを見つけ、落ち葉の感触を楽しむことができた。また、個々の活動だけでなく、友達に落ち葉を渡したり、一緒にビニール袋に入れたり、友達との関わりも見られた。自然に触れて遊ぶことで、保育室内ではできない体験を味わうことができる。四季折々の自然に触れる機会を増やし、子どもたちの興味関心が広がるような環境を工夫するとともに、自然との出会いが子どもの心を揺り動かしている瞬間を見逃さないように、保育者が子どもとかわっていくことが重要と考えている。

0歳児 実践事例
観点(生活)

全身を使って遊ぶ (11月)
視点(健康 ~げんきいっぱい~ 運動)

【遊びの経過】

「寝返りをする→座る→はう→歩く」と自ら体を動かせるようになったことを喜び、楽しんでいくうちに、全身を使ってよじ上ったり、くぐったりして遊ぶ姿勢が多く見られるようになってきた。

【ねらい】

思いきり体を動かして遊ぶことを楽しむ。

【評価】

- ・保育者に誘われたり、友だちが遊ぶ姿を見たりする中で、上る、はう、くぐるなど、自ら体を動かすことを楽しんでいる。

【〇幼児の活動 ★環境の構成 ■保育者の援助】

★一人一人の発達に合わせて楽しく安全に遊べるように、段差、空間を用意する。

〇腕、膝、足等を使って段差を上り下りする。

できるかな。

【好奇心】【意欲】



ぼくも行けるかな。【模倣】【判断】

手も足も伸ばして。あとちょっとだ。

【チャレンジ】【多様な動き】

下りられるかなあ。

【チャレンジ】
【思考】



やったあ。上れた。【満足感】



あっちの遊びもやってみよう。
【意欲】【興味・関心】

うれしいなあ。
もう一回やってみよう。
【自信】【達成感】

★環境構成図



- 色々な高さや硬さの台やマットを組み合わせ、自分の力を試しながら、次のステップへ挑戦できるようにしていく。
- 上りきった時には共に喜び、「もっとしてみよう。」と思えるように、保育者も一緒に上り下りを楽しみ、遊びを盛り上げていく。
- つかまることや座って足から下りることなど、分かりやすく知らせたり、手を添えたりして安全に下りられるようにする。

★トンネル内の空間の大きさを変えられるように、布団や牛乳パック製の台を用意しておく。

〇トンネルをくぐる。



でこぼこ、ふわふわ
しているなあ。【探究心】
【興味・関心】

もっと進んでみたい。【意欲】【好奇心】



もう少しで出られるぞ。
【チャレンジ】【見通し】

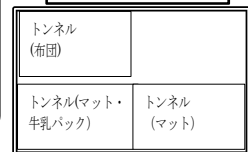
やっと出られた。
【達成感】

こうやって出て
みようかな。

【好奇心】

【動きの工夫】

★環境構成図



- 出口付近からのぞき、「おいで。」と誘うことで、入ってみようと思えるようにしていく。
- くぐれた時には、「やったあ。」と声をかけたり抱きしめたりして喜びを共感し、繰り返してみようという意欲につなげていく。
- 慣れてきたら布団や牛乳パック製の台などをトンネル内に入れ、狭いところをくぐることで、自分の体の動かし方に意識を向けられるようにしていく。

【考察】

トンネルの幅や床面、段差の組み合わせ等に変化を持たせて環境を構成していくと、全身で広さ・高さなどを確かめ、動きを工夫しながら遊ぶ姿が見られるようになった。また、子どもの気持ちに寄り添い、励まし、共に喜んでいくことで、自信や意欲につながってきている。保育者との温かい触れ合いの中で、遊びを通して体を思いきり動かすことの心地よさを味わうことを繰り返し体験させていきたい。また、自分から進んで体を動かそうという意欲が育つように、手をついて体を支える、はうなどの様々な動きが十分に経験できる遊びを大切にしながら、一人一人が楽しくチャレンジしたくなる環境の構成を工夫していきたい。

(2) 1 歳児

1 歳児 実践事例

触って楽しもう

(6 月)

観点 (興味・関心) 視点 (意欲 ～おもしろそうだな～)

【遊びの経過】

4 月から経験している感触遊びでは、「さわってみたい」という気持ちの一方で、手の汚れやぬるぬるとした感触に抵抗をもつ子どももいたが、少しずつ環境にも慣れ、様々なものに興味をもち「やってみたい」「挑戦してみたい」という積極的な気持ちが芽生え、自分からかかわる姿が見られるようになってきた。

【評価】

- ・わらび粉粘土に自分から触れ、押さえたり、ちぎったりして感触を楽しんだり、形のかわる面白さを感じたりしている。

【ねらい】

わらび粉粘土に興味をもち、自ら触って遊ぶことを楽しむ。



★環境構成図

【○幼児の活動

★環境の構成

■保育者の援助】

- ★発達段階やアレルギーを考慮し、万が一口に入れても安全なわらび粉、食紅を材料として用意する。
- ★活動場所が広く使えるように室内の遊具等は片付け、思いきり遊べるように、ブルーシートを敷く。
- ★導入後すぐに活動に取り組むことができるよう、わらび粉粘土や容器等を遊べる状態に準備しておく。

○保育者の話を聞いて、保育者が遊ぶ様子を見る。

先生、楽しそうだな。
【人とかかわり】

どうしよう。
【葛藤】

私も触ってみようかな。
【意欲】



- 子どもたちが興味をもち、やってみたいと思えるように、保育者が楽しそうにしているところを見せ、遊びに誘う。
- 遊びに入るのを嫌がる子どもには、無理強いをせず、保育者がそばに寄り添いながら、一緒にわらび粉粘土の感触を味わい、思いが共有できるような言葉かけをする。
- 直接触れることに抵抗を感じる子どものために、まるめたわらび粉粘土をビニール袋に入れたり、容器に入れて渡したりすることで活動に参加できるようにする。

○わらび粉粘土に触ってみる。

どんな感じかな。
【興味・関心】 【探究心】

私も触ってみよう。
【チャレンジ】



冷たいよ。【発見】



ちょっとたたいてみよう。
【好奇心】

- 水分量を調節して色々な柔らかさのわらび粉粘土を準備したり、食紅で着色をしたりして興味や関心を持てるように工夫する。
- 保育者も一緒に、遊びを楽しむ中で遊び方を知らせたり、もっと遊びたいという気持ちをもたせたりして楽しさを共有する。

○わらび粉粘土を容器に入れたり、足で触ったりする。

むにゅむにゅする。
【気付き】



のびるぞ。
【発見】 【夢中】

ちぎってみよう。
【挑戦】

- 遊びに夢中になれるよう、個人個人に合わせたペースで遊びを進めていき、一人一人の感じた気持ちや表現を受け止め、保育者が言葉に表しながら共感していく。

【考察】

保育者や友達がわらび粉粘土で楽しそうに遊ぶ様子が誘われ、自分もやってみたいと好奇心をもって素材にかかわる姿が見られた。また、その感触を味わうことで、様々な発見をし、夢中になって楽しむ姿も見られた。子どもは、初めは感触を試し、物とかかわりを楽しんでいるが、興味を持って繰り返しかかわる中で、次第にその性質などに気付き、子どもなりに使いこなすようになっていく。この年齢の子どもにとって魅力的な素材を探し、触れる機会を設けることで、何事にも興味をもってかかわる子どもを育てていきたい。その際、保育者は、心に響くかかわりや言葉かけを行い、意欲を高める工夫を重ねていきたい。

1 歳児 実践事例

段ボールで遊ぼう

(6 月)

観点 (生活)

視点 (健康 ～げんきいっぱい～ 運動)

【遊びの経過】

子どもたちは段ボールに興味をもち、車や汽車に見立てたり保育者が段ボールからのぞくと中をくぐろうとしたりして楽しんでた。出し入れ遊びでは、どの穴に入れようか試しながら遊ぶ姿もあった。自分なりに手先や体を色々と動かして遊ぶ姿がみられるようになってきた。

【ねらい】

段ボールを使った好きな遊びを見つけて、全身や手指を使った遊びを楽しむ。

【評価】

・段ボールに興味を持ち、自分の好きな遊びをする中で、「またぐ」「くぐる」「這う」「積む」「つまむ」「入れる」「押す」「引っ張る」など、全身や手指を使った遊びを繰り返し楽しんでいる。

【〇幼児の活動

★環境の構成

■保育者の援助】

★園児一人一人が満足して遊びに集中できるように段ボールの数を十分に用意しておく。

★色々な大きさや底が抜けた段ボールなどを用意し、遊びが発展していくようにする。

〇段ボール箱に出入りしたり、段ボール箱を積んだりして自由に遊ぶ。

二人で入れたよ。
【満足感】



トンネルだ。
出られるかな。
【動きの工夫】

落ちないように。
【チャレンジ】
【バランス】



- 子どもたちが好きな曲をかけ、楽しい雰囲気作りをする。
- 色々な遊びや動きに興味をわくよう、保育者が遊んでみせたり、一緒に遊びながら楽しさを共有したりする。
- つもり遊びをしながら体を使って遊んでいる姿を認め、イメージをもって動けるよう声をかける。

★いつでも出し入れ遊びができるように、穴を開けた箱を準備しておき、要求や必要に応じて出していく。

★力の加減や向きなどを変えて遊べるように、太さや長さの違うクッション材を準備する。

〇穴を開けた箱で出し入れ遊びをする。



入るかな。
【チャレンジ】

ここに
入れたい。
【意欲】

はしっこをこ
こに合わせて。
そっとだよ。
【力の加減】



- 夢中になっているときは見守り、子どもたちの声や表情を読み取りながら、必要に応じて遊び方や動きのモデルになったり一緒に喜んだりする。
- トラブルになった時には、それぞれの思いを受け止め、必要な言葉を伝えたり、気持ちを代弁したりする。

〇片付けをする。



プッポー。ちょっと重いな。
【力の加減】



ポッポー。一緒に行こう。
【動きを合わせる】

- 「車庫に入れてください。」などと声をかけ、楽しみながら片付けができるようにする。
- 楽しかったという気持ちに共感し、「またやりたい」という意欲につなげる。

【考察】

色々な段ボール箱を準備したことで、自分から好きな遊びを見つけて遊ぶ姿が見られた。保育者がモデルとなることにより、まねをしたり自分なりに見立てたりして、色々な遊びや多様な動きにつながった。

子どものしぐさや表情、言葉から、保育者が一人一人の思いを汲み取り、「できたね。」「楽しいね。」「おもしろいね。」「上手だね。」などと受け止め、言葉にして返していった。それが、「もっと遊びたい」という子どもの意欲にもつながり、何度も繰り返し遊び、多様な動きをすることができたと感じる。

継続して遊ぶことで、徐々に友達遊びにも興味をもち友達のそばで遊んだり動きをまねたりする姿が見られるようになった。今後も、子どもの興味や意欲につながる遊びの展開を工夫していきたい。

1 歳児 実践事例 布で遊ぼう おもしろそうだな (10 月)
 観点 (興味・関心) 視点 (意欲 ～おもしろそうだな～)

【遊びの経過】

布を使って「いないいないばあ」遊びを楽しんできた。
 繰り返し布で遊ぶ中で、広げたり丸めたり投げたりして
 様々に布を変化させて遊ぶ姿がみられるようになった。

【ねらい】

保育者や友達と一緒に、布
 を使った遊びを楽しむ。

【評価】

・布に興味を持ち、布を広げたり布にかくれたりするなど、自分から進んで遊んでいる。

【〇幼児の活動

★環境の構成

■保育者の援助】

★素材や大きさの違う布やタオルを用意したり、音楽を流したりするなど、遊びたくなるような
 雰囲気をつくる。

〇「いないいないばあ」でふれあい遊びを楽しむ。

見てくれたよ。
 うれしいな。
 【安心感】
 【満足感】



いないいないばあ。
 先生、見て、見て。
 【期待】【信頼】

かくれるよ。
 【楽しさ】

■布の感触を楽しむとともに、友達や保育
 者と顔を見合わせながら遊ぶことを繰り
 返し楽しめるように、子どもたちの表情
 を観察し、共感しながら保育者も一緒に
 楽しむ。

★「ポップコーン遊び」の曲を流し、雰囲気を盛り上げる。

★色、手ざわり、大きさなどの違う布を用意する。

〇大きな布に、タオルボールを入れて遊ぶ。
 (ポップコーン遊び)

入るかな。【意欲】



ぼくもやりたい。
 ポンポンしよう。
 【意欲】【興味・関心】

わあ、おもしろそう。
 【興味・関心】【期待】

■曲に合わせて、大きな布からタオルボール
 が跳ね出る様子を見たり、跳び出したボー
 ルを拾ってまた入れたりするなど、期待を
 もちながらポップコーン遊びを繰り返し楽
 しめるようにする。

■ボールを入れたり拾ったりする時、子ども
 同士の衝突がないよう配慮する。

ボールがいっぱい。
 またポンポンとぶかな。
 【期待】【予想】



拾って入れよう。
 【気づき】【意欲】

■自分で遊びが見つけられない子どもには、
 そばに寄り添い、保育者と一緒に安心して
 遊びに参加できるようにする。

■自分なりの遊び方で楽しんでいる様子を受
 け止めながら「ボールがポンポン跳ぶね。」
 など一人一人に声をかけ、満足感や期待感
 をもたせ、次の意欲へつながるようにする。

【考察】

保育者や友達と一緒に、布から顔を出して見合うことに興味・関心を持ち、「いないいないばあ。」
 の声に合わせて隠れたり出たりすることを楽しんでいた。「ポップコーン遊び」では夢中になってタ
 オールボールを拾い、バスタオルめがけて投げ入れていた。跳ね上がるたくさんのボールを見て、歓声
 を上げて喜び、繰り返し遊ぶ姿が見られた。このことから、子どもが主体的に活動できる場や空間、
 適切な道具、十分に活動できる時間などを整えたり、その時の子どもの姿に合わせて保育を構成して
 いったりすることが大切だと実感した。そして、子どもたちが自分の遊びができる安心感やがんばり
 が認められる満足感等を味わいながら、安心して思いきり遊びを楽しめるようかかわっていきたい。

【遊びの経過】

タオル地の人形を使った見立て遊びを一人一人が楽しむ姿が見られる。また、好きな玩具を段ボールの車に入れて、「いってきます。」とあちらこちらで楽しそうに運ぶ姿が見られるようになってきた。

【ねらい】

身近にある玩具に興味を持って自分からかわり、いろいろな遊びを楽しむ。

【評価】

- ・好きな玩具を選んで遊んだり、散歩に出かけて自由に歩いたりひもを引っ張ったりすることを楽しんでいる。

【〇幼児の活動

★環境の構成

■保育者の援助】

★手作り玩具が自由に使えるようにいろいろな玩具を準備しておく。

(トイレットペーパーの芯で作った望遠鏡、タオルの人形、牛乳パックの親子ペンギン、車等)

★個々で遊べる場所と、車で遊ぶことができる広いスペースとを設定しておく。

〇一人一人が好きな遊びを見つけて遊ぶ。

- ・人形のボタンのつけはずし
- ・望遠鏡のぞき
- ・親子のペンギンを使って挨拶遊び 等



お風呂に入れてあげよう。

【興味・関心】

おはよう。
朝だよ。

【期待】

一緒にお散歩をしたいね。

【提案】【期待】

〇好きな玩具を車にのせて、テラスまで散歩に出かける。

よいしょ、よいしょ。車を引っ張るぞ。【意欲】

トンネルをのぞいてみよう。【意欲】



草の間を通り抜けたよ。【満足感】

■子どもが好きな玩具を選び、自分から遊びたいという気持ちをもてるように、楽しい雰囲気の中で会話をしながら保育者も一緒に遊ぶ。

■つぶやきや表情を受け止めたり、一緒に会話を楽しんだりして、子どもたちが安心して遊べるようにする。

■広い場所（テラス）があることに気づけるようにし、車での散歩に期待感をもたせる。

★遊びに変化をもたせるために、段ボールの草やトンネルを設定し、本当に戸外を散歩しているように準備をする。

★スムーズに車が動かせるように車の数や重さに気を付けて準備したり、紐の長さを調節したりしておく。

■十分な時間を確保し、子どもたちが遊びの充実感を味わうことができるようにする。

■車で運んできた玩具を使ってテラスで楽しく遊べるように保育者が一緒になって楽しむ。

■がんばって車を引っ張ったり、どんどん新しい道に挑戦したりしていく姿を認めるとともに、開放感を感じながら思い思いに楽しんでいる姿に寄り添って言葉かけをする。

【考察】

子どもたちは慣れ親しんだ玩具を見つけると、すぐに自分の好きな人形を選んで、布団に寝かせたり車に乗せて遊んだりそれぞれが見立て遊びを十分楽しんでいた。その後、広いテラスへ目を向けるような言葉かけをすると、みんなが興味を示し、好きな玩具を車に乗せてテラスへお出かけしていった。そして、トンネルをくぐったり、段ボールの草の間を通ったりしてのびのびと遊んでいた。子どもが自ら興味を持ち、かかわってみたいと思うような玩具や遊具を準備していくことや、子どもと一緒に遊びを楽しむことなどに努め、子ども同士のやりとりへと発展させた遊びへつなげていきたい。

(3) 2 歳児

2 歳児 実践事例

氷で遊ぼう (7 月)

観点 (興味・関心)

視点 (意欲 ～おもしろそうだな～)

【遊びの経過】

部屋の壁面飾りに折紙とお花紙を使っにかき氷を作ったり、夏祭りに向けて大きなかき氷に見立てたちょうちんを作ったりする中で、子どもたちは氷や氷を使った飾りに興味をもち始めた。自分たちでもきれいな氷を作りたいという思いから、木の実や野菜を集めて氷を作ることになった。

【ねらい】

自分たちの作った氷に興味をもち、氷の感触を味わいながら遊んだり、気付きや発見を喜んだりする。

【評価】

- ・できあがった氷の固さや冷たさなどの感触を味わいながら遊んでいる。
- ・氷の様子や変化などの気付きや発見を表情や言葉で表現することを楽しんでいる。

【○幼児の活動

★環境の構成

■保育者の援助】

○氷の中に入れてたい花や木の実・野菜を集め、氷を作る。



あの色がいいな。
【意欲】



ねえ、どっちの花がいい。【期待】

トマトやゴーヤも入れてみたい。【意欲】

- 氷作りへの興味・関心が高まるよう、花・野菜などの名前や色について会話を楽しんだり、においをかいでみたりするなど、楽しく氷作りができるようにする。
- 様子を見ながら、花や木の実、野菜などを集めていない子どもに声をかけ、氷の中に入れてたいものを選ぶようにする。

★氷をすくうもの(れんげ・お玉)や氷を入れる器やお皿を準備する。

★全員が氷に触ることができるように、製氷皿やたらいの数、遊ぶ場所や位置に配慮して、場を設定する。

○できた氷をさわって遊ぶ。

冷たいね。
【喜び】

つるつるしているよ。【発見】



トマトが出てきた。
【驚き】【喜び】

氷が小さくなった。あっ、なくなった。
【気付き】

すべっちゃう。持てるかな。【意欲】【集中】

水になっちゃった。
【驚き】【発見】

お玉ですくえるかな。
【チャレンジ】

- 氷での遊びに期待がもてるように、できあがった氷を見せ、子どもたちと一緒に製氷皿や牛乳パックから出す。
- 子どもたちの様子を見守りながら、一人一人の思いやしぐさを受け止め、共感して言葉にしたり遊びの仲立ちをしたりしていく。
- 氷に触るのに抵抗のある子には1対1でかかわり、保育者と一緒に触ったり、他児の遊ぶ様子を見たりするなど、少しずつ感触遊びに慣れるようにしていく。
- 遊びを見守りながら子どもたちの驚きや気付きに共感し、保育者も一緒に遊びを楽しむことで、氷の感触や状態の変化などについて気付いたことを安心して表現できるようにする。

★子どもの遊びが広がり、もっと遊びたいという意欲が高まるように、大きなたらいやビニールプールなどを子どもの目に触れるところに配置する。

○できた氷を使って遊ぶ。

【考察】

自分たちで作った氷に興味をもち、自分から触って喜んだり、変化に気付いて驚いたりしていた。また、氷に触ったりすくったり入れ物に入れたりするだけでなく、氷が溶ける様子や中の草花が出てくことに驚き、遊びながら楽しさや驚きなどの自分の気持ちをどんどん言葉で表現していく姿も見られていた。また、子どもたちの様子から、たらいやビニールプールを使った遊びに発展させていった。このことは、子どもが夢中になって遊びを楽しむのに効果的な環境の再構成だったと考える。子どもの願いを読み取り、ねらいの達成に向けて適切な援助(道具の数・大きさ、タイミング等)を行っていくことが大切である。

2歳児 実践事例

観点（ 興味・関心 ）

色水作りをしよう

（ 8月 ）

視点（ 意欲 ～おもしろそうだな～ ）

【遊びの経過】

子どもたちは、砂遊び、水彩絵の具の色水遊び、ボディーパーティンティングなどの遊びを経験する中で、体がぬれることや汚れることに慣れてきた。また、身近な植物に興味を持ち、不思議に思うことを言葉にする様子が見られ始めた。

【ねらい】

花びらや草などを使って色水を作ることを楽しむ。

【評価】

・容器やすりこぎ等を選んで、もむ、たたく、つぶすなどの遊びを、自分のやり方で楽しんでいる。

【○幼児の活動

★環境の構成

■保育者の援助】

- ★活動の見通しがもてるように、前もってアサガオやヨモギの色水を作って用意しておく。
- ★子どもが扱いやすい大きさの袋や容器をすぐ使えるように準備しておく。
- ★自分で花びらや草を摘んで、色水作りができるように、花や草のある場所を確認しておく。

○アサガオの花びらや草で色水ができる様子を見て、自分で色水を作る。

赤いの、紫の。
朝顔の花だ。
【気づき】

これ、何かな。
茶色だよ。
【探究心】



大きな葉っぱ
だったよ。
これぐらいの。
【発見】

- 植物から色がにじみ出る場面を見ることが、色水作りに興味・関心がもてるようにする。
- 植物の名前を知らせ、どんな色がにじみ出てきたのか、言葉にしながらいきかけたり、子どもの発想やつぶやきに共感したりする。

★色水作りに必要な物をすぐに使えるように準備しておく。(すりこぎ、ビニール袋等)

○摘み取った花びらや草をビニール袋に入れて袋の上から指でもんだり、すりこぎでつぶしたりする。

もももみ。
【意欲】
【チャレンジ】



汁が出てきた。
【発見】

手についた。
【葛藤】

おもしろいね。
【夢中】【没頭】

つぶれてきたね。【発見】



ミントの
においがする。
【驚き】

- 初めて扱うすりこぎなどの用具には、保育者も手を添えるなど一緒に使っていくことで、安心して活動できるようにしていく。
- 子どもたちがつぶやく言葉に寄り添い、発見や喜びを言葉にしていけることで、友達の遊び方にも目が向くようにしていく。
- 子どもたちが花びらや葉の大きさ、匂いなどの変化や発見を友達に知らせようとする時は、できるだけ見守り、必要な時には仲立ちをして友達に伝えるなど、言葉のやりとりが発展するようにしていく。
- 袋の上から揉んだり、すりこぎを使ったりすることで、草花から色が出てくるおもしろさや発見を受け止め、遊びがより発展するように見守っていく。

【考察】

自分で草花をつぶして色水を作るのは初めての経験だったが、色々な道具を使いながら、集中して遊ぶ姿が見られた。また、揉んだりつぶしたりした後の草花の色や形の変化にも気づき、発見する喜びも味わっていた。この活動のあと、できあがった色水を使って、画用紙に指で絵を描く、ジュース屋さんごっこをするなどの遊びに発展し、遊びを広げていくことができた。今後も遊びの中の子どもたちの興味・関心を保育者が読み取り、子どもたちの思いの実現に向けた活動に発展するよう、環境の構成を工夫したり、再構成したりしていくことが重要である。

2歳児 実践事例

砂遊びをしよう

(8月)

観点 (興味・関心)

視点 (意欲 ～おもしろそうだな～)

【遊びの経過】

春は砂や玩具を使ったごちそう作りを楽しんできた。中には手が汚れることを嫌がる姿が見られる子どももあり、保育者と一緒に砂に触れるところから始め、徐々に楽しさを感じられるようかかわってきた。夏になり水を取り入れて遊ぶ中で、手や腕、足を使って思いきり砂遊びを楽しむようになってきた。

【ねらい】

砂の感触を味わいながら、好きな遊びを楽しむ。

【評価】

・手やスコップを使い、自分のやりたい方法で山やトンネル等を作りながら砂に親しんでいる。

【〇幼児の活動

★環境の構成

■保育者の援助】

- ★思い切り遊べるように、汚れてもよい服に着替えておく。
- ★遊びの展開を見てタイミングよく出せるよう、シャベルや水道ホース等を準備しておく。

〇砂場に入って、砂の感触を味わう。

何をしようかな。
【期待感】

なかなか水が
流れないな。
【疑問】



さあ、
掘るぞ。
【意欲】

- 期待感をもって遊べるように、保育者が手をブルドーザーのように使い、楽しさを言葉や動きで表現しながら砂場に入るようにする。
- ゆっくりと時間をかけ、子どもが自分のやりたい遊びを進められるように見守り、声をかける。

- ★タイミングよく噴水することで興味・関心が高まるよう、山にホースをうめておく。

〇自分のやりたい遊びを楽しむ。

水を流す



水が流れてきた。
【喜び】【驚き】

泥が動い
とる。
【発見】

すごいなあ。
【感動】

山を作る



大きいね。
【満足感】

トンネルを作る



あっ、
手が出た。
【驚き】【喜び】

つなげよ
【意欲】【見通し】

シャベル山だ。
【見立て】

- 保育者も一緒になって遊びを楽しむとともに、子どもたちのつぶやきや発見を言葉にして伝えることで、自分もやってみたい、作りたいという気持ちを高めるようにする。
- 手や足の裏の感覚や視覚を通して、いろいろな気付きにつながるように、水の量や流すタイミングに変化をつけていく。
- 山作りでは、「大きな山を作りたい」という子どもたちの願いを受け止め、一緒に遊びを進めることで、様々なものを実現していく喜びを共に味わうようにする。
- トンネル作りでも、力を合わせて活動を進めている姿に励ましの言葉をかけながら、つながった達成感を味わえるようにしていく。

【考察】

保育者が自ら遊びを楽しんでいる姿を見せたり、水や道具の活用、タイミングを図るなどして、適切な援助や環境の構成を行ったりすることで、子どもたちは、砂場で保育者や友達と一緒に安心してじっくりと活動していた。次第にもっとやってみたいとダイナミックな遊びへの欲求も出てきて、夢中になって砂を掘ったり水を流したりしながら砂遊びを楽しむことができた。このように、子どもの主体性が発揮できるような自然物や時間、場などを保障したり、子どもの気づきに共感したりすることに心がけ、子どもが意欲的に砂などの自然物にかかわるようにしていきたい。

2歳児 実践事例 「はらぺこあおむし」になって遊ぼう (9月)

観点 (興味・関心) 視点 (表現 ～つたえたいな しりたいな～)

【遊びの経過】

友達や保育者との言葉のやりとりを楽しみながら、見立て遊びやつもり遊び、ごっこ遊びを楽しんできた。「はらぺこあおむし」の絵本に親しみ、あおむしの好きな食べ物や、あおむしがちょうちょになることを知り、イメージを膨らませてごっこ遊びを楽しむようになってきた。

【ねらい】

お話のイメージを膨らませ、友達や保育者と一緒に表現遊びを楽しむ。

【評価】

- ・一人一人があおむしになって遊ぶ中で、知っていることやイメージしたことを伝えたり、友達や保育者とのやりとりを楽しんだりしている。

【○幼児の活動

★環境の構成

■保育者の援助】

★あおむしの帽子をかぶり、気持ちを盛り上げていく。

★保育室の安全を確認する。

○「はらぺこあおむし」になって遊ぶ。

変身



あおむしさんは、ももも動くで。
【表現】【思考】

先生、見て。
【喜び】【自信】

食べ物見つけ



食べ物を探そう。
【意欲】【願い】

見つけたよ。
【楽しさ】【喜び】

かくれんぼ



どこだろうな。
【探究心】【期待】

見つけるぞ。【意欲】



チョコレートだ。食べよう。【喜び】

おいしいな。【表現】

ちょうちょに変身



いっぱい飛ぼう。
【意欲】【表現】

どこに行こうかな。
【想像】【期待感】

- 「あおむしは、どうやって動くのかな。」と問いかけ、一人一人の素直な表現を受け止めるとともに、褒めたり励ましたりしながら、興味をもてるようにする。
- 保育者も一緒にになりきって遊ぶことで、動きや言葉で表現する楽しさを伝え、子どもたちの表現する意欲を高めていく。
- イメージが膨らむよう絵本のお話にそって遊びを進める。

- ★食べ物カードを並べ、わくわくするような環境をつくる。
- ★様子を見て、保育者がチョコレートに変身し、かくれた保育者を探して見つける遊びに展開できるようにしておく。

- 保育者がモデルになり、遊び方を簡潔に分かりやすく伝えた上で、食べ物カード探しをし、遊びへの意欲を高めていく。
- 子どもたちのわくわくする気持ちに寄り添い、一人一人の声に共感的な言葉で応えていくようにする。その際、保育者の言葉が多くならないようにする。
- 食べ物カードを見つけたら、食べる真似をしたりして自分なりに楽しんで表現する姿を受け止め、満足感を引き出すようにする。

- ★イメージがふくらむよう、変身用のちょうちょの羽を準備しておく。

- 「あおむしは、いっぱい食べて大きくなったら何になるのかな。」と問いかけ、子どもたちの「ちょうちょになる。」という言葉を引きかけに、みんなでちょうちょに変身して遊び、表現の変化を楽しめるようにする。
- 一人一人の子どもの発する言葉や思いを受け止め、喜びや満足感を共有していく。

【考察】

絵本に親しむことで、食べ物やあおむしが成長していく様子を知り、イメージを膨らませながら体を動かし、思い思いの表現遊びを楽しむことができた。友達や保育者との言葉のやりとりや動きを楽しんでいる子どもたちの様子を見ながら遊びを展開していくことで、子どもたちは、あおむしになりきって意欲的に遊ぶことができた。また、その姿を褒め、励ましたり認めたりすることで、より開放感をもって自分の気持ちを表出し、遊びを楽しむ姿につながった。これからも子どもの動きを予想して環境の構成、再構成をしていき、自分なりに表現する楽しさを十分に味わうことができるような援助の工夫を考えていきたい。

2歳児 実践事例

ままごと遊びをしよう (10月)

観点 (人とのかかわり)

視点 (協同性

～いっしょにやろうよ～)

【遊びの経過】

人形遊びやごちそう作りでは、「行ってきます。」「ただいま。」「〇〇店で買ってきた。」など身近な生活を再現して笑顔で遊ぶ姿が見られる。最近では友達の発した言葉に応答するなど友達同士のやりとりが増えてきた。

【ねらい】

友達や保育者とやりとりをしながら一緒にごっこ遊びを楽しむ。

【評価】

- ・気の合う友達や保育者と一緒に玩具や言葉のやりとりをしながら、ごちそう作りや人形遊びなどの遊びを楽しんでいる。

【〇幼児の活動

★環境の構成

■保育者の援助】

- ★ごちそう作りや人形遊びに取り入れて遊びが展開するよう玩具や用具を見える所に置く。
- ★かかわりがもてるよう遊びのスペースを広く用意し、皿・茶碗・コップ・鍋などの道具は出し入れしやすく配置しておく。

〇好きなコーナーで遊ぶ。

<ごちそう作りコーナー>

何を作ろうかな。【期待】



はやく遊びたいなあ。【意欲】

〇〇ちゃん、一緒に遊ぼう。【人とのかかわり】

塩を入れよう。【好奇心】



できたよ。【自信】

スパゲティーとコーヒーだよ。【満足感】

<人形遊びコーナー>

ただいま。【人とのかかわり】



熱が出たんだって。【思いやり】

薬をあげたらいいが。【提案】

■自分で進んで道具を見つけたり遊び始めたりする子どもを見守りつぶやきに共感していく。

■「また食べたいなあ。」「次は、〇〇をください。」などとやりとりが膨らむような言葉かけをし、友達とかかわって遊ぶうれしさや楽しさを味わえるようにしていく。

■遊びが見つからず友達の遊んでいる様子を見ている子どもには、「ジュースをください。」「何を作ったの。」などの言葉かけでやりとりのきっかけをつくっていく。

■「赤ちゃん、うれしそうだね。」「ちゃんと服を着ているかなあ。」「熱が出ちゃったのかな。」「大丈夫かな。」など遊びのイメージが広がるように言葉かけをしていく。

■優しく人形の世話をする姿を認め、まわりの友達にも言葉や貸し借りなどのやりとりができるように広げていく。

【考察】

ごちそう作りを始める子どもや人形のお世話をする子ども、友だちになりたい役を伝え役割を決めてから遊び始める子どもなど、それぞれがしたいことを見つけて遊んでいたが、言葉や動作によって玩具や道具の貸し借りが成立する場面も増え、遊び方や友達との関わりも広がってきた。また、友達の遊んでいる姿に共感し、真似たり一緒に遊び方を工夫したりする姿も見られた。今後も一人一人の子どもが、どのように友達への興味や関心をもってかかわろうとしているかなどを見取りをしつかりと行い、友達とつながる楽しさを味わえるように遊びの様子を見守りながら、環境構成の工夫や適切な援助を心がけたい。

(4) 3 歳児

3 歳児 実践事例 いっしょに遊ぼう げんきッズ～大きなラディッシュごっこ～ (9 月)

観点 (生活)

視点 (健康 ～げんきいっぱい～ 食育)

【遊びの経過】

クラスの菜園活動で、毎日水やりや草取りをして大切に育てたラディッシュを収穫し、給食で味わってきた。また、食育絵本から始まった「げんきッズあそび」を通して、元気な体や身近な食べ物への興味が少しずつ見られるようになってきた。

【ねらい】

食べ物が元気な体をつくることを知り、身近な食べ物を進んで食べようとする。

【評価】

- 歌を歌ったり、げんきッズになりきって体を動かしたりして遊ぶことを通して、体を動かす力となるいろいろな食べ物を食べようとする気持ちをもつ。

【○幼児の様子

★環境の構成

■保育者の援助】

★げんきッズのパネルシアターは、見やすいよう高さに配慮する。

○パネルシアターを見ながら、元気な体のもとについて話したり、歌ったりする。



ごはんは
白いのに、
黄色の仲間
だって。
【驚き】

黄色のげんきッズは、強い
力がでるよ。 【興味】

- 知っている食べ物の名前を出し合うことで、友達と共通のイメージをもち、身近な食べ物への興味や次の活動への期待がもてるようにする。
- 子どもの言葉を受けとめながら、やりとりを進め、子どもたちの「元気に大きくなりたい」という気持ちを高める。

○げんきッズに変身して、いろいろな動きをする。

★赤、黄、緑のブレスレットを用意しておく。

スキップしてみよう。【チャレンジ】



赤と緑のげんきッズ。
元気いっぱい
なっちゃった。
【意欲】【楽しさ】

- 好きな色のげんきッズのブレスレットを選び、身に付けることで、これから始まる遊びに期待をもち、食べ物の力(栄養)への興味が広がるようにしていく。
- 自分なりの工夫した動きを引き出せるように、ピアノの音の強弱やリズムに変化をもたせる。
- いろいろな動きを楽しんでいる子どもの姿をまわりにも伝え、挑戦してみようとする気持ちを高める。

○げんきッズの力を合わせて、大きなラディッシュを
抜く。

★保育者がラディッシュ役になる。

みんなで引っばってみよう。【共通の目的】



うんとこしょ、
どっこいしょ。
【夢中】

土を掘ったら出てくるよ。【思考】【提案】

- 友達とつながってひっぱるのが難しい子どもには、保育者が手助けをし、一緒に楽しめるようにする。
- 「どうしたら抜けるかな。」と、子どもたちに問いかけ、子どもの発想を受けとめていく。
- 大きなラディッシュが抜けたのは、元気で力がいっぱいあったからだお知らせ、これからはいろいろな食べ物を進んで食べていこうという意欲につなげていく。

【考察】

パネルシアターを使った歌遊びで、身近な食べ物を栄養素の色別に分類して楽しむ姿が見られた。また、食育絵本で親しんでいる「げんきッズ」のブレスレットを付けたことで、活動への期待が高まり、友達と一緒にいろいろな動きを楽しむことができた。今後も引き続き運動遊びやごっこ遊びの中で「げんきッズあそび」を継続していく。また、調理員とも連携をとりながら、子どもたちが親しみをもっている「カミカミデー」に登場する「カミカミちゃん」を遊びの中に取り入れていく。何でも食べることが元気な体をつくることにつながるという視点で食に関する興味や関心、食事への意欲の向上につなげていきたい。

【遊びの経過】

子どもたちは、園庭の木々の様子を観察し、実が熟すのを楽しみに過ごしたり、夢中になって虫探しを楽しんだりしている。その中で、自然物や虫を見つかったり捕まえたりする喜びや、気付いたり不思議に思ったりしたことを保育者や友だちに知らせに来るようになり、友達を誘って一緒に園庭探検に行ったりする姿が見られるようになってきた。

【ねらい】

自然を散策する中で、気付いたり、感じたりしたことを伝えようとする。

【評価】

- ・自然物や虫などについて、見つけたり、驚いたり、気付いたりしたことを、表情や動き、言葉にして周りの友達や保育者に伝えることを楽しんでいる。

【〇幼児の活動

★環境の構成

■保育者の援助】

- ★事前に下見をして、危険な場所や散策コース、どんぐりポイント等を把握しておく。
- ★子どもたちが思い思いの自然物を持ち帰ることができるように、全員分の袋を用意しておく。

〇公園を散策し、どんぐりや落ち葉を拾ったり、虫を見つかったりする。

ほら、たくさん
拾ったよ。
【喜び】
【達成感】

赤い葉っぱも、
あるんだよ。
【喜び】【気付き】



見て、こんなにいっぱい。
【満足感】



大きいクモが
いたよ。
【発見】

クモと遊び
たいな。
【願い】

- みんなで散策する楽しさや発見した喜びが味わえるように、保育者も子どもたちと一緒に自然物を探す。子どもたちのつぶやきに耳を傾けたりすることで、一人一人の気付きや喜びに共感していく。
- 自然物（どんぐりや葉っぱなど）の大きさ・形・色などの違いにも気づけるように声をかける。
- どんぐりや虫などの名前を一緒に考えたり、周りの友達と見せ合ったりするよう声をかける。

〇見つけた物を見せたり、発見したことや驚きを伝えたりしようとする。

きのこを見つけたよ。【発見】

毒きのこかも。
【気付き】【予想】



何の穴だろう。掘ってみよう
かな。【探究心】【疑問】



お芋のつるみたい。
ひっぱってみよう。
【気付き】【挑戦】

ねえ、来て。
見て、見て。
【誘い】

- 友達が発見した物や疑問に感じていることなどを周りの子どもにも知らせ、面白さや嬉しさを共感したり、一緒に考えたりできるようにする。
- 子ども同士が楽しそうにやり取りする姿を見守る。
- 自然を介した子どもたちの自由な発想や表現を引き出すため、敢えて疑問形で投げ返すようにする。
- 子どもたち一人一人の表現を認め、安心して思いや考えを伝えることができるようにする。

【考察】

散策する中で見つけたり、感じたりしたことを保育者や友だちに言葉で伝えていた。友達の気付きや楽しんでいることにも興味や関心を示し、一緒にその喜びや面白さを共感しようとする姿も見られていた。中には運動会競技の経験から、クモの巣くぐりに興味を示す姿も見られた。このことから、五感を働かせながら身近な自然物とかかわる心を動かす体験が重要であることを改めて感じた。園庭の自然環境や園舎のまわり、近くの公園など地域の豊かな自然と直接触れ合う体験を通して、好奇心や探究心を育てていきたい。また、自然のすばらしさに感動するとともに、子どもの心に共感する心を持った保育者でありたい。

3 歳児 実践事例

みんなで船ごっこをしよう (11月)

観点 (人とのかかわり) 視点 (協同性 ~いっしょにやろうよ~)

【遊びの経過】

スポンジや積み木の乗り物を作って遊ぶのが大好きな子どもたちは、次から次へといろいろな乗り物の運転をしたり、その中でご飯を食べたりするなど、楽しい遊びを友達と考えられるようになった。次は船を作って遊ぼうと気持ちが高まっている。

【ねらい】

ごっこ遊びを通して、友達とのやりとりを楽しむ。

【評価】

・船ごっこを通して「出発するから乗って。」「一緒に食べよう。」など、友達との会話を楽しみながら遊んでいる。

【○幼児の活動

★環境の構成

■保育者の援助】

★子どもの思いをつなげる活動とするために、作って遊べるコーナーを用意しておく。
(保育室に船ごっこができる空間を設定、魚つりなどができるようにカップや画用紙の準備)

○友達と一緒に船ごっこを始める。

出発します。
【意欲】

ねえ、どこに行くの。
【人とのかかわり】



魚つりしよう。
【共通のイメージ】

つれたね。
一緒に食べよう。
【提案】

■柵やダンボールを使って、大きな船を作り、たくさんの子どもが中に入って遊べるようにする。

■舵にビニールテープを巻いたり、船に好きな色を塗ったりできる環境を設定し、子どもたちがそれを使って遊びを進めることができるよう声をかける。

○船の中で「お魚パーティー」や「誕生会」をして遊ぶ。

パーティーをして、みんなで食べよう。
【共通の目的】



きょうは、お誕生会です。
【提案】【期待】

もっと魚をとろうよ。
【提案】

■船の中での遊びが少しずつ広がっていく様子を見守り、友達に自分がこうしたいという思いを伝えている姿を認めていく。

■船の中で船長をする順番や魚つりをする場所取りなどで、思いがぶつかる時は仲立ちをし、必要な言葉かけをしていく。

★望遠鏡や水中ゴーグルなどを使って遊べるように、道具を見える所に出す。

○海に潜って魚をとって遊ぶ。

たくさん魚が見えたね。
【喜び】



やったあ、いっぱいとれたよ。
【満足感】

ぼくもとれた。いっぱい食べられるよ。
【共感】【喜び】

■望遠鏡を使って船の中からのぞくだけでなく、水中ゴーグルを使って海に潜って魚をとっている子どもたちの新たな遊び(子どもたちの気付き)を認め、一緒に楽しんでいくよう道具の場所を知らせる。

■明日も引き続き遊べるように船をそのまま残しておくことを伝え、遊びが続けられる安心感や期待感をもたせるようにする。

【考察】

ごっこ遊びで友達とのやりとりを楽しむ中で言葉を覚える子どももいた。また、船や海の中でのイメージをふくらませながら遊びを楽しんでいた。子どもたちの思いや考えを保育者が見取り、道具などの環境を再構成したことにより、子どもたちが夢中になって遊ぶ姿が見られた。このように、子どもたちが自ら夢中になって自分たちの遊びを深め広げていけるように、保育者が見取った幼児の姿や成長について情報交換できる場を設け、一人一人の遊びを充実させる具体的な援助や環境の構成について全職員の共通理解のもと進めていきたい。

3歳児 実践事例

クリスマスごっこをしよう (12月)

観点 (人とのかかわり) 視点 (協同性 ~いっしょにやろうよ~)

【遊びの経過】

日々の遊びの中で、身近な体験からイメージを膨らませてごっこ遊びを楽しむ様子が見られている。12月に入り、クリスマスへの期待も高まっている中、クリスマスの歌を歌ったり、絵本を読んだりしていくことでクリスマスを楽しむ気持ちをもちながら遊ぶことができるようになってきた。

【ねらい】

それぞれの思いを出しながら、友達や保育者とかかわって遊ぶことを楽しむ。

【評価】

- ・やりたい遊びや遊びたい場所を見つけて、自分の思いを伝えながら、友達や保育者と一緒に遊ぶことを楽しんでいる。

【〇幼児の活動

★環境の構成

■保育者の援助】

- ★クリスマスごっこの共通のイメージをもち、遊びを広げていけるように、これまでに読み聞かせたクリスマスの絵本の掲示コーナーを作り、いつでも手に取れるようにしておく。
- ★それぞれのコーナーに必要な道具や材料を準備しておく。(空き箱、包装紙、カップ、ドングリなど)

〇自ら選んだコーナーややりたい役でクリスマスごっこを楽しむ。

<サンタのおうちプレゼント作り>

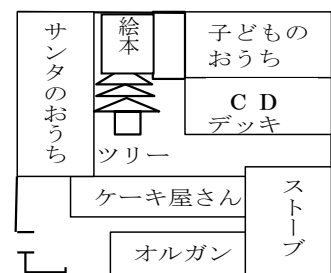


プレゼントができたなら、袋に入れて届けよう。
【意欲】【楽しさ】

寝て待っている友達にプレゼントを作るぞ。
【意欲】【提案】

どうやって巻こうかな。
【相談】【思考】

★それぞれのコーナーを設定



<ケーキ屋さん>



ケーキができたなら、ケーキ屋さんをしよう。
【見通し】【期待】

ケーキが売り切れたから、もっと作ろう。
【意欲】

この上に、どんぐりを飾ろうよ。
【提案】

<サンタに変身>



〇〇ちゃんたちが寝ているから、一緒にプレゼントを届けよう。
【人とのかかわり】
【共通の目的】

プレゼント、喜んでくれるかな。
【期待】

寝ている友達を起こさないように、そっと届けよう。
【思いやり】【提案】

- 保育者が、一人一人の言葉を丁寧に聞き、思いを伝えながら遊ぶことの楽しさを感じられるようにする。
- 子どもたちが役になりきって言葉を交わす様子に共感し、友達とやりとりする楽しさを感じられるように必要に応じて会話に加わる。
- 子どもたちが夢中になって遊んでいる姿を認め、まわりの子どもたちにも紹介していくことで、友達の遊びにも目を向けられるようにしていく。

【考察】

自分の思いを周りの友達に伝えられるような保育者の言葉かけや援助を大切にしていくことで、子どもたちは自分なりにイメージを広げ、夢中になって遊ぶことができた。また、役になりきって友達と言葉を交わす中で、もっとこんなことができそうだという思いをもち、遊びを楽しむ姿が見られた。今後も、子どもたちがイメージを共有しながら自分たちの遊びを広げていけるように、子どもたちの興味・関心がどこにあるのかを確かに見取ることで、主体的な活動につなげる適切な環境について考えていきたい。

(5) 4 歳児

4 歳児 実践事例

いくぞ こじか組消防隊

(6 月)

観点 (生活)

視点 (健康 ～げんきいっぱい～ 運動)

【遊びの経過】

戸外遊びや体を動かす遊びを好み、鬼ごっこをしたり、走り回ったりして遊んでいる。絵本を見たり、消防署を見学したりしたことをきっかけに、消火玉を投げて火を消すなどの消防士ごっこが盛り上がってきている。

【ねらい】

いろいろな動きのある運動遊びを楽しむ。

【評価】

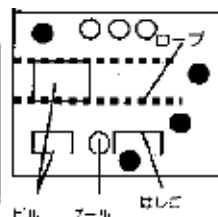
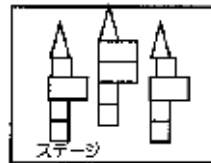
・消防士になりきって、跳ぶ、引っ張る、投げるなどさまざまな動きのある運動遊びを楽しんでいる。

【○幼児の活動

★環境の構成

■保育者の援助】

- ★子どもと一緒に場を設定し、活動への見通しがもてるようにする。(ダンボールのビル、消火玉、新聞紙のプールなど)
- ★安全に遊ぶように、遊具や職員の配置を行う。



○消防士になって体を動かす。

＜高いところによって火を消そう＞

やったあ、到着だ。【達成感】



よし、行くぞ。【挑戦】



落ちないように。【バランス】【集中】

＜ロープを引っ張って進もう＞

最後までがんばるぞ。【意欲】



ジャンプ。【多様な動き】



火を消すぞ。【意欲】

腕に力を入れて進もう。【力の調整】

＜ダンボールビルに消火玉を投げよう＞

速く投げるといいよ。【力加減】



なかなか倒れない。【葛藤】

■はしごや巧技台に不安を感じている子どもには、子どもの気持ちを確かめながら、手を貸したりアドバイスしたりする。

■「やってみたい」「遊びたい」と思えるように子どもの実態に合わせて遊具の配置を変えたり、保育者がやって見せたりして、いろいろな動きに挑戦できるように工夫する。

■体が曲がったり止まったりしてとまどっている子どもには、保育者が子どもの膝や足の裏に手を添えるなどして、腕の力を使って進む感覚や体の使い方を体感できるようにする。

■子どもの「できた」「楽しかった」という気持ちに共感し、思いきり体を動かした達成感を味わえるようにする。

■投げるコツを尋ねたり、一緒に考えたりすることで、体の向きや足の位置などにも気付けるようにする。

■位置や的を自分で決めて投げることで、ダンボールビルを倒して火を消す達成感を味わえるようにする。

【考察】

どのコーナーでも、消防士になりきって腕の力や腹筋などを使い、跳んだり、引っ張ったり、投げたりする姿が見られた。子どもたちが夢中になって体を動かしたくなる環境を工夫することで、一人一人が、はっきりとした目的（火を消す、プールに着地するなど）に向かって遊ぶことができたと考えられる。今回は一つのコーナーで最後まで遊ぶ子どもが多かったことで、3つのコーナーを行ったり来たりするなど、より主体的にやりたい遊びを選び、十分に全身を動かし、活動意欲を満足させる体験を積み重ねることができるよう用具の配置や空間のとり方など環境の構成を工夫したい。また、子どもの意欲を引き出す保育者の援助の在り方について考えていく必要がある。

4 歳児 実践事例

じまんの駅を作ろう

(6 月)

観点 (興味・関心)

視点 (表現

～つたえたいな しりたいたな～)

【遊びの経過】

じゃんけん列車を楽しんだことがきっかけとなり、駅作りの活動が始まった。駅見学などの経験をもとに、自分たちで作った「駅」を使って、駅遊びを楽しみたいという気持ちが高まっている。

【ねらい】

自分なりにイメージしたものを形にして表したり、思いを言葉にしたりして伝えようとする。

【評価】

- ・作りたいものに合わせて空き箱や色紙などの素材を選び、切ったり貼ったりすることを楽しんでいる。
- ・でき上がったもので遊びながら、完成した喜びを言葉にして伝えようとしている。

【○幼児の活動

★環境の構成

■保育者の援助】

- ★子どもたちのイメージを引き出せるように駅見学の写真や絵、各駅のスペースを用意しておく。
- ★いろいろな素材に触れることができるように、部屋の中央に材料コーナーを作っておく。

○材料を選んでグループの駅の中にあるものを作る。

何を作ろうか。
【意欲】

これで何が作れるかな。
【想像】【思考】

○○を作るには
何がいるかな。
【見通し】



- 用意した材料の特徴や使い方を簡単に知らせることで駅作りへの期待感を膨らませるようにする。
- イメージできずに困っている子どもには、駅見学の写真や自分がかいた絵を見せたり、保育者も一緒に作ったりすることで、自分の思いを形にすることができるようにする。

○作ったものを駅（ダンボール）に置いたり、のりでつけたりする。

ここに階段が作りたいな。
【意欲】

のりではつかないよ。
【葛藤】

両面テープを使うといいよ。
【提案】



- 作りたいもののイメージに合わせて、材料を選び、切ったり貼ったりできるように、子どもの様子を見ながら声をかけていく。
- その子どもなりのがんばりを認めるとともに、作品を紹介することで、製作への意欲を高めるようにする。
- 参観日におうちの人と一緒に遊ぶことを知らせ、期待感をもたせるようにする。

○（参観日）できあがった駅で遊ぶ。

- ★できあがった駅で遊べるよう、各駅をつなぐための線路を用意しておく。

見て、ぼくの駅だよ。【満足感】

駅のお店屋さんに行こう。【期待感】

もっとかっこよく改造するぞ。
【探究心】
【試行錯誤】



- 参観日に作品発表の時間を設けることで、自分の製作を振り返り、表現に込めた思いなどについて、おうちの人に伝えることを楽しめるようにする。
- おうちの人と一緒にじゃんけん列車を行い、自分たちの作った駅で遊べることの喜びや友達と遊ぶ一体感を味わえるようにする。

【考察】

頭の中で思い描いているものや見たり聞いたりして感じたことなどの一人一人の思いを今回は「駅」として形に表した。イメージを膨らませ、自分の世界を楽しみながら作った子どももいれば、友達に刺激を受けながら作る楽しさを感じた子どももいる。ペースはそれぞれだが、自分で材料を選んだり、試行錯誤したりしながら作ったことで、より満足感が得られたのではないかなと思う。そして、イメージした駅が形となった喜びが自信となり、参観日の発表では自分の思いを言葉にすることができたと感じる。子どもたちなりの色々な形での表現を見逃さないように認め、次の活動へとつなげていきたい。

4 歳児 実践事例

観点 (興味・関心)

好きな遊びをしよう

(9 月)

視点 (意欲 ～おもしろそうだな～)

【遊びの経過】

夏休みを終えて2学期の始まりの日。新しい友達を迎えての始業式の後、久しぶりに園庭で好きな遊びをすることにした。雨上がりの園庭で、夏休み前まで楽しんだ遊びの続きをしたり、新しい友達を誘ったりしながら遊びを楽しむことになった。

【ねらい】

園庭で自分の選んだ遊びを楽しむ。

【評価】

・自分の選んだ遊びの中で、園庭にある自然物や遊具、道具等を使って遊ぶことを楽しんでいる。

【〇幼児の活動

★環境の構成

■保育者の援助】

★雨上がりの環境を生かし、水たまりやぬかるんだ土で遊べるよう手の届く場所に道具を配置する。

〇好きな場所で、好きな遊びを行う。

水をくんでみよう。

【好奇心】【意欲】



〈水たまりで〉

水が気持ちいいな。
【心地よさ】

水を流そう。

【意欲】【目的】



〈といをを使って〉

といを傾けよう。
【提案】

水が動いているよ。
【発見】



〈容器にたまった水を使って〉

ぐるぐる回すぞ。
【意欲】

■子どもの発見や疑問を捉えながら、自分のやりたいことが実現するように援助を行う。



園庭の環境構成図

■遊びが広がったり深まったりするように、保育者も一緒に遊んだり、声をかけたりする。
■遊びが見つからない子どもには、楽しく遊んでいる子どもを紹介するなど、やりたいことを決められるようにする。

穴があいているよ。
【発見】



何の穴かなあ。
【想像】

〈築山の上で〉

掘ってみるぞ。
【意欲】【期待】

落ちないで渡るぞ。
【挑戦】



〈園庭にある材木を並べて〉

もっと並べよう。
【意欲】【目的】

強いなあ。
【あこがれ】

どっちが勝つか、勝負だよ。
【競争】



〈園庭で見つけたオオバコで〉

■思いきり遊んだ満足感を味わったり、次の遊びへの期待感をもったりできるように、一人一人の子どもに声をかける。

【考察】

久しぶりの園での遊びであったが、たくさん子どもたちが自分の遊びを楽しんでいた。中には、じっくりと遊んでいるとは言えない子どもの姿が見られたが、一人一人の子どもに声をかけたり、一緒に遊んだりすることで、遊びを楽しむことができた。

花や虫、水や土など身のまわりの環境に自らかかわることで、新しいことを発見したり遊びを追究したりするなど子どもが自ら考え遊びを進める姿を捉え、保育者は、環境を構成し、援助を行っていく必要がある。ねらいから離れず、かつ子どもの思いに寄り添いながら保育を行うために、保育者間の情報共有の時間を有効に活用し、子どもの遊びの充実をめざしていく。

4 歳児 実践事例

観点（生活）

舟こぎ遊びをしよう

（10月）

視点（健康 ～げんきいっぱい～ 運動）

【遊びの経過】

舟こぎ運動をベースにした舟こぎ鬼ごっこ、舟こぎリレーなどの遊びを楽しんできた。また、ルールを教え合ったり、友達と協力して遊びを進めようとしたりする姿も見られるようになってきた。

【ねらい】

友達や保育者と力いっばい体を動かして遊ぶことを楽しむ。

【評価】

・舟をこぐイメージを共有しながら、腕や足など全身を使って部屋中を動き回って遊ぶことを楽しんでいる。

【〇幼児の様子

★環境の構成

■保育者の援助】

★安全に思いきり体が動かせるよう、遊戯室のスペースを広く取っておく。

〇舟こぎ探検に出かける。

さあ、探検に出発だ。

【意欲】
【期待感】

しっかりオールを漕いでいこう。

【動きの工夫】
【思考】

みんなで声を合わせよう。
「オーエス！」

【提案】【協力】



■保育者も一緒に運動をしながら、海へ舟をこぎ出すイメージが広がるような声かけを行い、本時の活動への期待が膨らむようにする。

■子どもたちの体幹が育つよう、腕や足の正しい使い方を丁寧に知らせる。

■腕や足を力いっばい使って舟漕ぎ運動を行っている姿を認め、まわりの子どもにも知らせることで体を動かして遊ぼうという意欲を高める。

〇舟こぎ鬼ごっこをする。

腕をいっばい振ると、速く進むなあ。

【発見】
【動きの工夫】



足が疲れた。でも、がんばって逃げ切るぞ。

【チャレンジ】

どっちに逃げたらいいかな。【思考】

■子どもの遊びの姿を見守りながら、体力や集中力に応じて無理なく参加できるように援助していく。

■保育者も遊びに加わり、個別に誘いかけをしながら、ルールのある遊びを友達と一緒に楽しめるようにする。

■がんばっている姿や、子どもたちの考えた作戦や動きをその都度言葉にして認め、遊びが深まるようにする。

〇アイデアを出し合いながら、繰り返し遊ぶ。

もう1回しよう。

【意欲】
【満足感】



鬼をよく見ながら後ろ向きで逃げると捕まらなかったよ。

【動きの工夫】

■話したい気持ちを受けとめ、子どもから出たアイデアや意見をうまく引き出し広げていく。

■満足感を味わうとともに、次回の活動への意欲につながるよう、子どもたちが全身を使ってがんばっていた姿や協力していた姿を認めていく。

【考察】

舟こぎ運動に、探検、鬼ごっこ、リレーなどいろいろな遊びの要素を加えることで、毎回興味や意欲をもって遊びを楽しむことができた。また同じ遊びに継続して取り組むことで、遊びを最後まで楽しめる体力も育ってきた。今後も子どもたちの興味・関心のあることを遊びに取り入れ、主体的な活動になるよう心がけるとともに、多様で巧みな体の動きが身につくような活動を計画的に取り組むことが大切だと考える。また、遊びに変化をもたせ、バリエーションのある動きを取り入れた遊びを工夫していきたい。

4 歳児 実践事例 みんなのひろばで遊ぼう～みんなでのぼる、ころがす、わたる～（10 月）

観点（ 興味・関心 ）

視点（ 探究心 ～どうしてかな～ ）

【遊びの経過】

散歩で見つけた秋の自然物を飾った大きな段ボールの中でままごと遊びを楽しむ姿があった。次第に、その段ボールと丸太渡りや竹渡り、木登り等を組み合わせ、起伏に富んだ園庭で、秋の自然物を使ったいろいろな遊びを楽しみたいという気持ちが高まってきた。

【ねらい】

自分なりに試したり工夫したりしながら遊ぶことを楽しむ。

【評価】

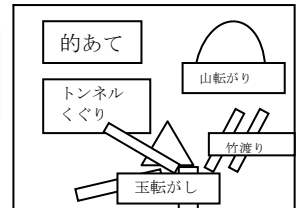
・どうしたらまっすぐ転がるか、どうしたら的に当てることができるかなど、繰り返し試して遊ぶことを楽しんでいる。

【○幼児の活動

★環境の構成

■保育者の援助】

- ★子どもたちと一緒にコーナーの準備をする。（木登り、玉転がし、山転がり・すべり、竹渡り、トンネルくぐり、木の実の的あて）
- ★意欲が高まるように、子どもたちが考えた配置にする。
- ★様々な大きさや形の材料を準備する。（落ち葉、玉、ドングリ、オナモミ）



○各コーナーで遊ぶ

＜トンネルくぐりコーナー＞

- ・トンネルをくぐったり、落ち葉で遊んだりする。

トンネルをくぐってみよう。

【意欲】
【チャレンジ】



上に投げたら面白い。

【気付き】

＜木登り、玉転がしコーナー＞

- ・タイヤを足場にして木に登り、竹に玉を転がす。

すごいスピードで転がるよ。

【発見】

まっすぐ転がすぞ。

【探究心】



大きい玉がよく転がるよ。もっと転がそう。

【気付き】【意欲】

＜木の実の的あてコーナー＞

- ・オナモミ等の実を的に当てる。

どうやったら的に当たるかなあ。

【疑問】

ゆっくり投げるといいよ。

【気付き】



真ん中をねらって投げろぞ。

【チャレンジ】

○片付けをする

■子どものつぶやきや楽しんでいる様子をまわりの子どもたちに知らせ、友達と遊ぶ喜びを感じられるようにする。

■木から落ちたり、友だちとぶつかったりしないよう保育者は連携を取りながら、安全に遊べるようにする。

■遊びが見つからない子どもには、興味がもてるよう保育者が楽しそうに遊んで見せたり友達が遊んでいる姿を知らせたりして誘いかけていく。

■順番が守れなかったり、物の取り合いになったりした時は、お互いの気持ちを受け止めながら、友達の気持ちに気づいていけるように仲立ちをする。

■自分なりに工夫して遊んだり、挑戦したりする姿を認め、まわりに紹介することで、遊びへの意欲を高めるとともに遊びが広がるようにする。

■一緒に片付けをしながら、「次はこうしたい。もっと作りたい。」など子どもたちの思いを受け止め、次回の遊びでは、どのような遊びの発展をするのか考えられるようにする。

【考察】

自分たちが見つけてきた自然物を使ったことで、子どもたちはイメージを膨らませながら意欲的にコーナー作りをし、夢中になって遊ぶことができた。また、繰り返し遊ぶ中で生まれた様々な疑問に対して自分なりに工夫したり、遊びをさらに発展させるための方法を友達同士で相談したりして、活動をより楽しいものにしていった。今後も子どもたちの思いや意欲を引き出しつないだりするための適切な援助を行うとともに、自然を活用した子どもたちにとって魅力的な環境の構成を工夫していきたい。

(6) 5 歳児

5 歳児 実践事例

しずくちゃん 見つけた (7 月)

観点 (興味・関心)

視点 (表現 ~つたえたいな しりたいな~)

【遊びの経過】

生活や遊びの中で言葉の楽しさや美しさにふれさせたいと多くの絵本を紹介してきた。また、共通体験(遊び)をたくさん積み重ねることにより、意見を出し合ったり、会話を楽しんだりする姿が見られるようになった。そこで、大好きなプール遊びの前に絵本の読み聞かせをし、絵本の世界にみんなで浸れるような遊びをすることにした。

【ねらい】

自分の思いを伝え、イメージを膨らませながら、友達と遊ぶことを楽しむ。

【評価】

- 絵本の中に出てきた言葉を繰り返し話したり、しずくちゃんの真似をしたりして、友達と会話を楽しんでいる。

【○幼児の活動

★環境の構成

■保育者の援助】

★絵本を自分たちでいつでも見られるよう保育室に置いておく。

★子どもたちが選んだ絵本の中から、「しずくのぼうけん」の読み聞かせをする。

○「しずくのぼうけん」の絵本を見る。



どんな話かな。
うれしいな。【喜び】

次は、〇〇に
行くよ。
【想像】【期待】

しずくちゃんに
会いたいな。
【期待】【願い】

■一人一人が「しずく」に興味をもちながら絵本を見られるよう、子どもの表情を見て、反応を確かめながら話を進めていく。

■話の終わりに「しずくは、今度はどこに行くのかな。」とそれぞれが思いをめぐらせたり、イメージを広げたりできるように読み聞かせを終える。

★絵本の世界を体験できるようなプール遊びを設定する。

○プールの中でぐるぐる回って遊ぶ。

うわあ、洗濯機みたい。
【想像】【感動】

うわあ、流されそうだよ。【発見】



しずくちゃんみたい。
【発見】

しずくちゃん、目がまわらないのかな。
【疑問】

■生活の中で、しずくを意識して、思ったことを伝えようとする姿を丁寧に受け止め、かかわっていく。

■個々の気づきやイメージした言葉をまわりの子どもたちと共感できるように言葉かけをする。

○プールからあがり、シャワーを浴びる。

あっ、しずくちゃん、見つけた。
【発見】【喜び】

しずくちゃん、タオルで拭いたら、いなくなった。【発見】

雨が降りそうだよ。【気づき】

流れて、どこかに行っちゃった。
【心配】

冒険に行ったのかな。【想像】

しずくちゃんが雲から落ちてくるかも。【想像】【期待】

■保育者も一緒になって、体についたしずく見つけをする。

■絵本「しずくのぼうけん」の内容と同じような場面に気付いて、友達に伝えている姿に共感し、一人一人のイメージが広がっていくようにかかわっていく。

【考察】

絵本を読んで以降、絵本と同じような場面に出会うと、「しずくちゃん、ここにいたよ。」と友達と話をし、これまでは気付かなかったり、感じなかったりしたことにも目を向けている姿が見られるようになった。しずくに思いを寄せ、ぼうけんする様子を自分なりに想像することで、生活や遊びの中での「しずく」との出会いを楽しむ姿につながったと思う。そして、絵本から広がるイメージの世界を友達と共有することで言葉の世界が広がり、会話を楽しむことができたように思う。

今後も絵本を通しての活動を取り入れ、言葉の世界を楽しみながら、イメージを広げ、遊びを楽しめるようにしていきたい。

【遊びの経過】

友達との砂遊びの中で、砂山の大きさや形、固さなどについての気付きや発見を共有し、力を合わせて砂山を変化させて遊ぶ楽しさを感じてきた。そして、砂遊びに水を加えることにより、遊びが広がったり深まったりしておもしろくなることに気付いた子どもたちの間で川作りが始まった。

【ねらい】

砂や水の感触を楽しみながら、友達と工夫して遊ぶことを楽しむ。

【評価】

- ・自分の作りたい物のイメージに向かって自分の考えを出したり友達のアイデアを取り入れたりしながら、いろいろな道具の使い方を工夫して山や川を作ることを楽しんでいる。

【○幼児の活動

★環境の構成

■保育者の援助】

★ナイロン袋、スコップ、水運び用バケツなど十分な数を準備する。

★川作りではいろいろな方法を試すことができるように、といやペットボトル等を準備しておく。

○山や川作りをし、どのようにすれば水が流れるのか考えたり試したりする。



大変、山が崩れる。
【切実感】

スコップでたたいて固くしよう。
【発見】【思考】

片方を高くしたら水が流れやすいよ。
【発見】【共有】

といから水が漏れるよ。どうしよう。
【不安】【工夫】

■子どもが楽しんでいる様子や思いに共感しながら保育者も一緒に楽しみ、遊びを盛り上げる。

■一人一人の発見や工夫を大切に受け止め、周りの友達にも知らせることで、遊びの楽しさが共有できるようにする。

■思うようにいかなかったり、どうしていいかわからなかったりする子どもには、周りの友達の様子に目を向けられるような声かけをして、意欲がもてるようにする。

○水がたくさん溜まるよう考えながら池を作る。



どうしたら池にきれいな水が溜まるのかな。
【試行錯誤】

水がもれないように堤防を作ろう。
【試行錯誤】【提案】

ナイロンが動かないように砂で押さえよう。
【工夫】

ナイロンを敷いたらいいかも。
【発見】

★自分たちで発見したり試したりできるように、スコップなどいろいろな用具を準備しておく。

■子どもたちで意見を伝え合いながら遊びを進めることができるように見守り、声をかける。

■気付きを大切に、しっかり認めたり、共感したりして自信につなげる。

○どうしたら水をこぼさずにたくさんくめるか考え、友達と一緒に水を運ぶ。



どうしたらたくさん水が溜まるかな。
【試行錯誤】
【共通の目的】

もっといい方法はないかな。【思考】

■工夫している友達の様子を紹介することで、それぞれが自分の考えを深められるようにする。

■友達と協力し、水を運ぶ姿を認め、一緒に取り組む楽しさや達成感を味わえるようにする。

【考察】

砂や水という素材を使い、驚きや発見の中から考える姿や成功と失敗を重ね試行錯誤する姿が多く見られるようになってきた。また、様々な用具の使い方を工夫し、山や川作りを行うことで友達と協力して作り上げる喜びを感じることができた。まさにそれは、心が動く体験となっていたように思う。更に遊びが深まるよう繰り返し砂遊びができる時間を確保したり、新たな気付きが生まれるような保育者の援助や環境の構成を工夫したりしていきたい。

観点 (人とのかわり)

視点 (協同性 ～いっしょにやろうよ～)

【遊びの経過】

生活発表会に向けて今まで経験したことやがんばってきたことを劇にしたいという思いが高まった。あいさつや言葉を大切にしてきたので、それを題材にしたいと意見がまとまった。劇の内容や配役をクラスで話し合ったり、セリフや動きなども同じ役の友達と相談して決めたりして進めている。

【ねらい】

自分の思いやアイデアを出したり、友達の意見を聞いたりしながら劇作りを楽しむ。

【評価】

- ・友達と思いやアイデアを出し合い友達の意見を取り入れながら、劇の内容や配役、セリフ、動きなどを決めて劇作りを楽しんでいる。

【○幼児の活動

★環境の構成

■保育者の援助】

○みんなで決めた劇の内容を確認し、内容や場面に合ったセリフを考える。

どんなあいさつの言葉があるかな。

【提案】

「おはよう」
「こんにちは」があるよ。

【発見】



他にも気持ちの良い言葉がないかな。

【提案】

「ありがとう」
「ごめんなさい」もあるよ。

【気づき】

どんな言い方がいいかな。

【提案】

■今までみんなで大切にしてきた気持ちの良いあいさつや言葉を思い出し、その時にどんな気持ちになったかを考えられるように話し合う場を設ける。

■どんな時にどんな言葉を使うかを子どもと考えながら色々な気持ちの言葉を引き出していく。

■自分の生活を振り返ることができるように具体的な場면을提示していく。

★劇で使う宝箱を見せ、宝箱には素敵な言葉をしまおうと知らせ、言葉見つけに期待がもてるようにする。

○自分の考えた言葉を発表する。

机を出す時に手伝ってくれたよ。
これは「ありがとう」だね。

【発見】



転んだ時に助けてくれたよ。
これも「ありがとう」だね。

【イメージの共有】

■子どもたちの見つけた言葉の意味を子どもたちと考え、宝箱に入れるのにふさわしい言葉を決められるようにする。

★泥棒からの手紙を見せ、素敵な言葉の入った宝箱を取り返そうとする気持ちを高める。

○次の展開を考える。

泥棒が素敵な言葉をとっていくという話はどうかな。

【提案】

宝箱がなくなったらどうする。

【疑問】

困ったな。いい考えが出てこないな。

【葛藤】 【試行錯誤】



宝箱を見つけたら、泥棒は返してくれるかなあ。

【疑問】

クイズに答えられたら返してもらえるというのはどうかなあ。

【提案】

じゃあ、みんなでクイズを考えよう。

【協力】 【意欲】

いいねえ。

【共感】

■子どもたちの意見をみんなで決めた劇のストーリーと照らし合わせ、納得して楽しめる言葉や内容を選ぶように確認し合う。

■どんなことをクイズにしたら楽しいか、今まで経験したことの中から考えられるように、色々なヒントを出す。

■クイズのまとめをし、答え方や問題の出し方について一緒に考えていく。

【考察】

クラス目標として意識して取り組んできたことを題材にした劇作りであったため、子どもたちは、自分たちの生活を振り返りながら活動することができた。保育者が適切な働きかけをすることにより、内容・表現・配役などの決定の際にも活発に意見を出し合い、友達の意見を取り入れたことで劇作りを楽しむことにつながったと考える。また、それを発表会という場で大勢の人に見てもらうことで自信につながった。今後も共通の目的をもち、意見を出し合いながら1つの作品を作りあげる楽しさが感じられる遊びを計画的に取り入れていきたい。

5 歳児 実践事例 シンボルツリーを作ろう (12 月)
観点 (人とのかわり) 視点 (協同性 〜いっしょにやろうよ〜)

【遊びの経過】

様々な園の行事や活動を体験し、次第に自分たちが主体的に活動に参加し、自信をもって意欲的に過ごす姿がみられるようになってきた。また、友達と話し合ったり、協力して活動したりすることも増えてきた。クリスマスが近づき、クリスマス会に期待をもっている子どもも多く、興味や関心をもって飾り付けをしたり、歌を歌ったりしている。

【ねらい】

クラスの友達と意見を出し合い、協力しながらシンボルとなる大きなツリーを作ることを楽しむ。

【評価】

・自分の考えを出したり、友達の意見を取り入れたりしながら、協力してツリー作りを楽しんでいる。

【○幼児の活動

★環境の構成

■保育者の援助】

★自分のイメージしたものを工夫して作ることが楽しめるよう、自然物やリサイクル材など材料を並べておく。
(松ぼっくり、ドングリなど木の実、枝、ビーズ、スパンコール、空きカップ、ボンド、マジック、はさみ等)

○色塗りをしたダンボールをツリーの形に積み重ねる方法を相談する。



できてきたね。
【達成感】

そっち、手伝おうか。
【協力】【人とのかわり】



この大きいのは土台に使おうよ。
【提案】

○飾りを作る。

どれにしようかな。
【興味・関心】【期待】

ここ持っというて。
【人とのかわり】

いいよ。【協力】

松ぼっくりを使って作ろう。
【提案】

それ、いいな。やってみよう。
【共感】【意欲】

○高い部分にも飾り付けをし、シンボルツリーを完成させる。

みんなに見てもらいたいな。
【達成感】

みんなで作ったから、こんな大きなツリーになったよ。【感動】【満足感】



■ダンボール集めや箱の色ぬりなど、これまでの活動を振り返り、活動への意欲や期待が高まるように声をかける。

■みんなで色を塗ったダンボールがどのようにしたらツリーの形になるのか友達と相談できる場を設け、意見を出し合えるようにする。

■倒れないツリーを作るために、箱の大きさや高さを変えてバランスを見ながら友達同士で作業を進められるよう言葉をかけたり見守ったりする。

■友達同士でどんな飾りを作るか相談したり、楽しさを共有しながら作ったりする姿を認め、誉めることでまわりにもその姿を広げていく。

■一人一人の材料の選び方や工夫の仕方を紹介して、友達と意見を出し合いながら協力して作ることができるよう働きかける。

■完成を見通しながらツリーができ上がっていく喜びを共有する。

■みんなで協力して一つの高いツリーを作り上げようとする雰囲気を大切にする。

■完成したツリーを囲み、達成感や満足感を共有する時間を設け、今後のクリスマス会に向け、期待や意欲を高めていく。

【考察】

子どもたちは例年、園内でクリスマスの飾り付けをしていた経験があり、シンボルツリーのイメージをもちやすかったと考える。自分のクラスにもツリーを飾りたいという子どもの気持ちに寄り添い、材料となる大きなダンボールをみんなで集めた。このことから、これから始まるツリーづくりに期待をもってクラスで取り組もうという意欲につながることができた。飾り付けも友達に刺激を受けて真似たり、相談したりしながらかわる姿があった。また、実際に大きなツリーができあがり、クラスのシンボルとして年下の子どもたちが見に来てくれることに誇らしさを感じている様子も見られた。その意欲を大切にし、今後、年長としてクリスマス会の内容を考えたり、司会をしたりするなど主体的に参加する活動へ展開していきたい。

5歳児 実践事例 さくら組 VS うめ組 新聞玉合戦をしよう (2月)

観点 (人とのかかわり) 視点 (きまり ~たのしいね~)

【遊びの経過】

雪遊びを十分に楽しむ中で、雪合戦を楽しみにしていたが、雪が溶けてしまったため、新聞紙を使って新聞玉合戦をすることになった。各クラスで必要な道具やルールをつくり、新聞玉合戦を楽しむうちに、クラス対抗で対戦しようということになった。

【ねらい】

自分たちでルールを考えて新聞玉合戦を楽しむ。

【評価】

・クラスごとのルールを合わせた新しいルールを考えながら、自分たちで遊びを進めようとしている。

【〇幼児の活動

★環境の構成

■保育者の援助】

- ★期待感を高めるため、子どもたちの手作り基地などを遊戲室に配置する。
- ★事前の作戦会議を各保育室で行い、活動への意欲や期待感を高めるようにする。

〇新聞玉合戦をする。(→ 両者が「勝ち」)

やったあ、勝ちだ。
【達成感】

ぼくたちも勝ちだ。
【満足感】

両方勝ちなんておかしいよ。
【疑問】

ルールを合わせたらいい。
【提案】
【共通の目的】

■あえてルールの確認をせず、ゲームの終了後に、子どもたち自身が対戦のルールがなかったことに気づき、新しいルールの必要感がもてるようにする。

■各クラスの保育者が勝ち負けの判定をせず、両クラスともに勝ったことを喜んで見せ、子どもたちの気づきを待つ。

〇勝敗を決めるルールを話し合う。

玉を当てたのに座らなかった。
【気づき】

うめ組は当たったら座るよ。
【説明】

(どうしたらいいかなあ。)

王冠をとったら勝ちにするのはどう。
【提案】

それがいいよ。
【共感】

■保育者が子どもたちの考えを分かりやすくホワイトボードにまとめ、話し合いの内容を視覚的に捉えられるようにする。

■それぞれのクラスのルールで対戦していたことに気付かせ、統一した新しいルールを使って遊ぶための話し合いが行えるようにする。

〇話し合っで決めたルールで新聞玉合戦をする。

王冠をとるんだよ。
【確認】
【共通の目的】

当たったら座るよ。
【確認】

負けちゃった。次は負け
ないぞ。
【意欲】

作戦を考えよう。
【思考】【工夫】

■みんなで話し合ったルールを守って対戦したことをほめ、遊びの楽しさや他のクラスとの一体感を味わえるようにする

■勝敗へのそれぞれの感情を大切に、次の活動へ向けて、作戦を工夫したり新しいルールを考えたりするきっかけづくりとなるよう声をかける。

*吹き出しの () 内は、保育者の言葉かけ

【考察】

子どもたちが必要感をもって話し合いを行うとともに、自分たちで遊びを創り上げていくことの楽しさを感じてほしいと願い、あえてルールを確認しないで活動を展開した。子どもたちは、一生懸命話し合いに参加し、自分の考えを伝えようとしていた。新聞玉合戦を楽しみたいという切実な思いが表れていたと感じる。この体験から、その後、次々に遊びを工夫する姿が見られるようになり、子どもがやってみたいと心が動く経験を重ねていくことの大切さを実感した。今後も、子どもにとって魅力的で切実感のある活動と環境づくりに取り組んでいきたいと考える。

(7) 2～5歳児

3・4・5歳児 実践事例

裏山で水遊びをしよう (5月)

観点 (興味・関心)

視点 (探究心 ～どうしてかな～)

【遊びの経過】

水遊びが大好きな子どもたちは、用水路での遊びを楽しんでいる。地域の人の協力で裏山に水が流れる設備ができ上がった。いつもとの違いに気付いた子どもたちは、興味をもって裏山に行き、最初は戸惑っていたが、自分なりの遊びを展開し始めた。

【ねらい】

(3歳) 身近な自然と触れ合う中で様々な事象に興味や関心をもって遊びを楽しむ。
(4、5歳) 身近な自然に興味や関心を持ち遊ぶ中で、新しい環境へのかかわり方や遊び方を工夫して楽しむ。

【評価】

(3歳) 水の感触を楽しむとともに、水の流れに発見や驚きを感じながら水路での遊びを楽しんでいる。
(4、5歳) 水路に物を流したり、水の流し方を考えたりして、工夫して遊ぶことを楽しんでいる。

【○幼児の活動 ★環境の構成 ■保育者の援助】

★裏山の水路からビニールの筒を通して園庭に水が流れるようにしておく。

○裏山に行き、水の流れに興味をもって遊び始める。



花を入れてみようや。

【発見】【探究心】

入ったよ。あっ、流れてきた。

【気付き】【満足感】

こんな方法もあるよ。【試行錯誤】

■地域の方々にお世話になってでき上がった遊び場であることを伝え、感謝の気持ちをもてるようにする。

■どのような反応をして遊びに取り組むのかじっくり観察し、子どもの気付きや驚きに共感する。



水を止めよう。
【挑戦】

面白いなあ。
【夢中】
【満足感】



急に水が流れてきたよ。【発見】

■遊びの中で子どもたちが何を必要としているかを見取り、声をかけたり、必要な物を一緒に準備したりする。

■気付きを言葉にする子どもに共感したり、気付きをまわりの子どもへ紹介したり広げたりする。

■保育者も一緒に遊びに参加し、楽しさを分かち合う。

○水の遊びを工夫する。

ここから石を入れたら流れるかな。【探究心】



大丈夫、流れそう。
【予想】

プールにお水が入るよ。
【意欲】【満足感】



お水、ぬるいよ。
【気付き】【遊びの共有】



カエルになったよ。
【表現】【満足感】

楽しいなあ。また、しような。
【満足感】【達成感】

■楽しいという気持ちが膨らむよう、子どもたちの気持ちに共感する。

■水に対して興味をもち、子どもたちが自分で考えた遊びが十分楽しめるよう、安全に配慮しながら見守る。

■また遊びたいという気持ちを持ち、次回はどんなことをしようかと考えられるような環境にするため、子どものつぶやきや様子を見逃さないようにする。

【考察】

子どもの動きに合わせて形を変える水は、子どもたちにとって大変魅力的な遊びの素材であり、子どもたちは様々な発見や気付きを楽しんでいた。遊びの主体として水にかかわり、「ものを流す」「流れを止める」「一気に流す」などの遊びに夢中になり、自分のイメージに向かって思考したり、試行錯誤したりすることができたと考える。今後も、子どもたち自らが自然素材にかかわり、身体や五感を使った経験を通して、自分で考え工夫して遊びこみ、遊びきることができるように地域の自然環境を生かした保育を行っていきたい。

2・3・4・5歳児 実践事例 第4回わくわくデー「作って遊ぼう てるてる坊主」(6月)
 観点 (人とのかかわり) 視点 (協同性 ～いっしょにやろうよ～)

【遊びの経過】

いろいろな人とのかかわる喜びを味わってほしいと、異年齢のグループ活動をしている。ペアを決め、ふれあい遊びや伝承遊びなどを通し、少しずつ声をかけ合って遊ぶ姿が見られるようになってきた。誕生会の縦割りグループ発表のときに使いたいという声をもとに、青グループでは曲のイメージに合わせて、てるてる坊主を製作することになった。

【ねらい】

- (2歳) 異年齢児と一緒に安心して製作することを楽しむ。
- (3歳) 異年齢児と会話しながら製作することを楽しむ。
- (4歳) 友達と一緒に協力して製作することを楽しむ。
- (5歳) 異年齢児に作り方を知らせながら、みんなで製作する楽しさを味わう。

【評価】

- (2歳) 異年齢児の様子を見て、真似ながら一緒に製作することを楽しんでいる。
- (3歳) わからないことを聞いたり、真似たりしながら一緒に活動することを楽しんでいる。
- (4歳) 異年齢児に声をかけながら、協力しててるてる坊主を作ることを楽しんでいる。
- (5歳) 年下の子の様子を見守ったり作り方を知らせたりしながら、てるてる坊主を協力して完成させることを楽しんでいる。

【○幼児の活動

★環境の構成

■保育者の援助】

★てるてる坊主の製作に必要なものを並べておく。

○年長児たちがリードしながらてるてる坊主を製作する。



手伝って。【要求】
【人とのかかわり】

見せて。
ぼくがやってあげるよ。
【意欲】【思いやり】

これはどうやってするの。
【疑問】【思考錯誤】



シールが
はがれないな。
【葛藤】

こうやってするんだよ。
見ててね。【自信】【提案】

友達のをまねして
やってみよう。
【挑戦】【意欲】

すごい。できたぞ。
【達成感】



シールはどうやって
貼ればいいのか。
【疑問】

■年長児が見通しをもって活動をリードすることができるように、ナイロン袋、シール、モールなどを順番に並べておく。

■4月からの固定のペアで座り、安心した気持ちで互いに協力しながら製作に向かえるようにする。

■年中・年少児が作りやすいように年長児が「こうするんだよ。」と声をかけているところや、互いができているかを確認し合っているペアをほめることで、協力しながら製作を進めることができるようにする。

■模様のつけ方などを工夫して作っている様子を認め、「世界にひとつの自分だけのてるてる坊主ができたね。」などとそれぞれのアイデアを友達に伝え、自信につながるようにしていく。

■作ったてるてる坊主を身に付けて遊戯室のステージで踊ってみよう誘い、最後まで一緒に製作しようという意欲につながるようにする。

【考察】

2歳児や3歳児にとっては細かい作業で数多くの工程があるが、5歳児にとってはこれまでの経験から見通しの立ちやすい活動を設定し、教え合いながら製作できるようにした。ペアを基本にして、教え合いながら進めることにより、完成を一緒に喜ぶ姿が見られた。また、子どもたちは誕生会を成功させたいという共通の目標へ向かう気持ちが高まり、意欲的な活動となった。ペアで一緒に製作を進める中で次第に安心感が生まれ、5歳児には、責任感も芽生えたようである。今後も友達とつながる楽しさや年齢の異なる友達と協力する喜びを感じられる遊びを多く取り入れたい。

夢中になって
遊びこむ子どもたち



『遊びきる子ども』をめざして

第Ⅳ章「園内研修用DVD」で紹介した実践

この章では、別添の「園内研修用DVD」に収録している保育実践及び園内研修例を紹介しています。

★掲載している保育実践及び園内研修例紹介

- 1 「みんなで『かえるの運動会ごっこ』をしよう」(4歳児)〈9月〉
～ 保育者の援助と環境の構成について考えよう ～

◇園内研修例① 【保育者の援助】をテーマに研修しましょう

◇園内研修例② 【環境の構成】をテーマに研修しましょう

- 2 「木工遊びを楽しもう」(4・5歳児)〈10月〉
～ 視点を絞って保育を振り返ろう ～

◇園内研修例③ 視点を絞って保育を振り返りましょう

◆園内研修紹介 「実践事例の作成を通した園内研修」

- 3 「ばら組迷路を作ろう」(5歳児)〈10月〉
～ 様々な側面から子どもの姿や育ちをとらえよう ～

◇園内研修例④ 様々な側面から子どもの姿や育ちをとらえましょう

★園内研修用DVDとあわせて活用しましょう★



自園の研究テーマに合わせて

子どもの心の動き、主体的な学び、友達とのかかわり等、園の研究テーマに合わせて、録画映像を視聴し、協議することができます。

みんなで一緒に

同じ保育場面を視聴し、協議することで、多面的に子どもの姿を見取ることができます。

いろいろな研修会で

園全体の研修で、グループの研修で、個人の自主的な研修で、小学校等の研修で・・・様々な用途で活用することができます。

★活用方法★

必要な情報を選んで

チャプター構成になっているので、視聴したい部分のみを取り出して活用することができます。

繰り返し何度でも

映像を止めたり、音を消したりして、表情や行動を読み取ることができます。協議を行った後に再度、視聴して幼児理解を深める等、何度も繰り返して活用することもできます。

1「みんなで『かえるの運動会ごっこ』をしよう」（4歳児：協同性）〈9月〉
～ 保育者の援助と環境の構成について考えよう ～

◇園内研修例① 【保育者の援助】をテーマに研修しましょう

◇園内研修例② 【環境の構成】をテーマに研修しましょう

下記の実践事例は、ねらいを『運動会ごっこ』に必要なものを友達や保育者と協力して作ることを楽しむ」として、協同性の視点で行われた保育をまとめたものです。

4歳児 実践事例 みんなで「かえるの運動会ごっこ」をしよう （ 9月 ） 観点（ 人とかかわり ） 視点（ 協同性 ～いっしょにやろうよ～ ）	
【遊びの経過】 子どもたちは、「10ぴきのかえる」の絵本シリーズとの出会いから、いろいろなかえるごっこ（相撲大会、家づくり、ピクニックなど）を楽しみ、10月の運動会では、「かえるの運動会ごっこ」をしようと気持ちが高まっている。朝登園した子どもから必要な道具作りが始まった。	【ねらい】 運動会ごっこに必要なものを友達や保育者と協力して作ることを楽しむ。
【評価】 ・運動会の会場や大道具、応援グッズなどの遊びに必要なものを、自分の思いを伝えたり、友達の考えを聞いたりしながら楽しんで作ろうとしている。	
【○幼児の活動 ★環境の構成 ■保育者の援助】 ★自分のやりたい遊びを選んで製作活動を行えるように保育室内に遊びのコーナーを配置しておく。 ○自分がやりたい遊びを楽しむ。（主な活動のみ記載） 【応援グッズ作り】 おもしろそうだな。【興味・関心】 上手だね。【目標】 旗作り みんなの旗を作るぞ。【意欲】 かえるもかこう。【アイデア】 それどうやってするの。【人とかかわり】 教えてあげるよ。【有用感】 いろんな絵をかこうね。【相談】	【環境構成図】 P 6 1 参照 ■友達とかかわりながらグッズが作れるように、子どものアイデアを認めたり、作ることを保育者が回りの子どもに伝えたりする。 ■作り方が分からない子どもには、「作り方説明書」を見せたり、友達に教えてもらうようにアドバイスしたりする。 ■思い思いに描いている子どもの様子を見守るとともに、友達とかかわり合いながら活動できるように、保育者も一緒になって旗作りを行う。
【玉入れかご作り】 倒れるよ。どうしよう。【葛藤】 テーブルでつないだらいいんじゃない。【思考】 ここ、持っておくから貼って。【協力】	■かごが安定せず困っている子どもの様子を見守り、接着の仕方や空き箱などの組み合わせのヒントとなるような言葉かけを行う。 ■まわりの子どもたちにも、困っている子どもの様子を伝え、一緒に作り方を考えたり、作ったりできるようにする。
【考察】 この活動のあと、運動会の道具を楽しいものにするために、うまくいかないところをみんなで工夫したり、相談したりする時間を設けた。友達の「玉入れかごを立たせたい」という願いを知って、子どもたちはいろいろな考えを出し、友達に説明する姿が見られた。そこでは、テーブルの種類の使い分けや、土台となる空き箱の活用の仕方などについて、これまでの経験をもとに話していた。 この話合いを生かし、子どもの思いを実現するとともに、さらなる遊びの深まりや広がり求めて、環境の構成や援助を行っていくことが課題であると感じた。遊びに十分な時間があるか、子どもの思いを達成するのにふさわしい材料や道具があるか、活動と一緒に進める友達の存在があるかなどに留意しながら活動を進めていきたい。	

園内研修例①【保育者の援助】をテーマに研修しましょう

「園内研修用DVD」収録場面（Chapter2）を使って

- ・下記（青色枠内 ）の子どもに対して、どのような援助を行うか、自分の考えをもとに協議しましょう。（園全体、グループ）

自園の保育実践をもとに

- ・保育参観用紙や付箋等に、【保育者の援助】について記録をしながら保育を参観し、【保育者の援助】の仕方について協議しましょう。（園全体、グループ）
- ・自園の保育場面をビデオで録画・視聴し、必要と思われる【保育者の援助】について研修しましょう。

★様々な援助の仕方について意見を交換することで、適切な援助につながります。
★園全体、保育者自身の教育力・保育力の向上につながります。



DVD収録保育場面から

前ページ（実践事例）の赤枠の部分に注目してみましょう。

この子どもは、玉入れのかごをまっすぐに立たせたいのですが、いくらテープを貼っても、空き箱をたして土台を広げてもうまくいきません。そこには、悲しそうな表情をしながらも、試行錯誤し粘り強く作る子どもの姿がありました。



～どうしたらいいのかな～

このことに保育者は気づいていました。しかし、「友達と一緒に作りあげてほしい」という願いを持っているため、長い時間子どもの様子を見守り、アドバイスは行いませんでした。

長い時間待ったあと保育者が行った援助によって、子どもたちのかかわりが生まれ、一緒に作り出す姿が見られたのです。



園内研修例②【環境の構成】をテーマに研修しましょう

自園で研究保育を実施した時に

(例1) 見つけた保育の環境を付箋に記入します。

- ・どんな環境が構成されていたか
 - ・自分だったらどんな環境を構成するか など
- (※違う色の付箋に記入)

(例2) ・保育室の配置図等へ保育の環境を記入します。

(例3) ・各自が保育の環境の写真を撮影します。



★ねらいに迫る環境の構成、再構成について協議を行い、次の保育につながる取組とすることができます。

★子どもの主体性を引き出すための環境の構成を、自園の研究テーマや職員体制などに合わせて協議していきましょう。

DVD収録保育場面から

この事例では、下記のような環境を整え、保育を行っています。

これまでの遊びの経過を示すもの、実際に子どもたちが手にとって遊びに活用できるもの、子どもたちに気づいてほしいことを示すものなど、子どもの実態や遊びの経過に応じて、保育者が意図をもって構成しています。

環境構成図解説

環境構成図



【環境構成図解説】

- ① 親子で作った「かえるTシャツ」を飾っておく（運動会専用）。
- ② コーナー遊びのマグネットボードに、ごっこ遊びに必要な物を表に貼っておく。
- ③ 自分のお面をロッカーに入れておく、いつでも使えるようにしておく。
- ④ 笛やCD、保育者用のお面などいつでも出せるように準備しておく。
- ⑤ 大道具、小道具の製作に必要な材料（布材など）を準備しておく。
- ⑥ 本日のスケジュールや片づけの時間の表示をしておく。
- ⑦ 子どもたちが作った旗を飾っておく。場所によっては未完成のものを飾っておき、製作のきっかけにする。いつでもシリーズ絵本を見ることができるよう置いておく。
- ⑧ 絵本の場面をカラーコピーして、よく見えるところに貼っておく。
- ⑨ 先日楽しんだピクニックごっこの写真をよく見えるところに掲示しておく。
- ⑩ 先日楽しんだ玉入れの写真を掲示しておく。
- ⑪ 先日楽しんだ玉入れがすぐに楽しめるように準備しておく。
- ⑫ A児が読んだ絵本（10ぴきのかえるのうんどうかい）をそのままにしておく。
- ⑬ 絵本コーナーで、運動会ごっこが楽しめるように必要な物を片づけるなど、広い道を確保する。
- ⑭ 運動会ごっこを楽しむためには、観戦観察コーナーをどうするか子どもたちと相談し必要があれば一緒に移動する。
- ⑮ 運動会ごっこに必要な物を準備しておく。（ライン引き、大玉、デッキ、BGM等）
- ⑯ 子どもたちが作った応援グッズをいつでも使えるように置いておく。



2 「木工遊びを楽しもう」(4・5歳児)〈10月〉

～ 視点を絞って保育を振り返ろう ～

◇園内研修例③ 視点を絞って保育を振り返りましょう

◇園内研修紹介 「実践事例の作成を通した園内研修」

DVDで紹介している園では、子どもたちの主体的な遊びの中で「子どもたちが学んでいること」を見取することを研究テーマにして、日々の保育を行っています。

DVDに収録されているのは、ねらいを「友達と一緒に試行錯誤をしながら物を作る楽しさを味わう」として、「意欲」の視点で行われた保育です。

園内研修例③ 視点を絞って保育を振り返りましょう

「園内研修用DVD (Chapter3)」を使って
次の二つの視点で、映像を視聴してみましょう。

- ①「主体的に遊んでいる子どもの姿」
- ②「①で子どもが学んでいること」



★ねらいに基づいて、子どもの姿や育ちをとらえることができます。

★園のめざす子どもの姿に向けてふさわしい保育者の援助や環境の構成、再構成について考えることにつながります。

★他にも自園の研究テーマに合わせた視点で視聴し、協議することもできます。

DVD収録保育場面から

この映像から見てくる「主体的に遊んでいる子どもの姿」の一部を紹介します。



思い思いに大きさを形を選んでいる姿



自分のイメージに向かって一生懸命にのこぎりを使って切る姿

真剣な表情で金槌を使って釘を打つ姿



友達とイメージを共有しながら、作りたいものを作っている姿



園内研修場面の紹介（「園内研修用DVD」（Chapter 3））

「実践事例の作成を通した園内研修」

DVD収録保育場面から

研究保育後に作成した実践事例を使い、園内研修を行っている取組例を紹介します。
《園内研修等の手順》（研究保育をもとに）

①研究保育 → → → ②実践事例の作成 → → → ③園内研修会の実施 → →

【担任】

園内研修日の約1週間前までに実践事例を作成、全職員に配布する。

【担任以外の保育者】

作成された実践事例を事前に読み、自分なりの考えをまとめておく。

作成された実践事例について、下記の項目の順に当日の保育を振り返り、協議する。

協議項目

- ねらいと評価について
- 子どもの様子について
- 環境の構成、再構成について
- 保育者の援助について
- 考察について
- 参考文献による根拠付け

→ → ④園内研修後

協議したことを担任集約

- 園内研修記録作成（資料①）
- 実践事例の修正（資料②）

大切にしていること

- 自分の考えを持ち、伝えること
- 他の保育者の意見を聞くこと
- お互いの考えを認め合うこと



ねらいである「意欲」の視点における子どもの姿、実際の援助等を検討
・吹き出しの中の言葉は、ねらいに沿ったものになっているか
・キーワードは適切か 等

資料① 園内研修記録（抜粋）

○参加者の感想・意見・提案・考察等

ア ねらいと評価について

- ・評価の「目的に向かって」とは、どのような目的なのかが具体的に示されている方がよい。（最終的に目指すもの）
- ・ねらいに対しての全体的な評価は適切であると思う。自分で考え友達の意見を聞き入れたり工夫してみようとしていたりする意欲が読み取れる。
- ・ねらいの「試行錯誤」
→ 考えたり工夫したりしながらいろいろな方法を試す。（探究心）としてはどうか。

イ 幼児の様子について

- ・友達と作るということで年長児が協調性をもってアイデアを出し合いながら作ろうとしていた。今回は観点を「興味・関心」観点を「意欲」でとらえているが、観点を「人とのかかわり」、観点を「協同性」として、いろいろな見方でとらえてもおもしろそうだった。
- ・製作したいもののイメージを持ちながら材料を選び、試行錯誤しながら木工遊びをしていた

- ・友達と試行錯誤しながら、自分のイメージをしっかり持っていて「みんなで完成させた」という達成感や一体感があつたのだとわかった。
- ・友達が周りではほかの遊びを楽しんでいても・・・という文章はその場にはないと状況がわからない。誰が見てもわかる状況が読み取れる文章にすることが大切
- ・環境構成の重要さや発想の豊かさ、それに伴う気づき、共感、達成感などを具体的に明確にまとめている。遊びがこの先も発展しながら続いていくのだろうという様子が伺える
- ・木工遊びは発達に差があり一緒に遊ぶことは難しいが、異年齢と一緒にいることはいろいろな刺激を与え遊びに様々な発展の形を与える。

資料② 園内研修で検討し、修正した実践事例

人との関わり(協同性)の視点で書いてみるよ

(4. 5) 歳児活動事例 (木工遊びを楽しもう!) (10) 月

観点 (興味・関心) 視点 (意欲) ~ おもしろそうだな ~

【遊びの経過】
木工コーナーを室内からテラスに移動し材料も増え、子どもたちがいつでも遊べるような環境にしていた。台車が3台あり、「それを使って何か作ってもいいよ。」と言うと、「作ってみたい。」という意欲につながり活動が始まった。

【ねらい】
友達と一緒に試行錯誤をしながら物を作る楽しさを味わう。

【評価】
・目的に向かって主体的に木工遊びに取り組んでいる。
・友達と協力しながら試行錯誤を繰り返し、物を作る楽しさを味わっている。

つながっているよ
おねらいと評価が
つながるように書く

○幼児の活動	★環境の構成	■保育者の援助
★かなづち、のこぎり、釘をいつでも使えるように準備する。予め準備することで意欲につながりやすくなる 大きさや長さや形の違った木片や丸太を豊富に準備しておく。台車、マット、環境に合わせたものをこめよう		
○木片や丸太を探し台車につける。		

どれにしようかな。【意欲】

乗るところをつけよう。【イメージ】

○台車をつなげる。
○いろいろな部品をつける。
○のこぎりで切る。

3つつなげようか。【提案】

そうしよう。【共感】

おもしろそう。【期待】

ぼくもやってみようかな。【刺激・意欲】

がんばれ。【協力】

あれ、刺さってない。【疑問】

こっち押さえてくね。【協同】

頑張ってるぞ！

サンキュー。【喜び】

【園のコメント】
実践事例を作成することが目的ではなく、実践事例を作成することを通して、幼児理解を深めるとともに、ねらいに基づき幼児の思いに寄り添った援助や環境の構成を行うことを大切に取り組んでいます。

【考察】
台車を使うことで1つずつ車を作って乗って遊ぶことで3つつなげて長い車を作り始めた。「ここにはイキなど、材料を十分に揃えていたこともありどんどん進んでもらいながら作業を進めていく姿、失敗を繰り返しながら、友達と周りで他の遊びを楽しんでいても、自分の活動（遊）遊びようとする意欲によって気持ちがぶれることなく集中できていた。

みんなで見守って達成感・一体感

なかった時に、どうしてそうなってしまったのか原因を一緒に考え、学びにつなげていく。

■のこぎりを切りにくそうにし



～公開保育の翌日の様子～

自園ならではの研修をすすめましょう

記録等をもとに、他の保育者と次の実践へ向けての改善プランを協議するなど、園の研究テーマや子どもの実態、職員体制等に合わせ、記録を生かした研修内容を工夫していきましょう。

3 「ばら組迷路を作ろう」(5歳児)〈10月〉

～ 様々な側面から子どもの姿や育ちをとらえよう ～

◇園内研修例④ 様々な側面から子どもの姿や育ちをとらえよう

下の実践事例は、協同性の視点で行われた保育をまとめたものです。「協同性」の視点で保育を振り返ったとき、下記の実践事例のような子どもの姿が見えてきます。

5歳児 実践事例

ばら組迷路を作ろう (10月)

観点 (人とのかかわり)

視点 (協同性 ～ いっしょにやろうよ ～)

【遊びの経過】

運動会やおばけ迷路づくりなどをグループで楽しみ、友達と一緒に遊ぶことの楽しさを味わった子どもたち。「もっと広い場所ですみんなと遊びたい」という気持ちを受けて、「ばら組の迷路づくり」という共通の目的に向かって活動することにした。

【ねらい】

共通の目的に向かって、友達と協力して遊ぶ楽しさを味わう。

【評価】

・作りたいもののイメージに向かって、友達と話し合ったり、手を貸し合ったりしてグループの製作活動を楽しんでいる。

【〇幼児の活動

★環境の構成

■保育者の援助

【環境構成図】

下図参照

★これまでのグループの製作物を遊戯室に置いておき、完成に向けた意欲を高める。
★設計図を使って配置図を作ったり、自由に使える材料コーナーを設置したりする。

〇グループで製作活動をする。

「おばけの国へようこそ」
グループ

ガムテープ
を使って貼
るといいよ。
【気付き】

誰か手伝って。
【人とのか
わり】

「ジュラシックパークに行こう」
グループ

恐竜の歯を作り
たいんだけど。
【相談】

ぼくも手伝
うよ。【協力】

かっこいいのにしよう。
【共通の目的】

ねえ、クモの作り
方を教えて。【疑問】
【人とのかかわり】

どうやって作る
うかな。【思考】

■子どもたちの遊びの様子を見て回り、友達と声をかけ合っている姿や協力している姿をほめ、製作への意欲が高まるようにする。

■接着がうまくいかないなど、困っているときには、同じグループの友達に相談するように声をかける。

■子どもの発想を認め、製作に生かせる助言をする。

「どのドアを開けようかな」
グループ

わたしが上を
塗るよ。【提案】

じゃあ、わたしが
下ね。【折り合い】

「川に落ちないでね」
グループ

かっぱの手が
取れちゃった。どう
しよう。【思考】

持ってあげる。
【共感】【提案】

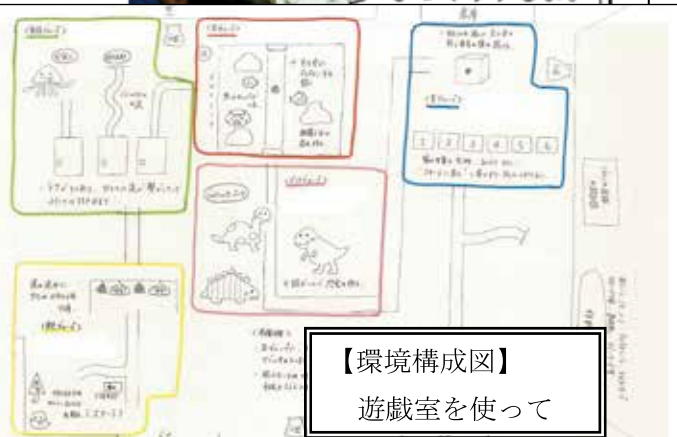
「びっくり箱の中身はなあに」
グループ

ふたを開けたら、
びっくりするよ。

■各グループで共通の目的に向かってがんばる製作物のおもしろさや工夫点について話し会場全体を見渡す時間をつくり、クラス全組迷路を作るという気持ちを高めるようにする。
■また続きの活動を行うことを知らせ、グループすることや自分のやりたいことを確認させることがもてるようにする。

【考察】

子どもたちは、自分の作りたい物をイメージし粘り強く取り組む姿があった。違う物を製作したりしたとき、その子どもが手を貸し一緒に取り割を果たそうとしていることを実感した。これまでも、子どもたちははっきりとしたイメージ子どもたちの意欲を高め、友達とともに創り上げるための援助(活動の場の広さ、活動時間、保育者ミシング等)を吟味していきたい。



【環境構成図】

遊戯室を使って

園内研修例④

様々な側面から子どもの姿や育ちをとらえよう

「園内研修用 DVD (Chapter 4)」を活用して (例)

- 1 付箋などにメモをしながら参観します。
○協同性の視点における子どもの姿
○協同性以外の視点における子どもの姿 など
(* 別の色の付箋に記入)



- 2 それぞれの視点で見つけた子どもの姿を共有します。(KJ 法)
(ホワイトボードや模造紙などに意見を貼り付けながら協議します。)

★子どもの育ちや学びについて理解を深めることができます。

★保育者の援助や環境の構成が適切だったかどうかを検討することにつながります。

DVD収録保育場面から

まず、この映像から見えてくる「**協同性の視点における子どもの姿**」の一部を紹介します。

ガムテープを貼る際に手を添えています。「手伝って」「ここを持って」といった会話も生まれています。



作った恐竜にどんな色をつけるのか相談しています。赤い色にするという共通のイメージがあるようです。

協同性の視点における子どもの姿



赤い橋を渡るときに川に落ちないように手すりをつけるため、手で支えてほしいと協力の依頼をしています。



「コウモリ」を作りたいという2人の子どものが図鑑を調べている様子です。会話を楽しみながら、見つけた「コウモリ」の姿を書きうつしています。



作りたいものに合わせ、ダンボールを切るのですが、固くて1人では切れません。そこで、協力して両側から切っています。

次に、この映像から見えてくる「協同性以外の視点における子どもの姿」の一部を紹介します。

「クモ」を作るため、牛乳パックを同じ幅に切り、4本使ってくもの足を作っています。真ん中を留めて、クモの足のイメージに向かって集中して作ることを楽しんでいます。



どうしても「コウモリ」が作りたいようです。足がどうなっているのか知りたいという思いを持って図鑑で調べています。「探究心」にあふれた子どもの姿です。

協同性以外の視点における子どもの姿



びっくり箱に入れるものを考えるうちに、この子どもたちは、丸い形のものに興味を持ち、たくさん集めています。転がして遊ぶなど、環境とのかかわりを楽しんでいます。



一本橋に手すりをつけるためダンボールを貼り付けるのですが、ダンボールが途中で折れているため、手すりがまっすぐに立ち上がりません。どうしたら立つのか・・・試行錯誤しています。

それぞれが自分の作りたいもののイメージをもち、それにふさわしい材料（材質、形、大きさ、個数など）を選んでいきます。また、材料とのかかわりによって、イメージを明確にしたり膨らませたりする子どもの姿がありました。

総合的な指導に向けて

一つの遊びの中でのいろいろな経験を通して、子どもたちは心と体を働かせ、様々な能力や態度を身に付けていきます。いろいろな能力が個別に発達するのではなく、相互に関連し合い、総合的に発達していくことを踏まえ、保育者は、遊びを通して子どもが発達していく様々な姿を総合的にとらえるとともに、そのために必要な経験が得られるような状況をつくるのが大切です。

保育者の役割

心のよりどころとして



活動の理解者として



共同作業・共鳴する者として



遊びの援助者として



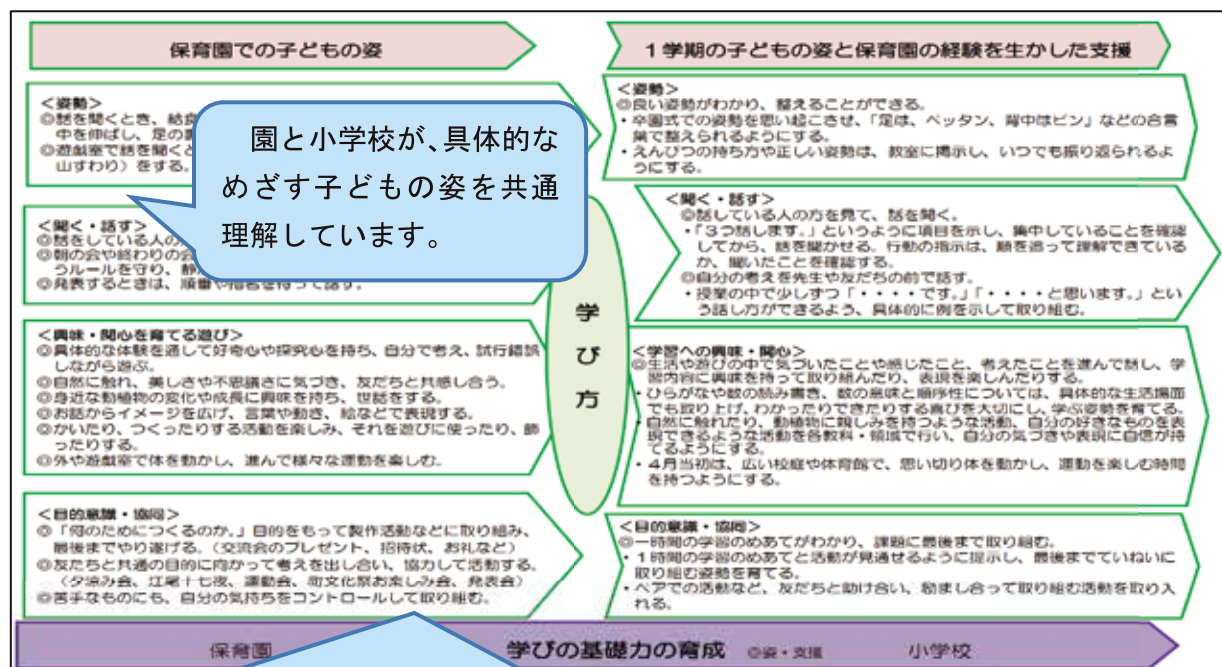
あこがれを形成するモデルとして



第Ⅴ章 園と小学校の円滑な接続に向けた取組

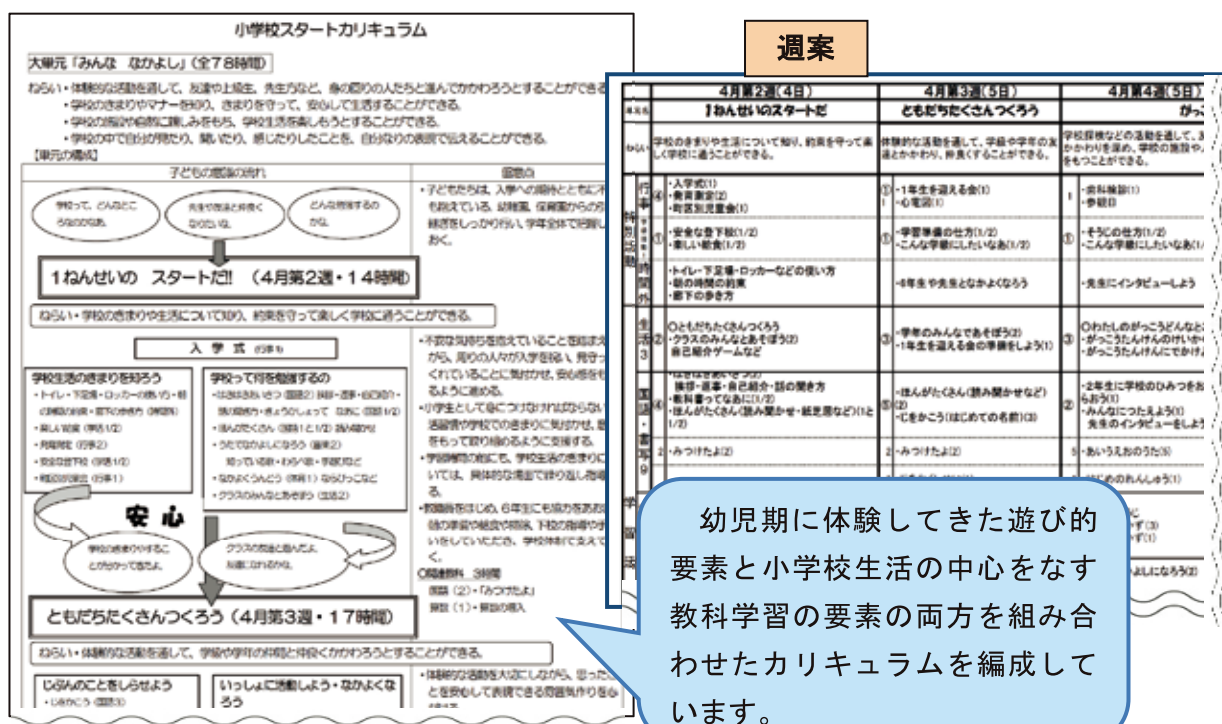
園児と小学生との交流活動、職員同士の連携・交流など、子どもの育ちと学びをつなぐための取組が広がっています。

1 接続期の子どもの姿の共通理解



幼児期（主に年長児）の発達の様子をもとに、接続期の学習のめあてや支援の仕方を考えています。【学び方】の他に、【基本的生活習慣】【人とのかかわり】に関しても、発達の連続性を意識して作成しています。

2 スタートカリキュラムの編成



3 交流活動の充実

(1) 年間交流計画の作成

平成26年度 A保育園・B幼稚園・C小学校 年間交流計画													
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
幼稚園・保育園	年長児 保育内容・ねらい 《よろしくね、なかよくなろう》 「いっしょにあそぼう」 ●年長になったよこびを受け止めなら、必要な習慣を身に付けたり、当番活動などの仕事に進んで取り組んだりする。 ●友達や異年齢、園同士の交流などを通して友達とのつながりをつくる。				《かっこいい年長さんになろう》 「運動会」「生活発表会」 ●大きな行事を通して、友達と協力したり、目標に向かって取り組むことの大切さを知る。 ●年長として、園の友達のお手本となるように、見通しやめあてをもって練習に取り組む。				《もうすぐ1年生》 「学校へ行こう」「体験入学」 ●1年生との交流や体験入学を通して、就学への関心と期待を高める。 ●卒園に向けての生活や就学までに身につけたいことに取り組む、就学に向けて充実感や安心感をもって過ごす。				
	A保育園 主な行事	入園・進級式(4)	参観日(24)		夕涼み会(19) 川遊び(29)		運動会(20)		もちつき大会(6) 未満児生活発表会(22)	以上児生活発表会(6)	新年子ども大会(8) 参観日(17)	卒園式(28)	
	B幼稚園 主な行事	入園式(10) 参観日(26)		年長参観体育(5) 家族参観日(22)	夏祭りバザー(5) お泊まり保育(24～25) 夏季休業(7/23～8/31)		運動会(28)	祖父母参観日(27)	参観日・教育講演会(5)	音楽発表会(7) 冬季休業(12/25～1/8)	作品展(22～23)	参観日(5) 卒園式(18)	
幼保小交流	【保・幼稚園】 1年生の授業参観 【職員】連絡会 交流会打ち合わせ 新1年生の様子 於：C小学校 【6年生】 【3歳児】 3歳児とのふれあい体験 於：A保育園 B幼稚園 自分の成長について振り返ろう 年少児とのふれあい体験 交流や事前の準備を通して、自分の成長を振り返ろう。 【小学校で一緒に遊ぼう】 年長児が期待をもって入学できるように、一緒に楽しんで活動し、小学校の良さを伝えよう。 ●1年間を振り返る活動や園児との交流を通して、自分の成長に気づくとともに、かわってくれた人たちに感謝の気持ちや進級への意欲をもつ。 【小学校職員】 年長児の保育参観 聞き取り 【職員】連絡会 交流の反省と来年度に向けて 於：城北小学校 【6年生】 【5歳児】 ようこそ1年生 於：C小学校 【1年生】 【5歳児】 2月 体験入学 於：C小学校 【将来の夢に向かって】 「地域で働く先輩の話を聞こう」 今の自分にできることを考えよう 将来の自分像をまとめよう。 【6年生】 【保育園・幼稚園職員】 地域で働く先輩の話を聞こう 於：C小学校 《もうすぐ2年生》 「ようこそ1年生」新しい1年生と仲良くなろう。 「体験入学」1年生の学習や生活をつたえよう。 「わたしの1年かん」1年間の成長をふりかえろう。												
	6年生 総合的な学習	●園児とのふれあい等を通して、多くの人に支えられて育った自分に気づき、感謝の気持ちを伝えたり、将来の自分像をまとめたりする。											
小学校	1年生 生活科	●園児とのふれあい等を通して、多くの人に支えられて育った自分に気づき、感謝の気持ちを伝えたり、将来の自分像をまとめたりする。											
主な行事		入学式(8) 参観日(25)	運動会(25)	心の教育参観日	夏季休業(7/22～8/25)	D中校区一斉公開(17～22)	就学時健診(23) マラソン大会(28)	学習発表会(23)	冬季休業(12/26～1/6)	参観日(27)		卒業式(19) 修了式(24)	

小学校区にある2つの園との交流について、年度当初に担当者が集まって作成します。小学校も総合的な学習の時間や生活科等の教育課程の中で計画的に園児との交流を組み入れています。

園児と小学生の交流



マラソン交流



休憩時間のしっぽとりおに



一緒に秋見つけ

(2) 交流活動指導案の作成

保育園年長児と小学校1年生との交流会 指導案
平成26年10月17日

1 本時目標と評価

年長児	1年生
(意欲) 本時のねらい： 学校探検や乗り物クイズを楽しみ、1年生とのふれあいを通して、小学校生活への期待をもつ。	(国語科) 本時目標： 年長児のために、小学校を案内したり、乗り物クイズをしたりして、小学校の楽しいところを分かりやすくはっきりと話すことができる。
評価： 1年生の発言や行動を聞いたり見たりして、興味を持って活動しようとしている。(心情・意欲・態度) 子どもの姿： ・学校案内の説明や乗り物クイズを楽しんでいる。(行動・発言)	評価： 年長児を期待を持って迎えようとしている。(関心・意欲・態度) 子どもの姿： ・年長児のことを意識して学校を案内している。

2 事前指導

・1年生と一緒に学校探検や乗り物クイズふくことを知らせ、期待をもたせる。
・一緒に歌う歌を練習しておく。
・学校探検をする時に気をつけることをあ

3 本時の展開

活動	○年長児への援助、配慮 ☆評価	○1年生への指導上の留意点 ※支援 ☆評価
10:00～ ・はじめの言葉集 (1～2児童) ・歌「山の音楽家」 ・先生の話(小学校) (めあての確認、活動内容、約束等) ・手遊び遊び	○1年生について音楽室まで歩いていけるよう、声かけをする。 ○1年生や先生の話最後まで見て聞くように声かけをする。 ○歌や手遊びで気持ちをほぐし、楽しい雰囲気グループの活動に入れるようにする。 ○グループになり、仲良く歩いていけるように声かけをする。	○代表児童(各クラス2名)が年長児を迎え、音楽室まで案内する。 (年長児の足下は1階会議室後ろ) ○音楽室を全体会場とする。 ○進行は1～4の児童が行う。 ○安全(活動範囲、遊び方)に活動すること、他の学年が学習中であることも確認しておく。 (1クラス年長児10名前後) ※スキンシップのできる遊びをして、和やかな雰囲気をつくり、グループの子ども同士が親しくなるようにする。
10:40～ ・1年生各教室へ移動し、のりものクイズをする。 その後、学校案内をして、学校案内を合する。	○1年生のクイズを静かによく聞き、すすんでこたえられるよう声かけをする。 ○学校内を自由に歩くことを厳禁	○各教室で、1年生の作った乗り物折り紙劇場・クイズを紹介する。 ○学校案内の目安の開始時間になったら、小学生がおすすするスポットに行き、理由を話させる。 ○場所を決めておき、安全に案内するように観察・支援する。 ○のりものをほめる。 ○のりものをのり物クイズにする。(行動・発言)
11:00～ ・感想発表 ・ペアで感想交流 ・先生のはなし	○一言でも感想が言えるように声かけをする。 ○グループでの感想交流が難しい場合は、指導者が会話に入りながらお互いの思いを出させるようにする。	☆年長児のことを意識して学校を案内している。(行動・発言) ○音楽室に全員が戻り、交流して楽しかったことを数名挙手で発表させる。教師からもよかった子どもを紹介する。(小学校・保育園の指導者各1名) ※全体でいくつか発表を聞いた後、グループで感想を交流させる。
11:10終予定		

4 事後指導

年長児	1年生
・楽しかったこと、経験したことをみんなの前で話す。	・楽しかったこと、気付いたこと、めあてができたか、年長児とかかわりをもてたかを振り返り、絵や文でワークシートに書く。

事前話合いを、ねらいをはっきりさせることで、活動内容を精選し、互恵性のある交流になるようにしています。

本時に至るまでの事前や事後の指導についても話合いを行い、計画的に見通しをもって交流をしています。

～のりものクイズ～

～お話ししよう～

～よろしくね～

(3) 園児と小学校児童の交流活動実践事例

5歳児・1年生 実践事例 あきとなかよし ～秋の自然物で遊ぼう～ (10月)

5歳児 観点(興味・関心) 視点(意欲～おもしろそうだな～)

【遊びの経過】

春から近隣散歩や里山探検など、フィールド遊びを重ねることで、自然物や生き物に親しんだり、図鑑を使って植物や昆虫の名前を調べたりする姿が見られるようになった。また、友達と小学校生活について語り合うなど、就学への関心が高まってきている。

【ねらい】

- ・1年生と一緒に秋見つけをし、季節の変化や自然に触れて遊ぶことを楽しむ。
- ・1年生の言動に触れる中で、1年生への憧れや就学への期待感を高める。

【評価】

- ・ペアの1年生と会話をしながら一緒に秋見つけを楽しみ、1年生への憧れや就学への期待感を高めている。

1年生(生活科)

【活動の経過】

生活科の学習で、自然に対する体験的学習を積み重ねてきており、自然物を使った秋まつりを年長児と一緒にすることを目標に、楽しい遊びを企画しようという意欲をもっている。

【ねらい】

- ・年長児と一緒に秋見つけをすることを通して、相手意識を持って交流をすすめようとする意欲を持つ。

【評価】

- ・年長児の思いを聞きながら、相手意識を持って楽しい遊びを計画する意欲を持っている。

【○幼児の活動

★環境の構成

■保育者の援助】

★安全かつ様々な自然物にふれることができるよう、事前に散歩コースを下見しておく。

○自己紹介とミニゲームをする。

よろしくね。
【人とかかわり】



■事前に保・小で協議し、児童理解や互いのねらいを確認しておく。(保・小)

■園で行っている遊び(あいこじゃんけん)を取り入れることで緊張をほぐし、ペアの1年生への親近感を持たせる。(保)

■1年生がリードしながら、安心して遊びを進められるように、必要に応じて言葉かけをする。(小)

○近隣散歩をしながら、秋見つけをする。

これ、きれいな色だね。
【気付き】

ほんとだ。
【共感】



あっちにも行ってみようか。
【思考・表現】



ドングリが少ないからあげよう。
【人とかかわり】

おにいさん、やさしいな。
【あこがれ】

■子どもの気付きを促すような言葉かけをする。(保・小)

■危険がないように全体の様子を職員全員で見守りながら、自由度のある活動を保障する。(保・小)

○秋の遊びに関連した本や生活科の教科書を一緒に見て、話し合う。



何が作りたいかな。これはどう。
【相手意識】

ドングリでこまが作りたいたい。
【意欲】

■後日「秋の実祭り」をすることを伝え、自分のやりたい遊びについての思いを伝えられるように声かけをする。(保)

■年長児の思いを聞き取るというねらいを伝え、「秋の実祭り」の企画への意欲を高める。(小)

■自分の思いや考えを1年生に伝えられた姿を賞賛し、自信をもたせることで、入学への期待感を高める。(保)

【考察】

- ・自己紹介の際に、園で行っている手遊びやミニゲームを取り入れることで、ペアに対する親近感や活動への安心感をもつことができた。また、1年生の思いやりのある言葉かけや行動から優しさを感じ、話を聞こうとしたり会話したりする姿が多く見られた。そのため、年長児が受け身にならず、主体的に活動する姿が見られた。
- ・拾った秋の実を使って遊ぶことへの期待感が高まっている姿が見られた。2回目の交流では、年長児が自分で選べるコーナー遊びを取り入れた「秋の実祭り」を1年生の企画・準備で行い、保・小それぞれがねらいを達成できるような交流にしたいと考える。
- ・秋見つけの活動が、木の実拾いに限られてしまっていた。フィールドビンゴ等を取り入れ、木の葉の色や空気の冷たさ、種類の異なるドングリの違いなど、子どもの視点を広げる工夫が必要だと感じた。

5歳児 観点(興味・関心) 視点(意欲～おもしろそうだな～)

【遊びの経過】

春から園庭や散歩道で、季節の草花や虫を見つけて遊んだり世話をしたりしてきた。また、運動会や就学児健診などを通して、就学への関心が高まってきている。

【ねらい】

- ・落ち葉や実、草花などを見つけて、遊具などで遊んだりして楽しむ。
- ・1年生と一緒に活動する中で、小学校就学への期待を膨らませる。

【評価】

- ・1年生と一緒に、いろいろな色や形、大きさの落ち葉や実、草花などを見つけ拾ったり、好きな遊具で遊んだりしている。
- ・活動する中で1年生の言動に触れ、小学生と会話を通して、就学への期待を膨らませている。

1年生(生活科)

【活動の経過】

春から学校のまわりや至剛の森で、草花や虫などを見つたり遊んだりしながら自然に親しんできた。

【ねらい】

- ・年長児と一緒に、諸感覚を使って秋を感じ、季節の変化に気づくことができる。
- ・年長児に至剛の森を案内し、落ち葉や実などを一緒に探すことを通して、秋の自然の楽しいところを伝えることができる。

【評価】

- ・諸感覚を使って、年長児と一緒に秋を感じようとしている。
- ・年長児に至剛の森の楽しいところを教えてあげたり、落ち葉や実などを一緒に探したりすることができる。

【 ■保育者の援助 ○活動 ★環境の構成 □教師の支援 】

★支援の必要な年長児には、安心して活動できるように同園卒園の1年生と同じペアになるように組んでおく。

★事前に1年生担任と協議し、互いのねらいを明確にしておく。 ★事前に、至剛の森の安全を確認しておく。

★1年生は自己紹介カードを用意し、ペアの年長児に渡すようにしておく。

<5歳児>

○ペアになり自己紹介をする。(出会いの会)

- 安心して探検ができるように、1年生とペアになっているかどうか確認する。
- 自己紹介をする前にじゃんけん遊びをして、緊張をほぐしてから自己紹介ができるようにする。
- 名前を呼ばれたら大きな声で返事をしたり、自己紹介したりできるように近くで見守る。

- 自分の気持ちが伝えられない年長児には、寄り添って一緒に行く。

遠くの山が見えるよ。
【喜び】【満足感】

すごい。食べられるきのこかな。
【疑問】



うれしいな。
【喜び】【期待】

喜んでくれるといいな。
【かかわる楽しさ】

<1年生>

- 自己紹介をする時に、ペアの年長児に自己紹介カードを渡しながらかんぽをするように声をかける。

○至剛の森を探検する。

ドングリは、どこにあるかなあ。たくさん拾いたいな。
【興味・関心】【意欲】

ドングリが落ちていところを教えてください。
【相手意識】【表現】

- ペアの年長児と一緒に過ごすように、見守る。
- ペアの年長児に優しく教えたり、歩く速さを合わせたりしている姿を認め、周りの子どもに広げる。
- 事前に遊具(ブランコ・ターザンロープ)の使い方を説明し、危険なく遊べるように教職員を配置する。

○至剛の森を探検した感想を話す。(お別れの会)

- 自分の思ったことや感じたことをみんなの前で伝えられたことを認め、自信につなげる。

- 感想を交流し合い、共有することで、自分が年長児の役に立っていたことに気づかせ、満足感を味わわせる。
- 自分の感じた秋をカードに書くことを知らせ、次時のおもちゃ作りにつなげるようにする。

【考察】

- ・初めての交流だったが、1年生が自分の役割を自覚し、年長児を優しくリードすることができた。そのため、年長児は至剛の森に入ると落ち葉や木の実を拾ったり、遊具で遊んだりして、安心して最後まで夢中になって遊ぶことができた。
- ・至剛の森や小学校での交流会へ行きたいと家庭でも話をする年長児が多く、就学への期待を膨らませることができた。同時に、次の交流会で計画している学校図書館への関心も高まるなど、今後の交流につながるものとなった。
- ・園と小学校が離れているため、移動時間が長くなり、交流する時間が短くなってしまった。今後の交流をより充実したものとするために、年間交流計画や園・小学校の指導計画の検討が必要である。

4 幼保小連携に向けた取組例

小学校教員による出前授業

小学校に関するクイズや数量に親しむ活動などを通して、入学前の子どもたちの小学校の生活や学習に対する期待が高まっています。また、就学前の子どもの姿にあわせて、スタートカリキュラム編成や指導方法等の工夫につないでいます。



保育者の授業体験



小学校1年生の学習指導を保育者が体験し、卒園した子どもたちが、どのように小学校生活を送ったり、学習をしたりしているのかを確認します。そして、園での育ちや学びを小学校へつないでいくための教育・保育について考えるきっかけとなっています。

小学校の休憩時間を利用した交流



いっしょに遊ぼう。
何して遊ぼうか。



お兄ちゃん見て。
たんぼぼ見つけたよ。

日頃から小学校の校庭を散歩コースにする、小学校の休憩時間と散歩の時間が合うようにしておくなどの工夫で、様々な学年の小学生とふれあう環境を無理なく作り出しています。

小学校区における取組



校長・園長の
幼保小連携推進協議会

夏季休業日を利用した
小学校教職員の保育体験



小学校区の校長、園長が集まり、校区の子どものよさや課題を共有し、めざす子どもの姿について話し合います。教職員は、互いの保育・授業の参観や保育体験、合同研修会等を通し、互いのよさや教育内容を知り、めざす姿に向けて共通の取組をしています。



幼保小合同研修会

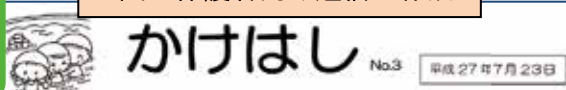
小学校教員の幼稚園・保育所・認定こども園における長期社会体験研修



1年間の保育体験を通し、幼児教育や幼児期の発達を理解し、幼児期の育ちを踏まえた小学校低学年での指導のあり方について研修しています。

各自の研修テーマに沿った研修生の気付きや学びを、小学校教員・園の保育者や保護者等に伝える取組が円滑な接続の一助となっています。また、交流・連携推進担当として、園・小学校それぞれの教育内容をつなぐ架け橋となっています。

園の保護者向け通信の作成



はじめ・むしむしする梅雨も明け、本格的な夏が始まりました。大人でも泳ぎやすい季節ですが、さくら組のみんなは大きく泳ぎを飛ぶことなく元気に遊んでいます。暑さに負けず泳ぎが上手になっていくといいですね、うれしく思います。

小学校5年生との交流会

7月3日にA・日保園の年長組さんと小学校5年生との交流会がありました。今回の交流会はプールでの活動でした。

小学校のプールは主に1、2年生が使う小プールと3～5年生が使う大プールの2つがあります。今回の交流会では小プールを使いましたが、小プールと言っても保育園のプールよりも深くなっているため、中にはドキドキした子もいたかもしれません。でも、優しいお兄さん・お姉さんと一緒に大好きなプールに入ること、気持ちもほぐれてきたように感じました。途中の休みの際には「昨日見たテレビは？」「今日の朝食べたものは？」などのお話で会話を弾ませているグループもあり、大変楽しかったです。

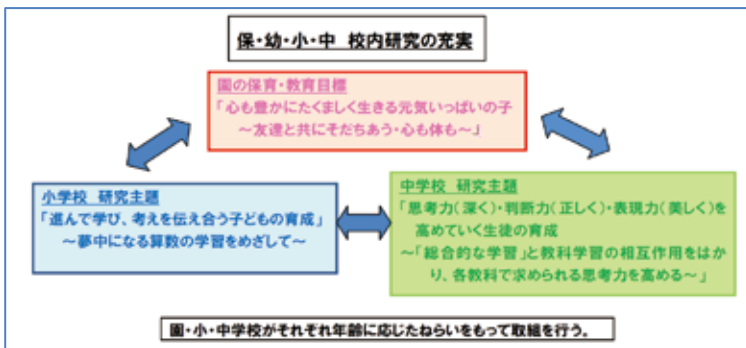
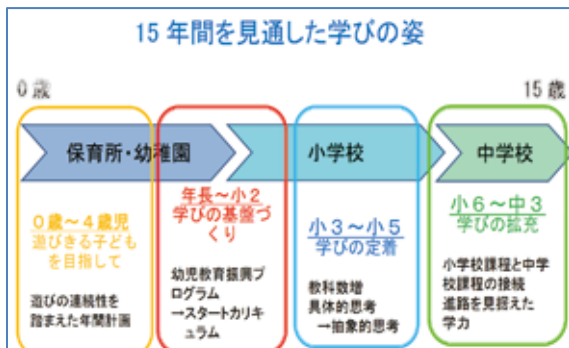
保育園に帰ってから、感想を聞くときすべての子どもたちが手を挙げて発表していました。「すいちゃんもつれっしやがたのしかったです。」「おにいさんがやさしくてうれしかったです。」「楽しかった・うれしかった、という思いが伝わってきました。また、子どもひとりひとりが感じたことを発表しようとする姿を見て交流会を通して良かったなと思いました。

2学期にも1年生や5年生との交流会があります。交流会を重ねることで、小学校に入学することを楽しみにする気持ちを持ててくれるといいな、と思います。

小学校の生活について② ～あいさつ～

保護者の方の中には「もうすぐ小学校入学だから、何かしておかないといけないから？」と不安に思っておられる方もいませんか？確かに小学校と保育園とは生活は変わりますが、特に気にする必要はないと思います。それよりも大切なことは、普通のことを普通に行える力を身につけてほしいと思います。その中の一つにあいさつがあります。保育園でも登園した時には顔をみて大きな声で「おはようございます。」「とあいさつをしています。ご家庭でも朝起きた時には「おはよう。」「寝る時には「おやすみ」など言えるようになるといいですね。あいさつはコミュニケーションの第一歩です。小学校でももちろんですが、大人になっても大切なことですね。保育園の頃から、自分から進んであいさつができるといいなと思います。

中学校区における学びの姿育成のための取組



小学生と園児のなかよし遠足



幼小中合同運動会



小学生と園児の合同学習

「遊びきる子ども」の姿がどのような学びの力につながっていくのかを中学校区で共通理解し、交流活動計画や研究計画等に位置づけています。0歳から15歳までの学びの姿を見通した実践を行っています。

市町村の幼保小連携のための取組



幼保小連携の推進を図るため、市内の全園長・小学校長及び行政関係者を構成員として「幼児教育研究会」を設置しています。平成27年度は小学校区ごとに子どもたちのよさや課題等を出し合い、重点目標を明確にする協議を行いました。幼保小がつながって一貫性のある保育・教育をめざす取組を進めています。

「鳥取県『遊びきる子ども』を育む取組事例集」作成協力者

○「鳥取県幼児教育振興プログラム」（改訂版）検討委員

鳥取市立美保保育園	園 長	西山 和子
認定こども園 美哉幼稚園・びさい保育園	園 長	西元 和夫
倉吉東保育園	園 長	大橋 和久

○「鳥取県幼保小連携カリキュラム」開発委員

鳥取市立賀露保育園	主任保育士	三村 敬子
認定こども園 倉吉幼稚園・保育園	副園長	日野 彰則
鳥取市立福部幼稚園	副園長	西山 徳子
認定こども園 鳥取第二幼稚園・おひさま保育園	教務主任	網尾 陽子
岩美町立みなみ保育所	副所長	森田るり子
湯梨浜町立とうごうこども園	園 長	角 陽子
大山町立名和さくらの丘保育園	園 長	溝上 智子
赤碕保育園	園 長	福田 泰雅
わかば園	園 長	松重真由美
幼保連携型認定こども園 キッズタウンかみごとう	園 長	田中 京子
鳥取市立城北保育園	副園長	小川 照美
鳥取市立湖南保育園	副園長	富田 澄恵

「鳥取県『遊びきる子ども』を育む取組事例集」作成アドバイザー

○「鳥取県幼児教育振興プログラム」（改訂版）検討委員（座長）

○「鳥取県幼保小連携カリキュラム」開発アドバイザー

鳥取大学地域学部	教授	塩野谷 斉
----------	----	-------

情報提供いただいた幼稚園・保育所・認定こども園・小学校 等

幼稚園

鳥取市立福部幼稚園
鳥取市立河原幼稚園
鳥取市立こじか幼稚園
鳥取大学附属幼稚園
愛真幼稚園
小さき花園幼稚園
鳥取第一幼稚園
鳥取第三幼稚園
鳥取第五幼稚園
修立幼稚園
鳥取ルーテル幼稚園
良善幼稚園
米子幼稚園
米子みどり幼稚園
みずほ幼稚園
東みずほ幼稚園
かもめ幼稚園
にしき幼稚園
西部あおば幼稚園
聖心幼稚園

小学校

鳥取市立醇風小学校
鳥取市立城北小学校
鳥取市立美保小学校
鳥取市立若葉台小学校
鳥取市立福部小学校
岩美町立岩美北小学校
岩美町立岩美南小学校
八頭町立郡家西小学校
湯梨浜町立東郷小学校
北栄町立北条小学校
南部町立会見小学校
伯耆町立岸本小学校
江府町立江府小学校

中学校

鳥取市立福部中学校

認定こども園

若桜町立わかさこども園
湯梨浜町立はわいこども園
湯梨浜町立たじりこども園
湯梨浜町立とうごうこども園
湯梨浜町立まつぎきこども園
湯梨浜町立あさひこども園
湯梨浜町立ながせこども園
湯梨浜町立わかばこども園
北栄町立北条こども園
北栄町立大誠こども園
北栄町立由良こども園
北栄町立大谷こども園
認定こども園
さくら幼稚園・さくら保育園
認定こども園 ひかりこども園

認定こども園
鳥取第四幼稚園・はっぴい保育園
認定こども園
鳥取第二幼稚園・おひさま保育園
認定こども園
稲葉幼稚園・稲葉保育園
幼保連携型認定こども園
キッズタウンかみごとう
認定こども園 かいけ心正こども園
認定こども園 あけぼの幼稚園
認定こども園
鳥取短期大学附属幼稚園
鳥取短期大学附属保育園
認定こども園 聖テレジアこども園
認定こども園
倉吉幼稚園 倉吉保育園
認定こども園
美哉幼稚園 びさい保育園

保育所

鳥取市立賀露保育園
鳥取市立美保保育園
鳥取市立美保保育園 杉の子分園
鳥取市立みたから保育園
鳥取市立湖南保育園
鳥取市立城北保育園
鳥取市立千代保育園
鳥取市立福部保育園
鳥取市立河原保育園
鳥取市立西郷保育園
鳥取市立こじか保育園
鳥取市立すくすく保育園
米子市立こたか保育園
境港市立あがりみち保育園
境港市立なかはま保育園
岩美町立浦富保育所
岩美町立みなみ保育所
八頭町立国中保育所
八頭町立安部保育所
智頭町立諏訪保育園
三朝町立竹田保育園
琴浦町立劬保育園
琴浦町立琴浦保育園
琴浦町立成美保育園
南部町立さくら保育園
伯耆町立ふたば保育所
伯耆町立こしき保育所

大山町立大山きやらぼく保育園
大山町立庄内保育所
大山町立名和さくらの丘保育園
日吉津町立日吉津保育所
日南町立にちなん保育園
日南町立にちなん保育園分園 石見保育園
日野町立ひのっこ保育所
江府町立子供の国保育園
むつみ保育園
めぐみ保育園
わかば台保育園
津ノ井保育園
河崎保育園
わかば園
えんぜる保育園
倉吉東保育園
上北条保育園
みなと保育園
みどり保育園
赤碕保育園

児童発達支援センター

鳥取市立若草学園

鳥取県教育振興基本計画 ～未来を拓く教育プラン～

基本理念 自立して心豊かに生きる 未来を創造する 鳥取県の人づくり

自立して生きる力

- 生きていくために必要な知識、技能、教養を備え、学び続ける姿勢
- 主体的に考え判断し、他者と協働しながら課題を解決していく力
- 志を高く持ち、自らの夢を描きながら粘り強く挑戦し、実行していく力

豊かな心と健やかな体

- 心とからだの健康づくりや体力の向上に取り組み姿勢
- 思いやり、たくましさ、感動する心など豊かな人間性を発揮できる力
- 文化、芸術、スポーツ、読書やボランティアなどの活動に積極的に取り組み姿勢

社会の中で支え合う力

- 人々との関わりを大切にし、コミュニケーションを豊かにすることのできる力
- 自己とともに尊重し、人権や命を大切に共に生きる姿勢
- 社会の一員としての自覚と規範意識を持ち自らを律する力

ふるさと鳥取県に誇りを 持ち、未来を創造する力

- ふるさととの自然、歴史と伝統を守り、受け継ごうとする姿勢
- 地域やふるさとに誇りと愛着を持ち、その発展に貢献しようとする姿勢
- グローバルな視点を持ち、社会の変化に対応しながら新たな価値を創造していく力

基本理念を支える4つの「力と姿勢」

5つの目標と特に力を入れたい18の施策と重点取組

1 社会全体で学び続ける 環境づくり	(1) 社会全体で取り組む 教育の推進 ○学校、家庭、地域の連携、協力体制の構築 (2) 家庭教育の充実 ○保護者同士のネットワーク形成 (3) 生涯学習の環境整備と 活動支援 ○図書館、博物館等の社会教育施設の機能の充実
2 学ぶ意欲を高める 学校教育の推進	(4) 幼児教育の充実 ○発達や学びの連続性を踏まえた幼児教育の充実、発展 (5) 学力向上の推進 ○スクラム教育等による校種を超えた連携の拡大 (6) 特別支援教育の充実 ○個々の障がいの種類や程度に応じた教育の提供 (7) 社会の進展に対応できる 教育の推進 ○英語教育の充実、ICTの活用、手話の取組によるグローバルマインドとコミュニケーション力の育成 (8) 豊かな人間性、社会性を 育む教育の推進 ○いじめ、不登校等の未然防止、早期対応 (9) 健やかな心と体づくりの 推進 ○学校と地域が連携した体力向上
3 学校を支える 教育環境の充実	(10) 人口減少期を好機と 捉えた学校教育の充実 ○社会のニーズに対応した県立学校の在り方検討 (11) 特色ある学校運営の推進 ○学校裁量予算の活用やコミュニティ・スクール等、学校の自主性を発揮した取組推進 (12) 人的、物的な教育資源の 充実 ○中長期的な視点での着手、学校リーダーの育成 (13) 安全、安心な教育環境の 整備 ○食物アレルギー等現代的な課題に対応できる体制整備 (14) 私立学校への支援の充実 ○私立学校の多様な取組への支援 ※私立学校の情報は要配慮情報です。
4 生涯にわたって運動、 スポーツに親しむ環境づくり	(15) ライフステージに応じた 運動、スポーツ活動の充実 ○幼児期からの運動習慣づくり (16) トップアスリートの育成 ○ジュニア期からトップレベルに至る体系的な指導体制等の充実
5 文化、伝統の継承、 創造、再発見	(17) 文化、芸術活動の一層の 振興 ○子どもたちや若者が文化、芸術に触れ、感性を高める機会の提供 (18) 文化財の保存、活用、 伝承 ○祭り、行事などを地域で伝承していく活動の支援





夢や希望に向かって、学び続け、チャレンジするとりの子ども

めざす幼児の姿

遊びきる子ども



学びの基礎づくり

豊かな人間性

健康な体づくり

鳥取県幼児教育振興プログラム（改訂版）

～就学前教育の充実と幼児期から小学校への一貫した支援体制の整備～

《推進の柱》

《基本方針》

1 幼児教育・保育内容の充実

2 教員・保育士等の資質の向上

3 小学校教育との連携推進

4 子育て・親育ち支援の充実

5 地域で支える幼児教育の推進

・幼稚園教育要領・保育所保育指針に沿った幼児教育・保育の展開
・幼児教育・保育環境の改善
・特別支援教育の推進

・研修体制の整備
・研修内容の充実

・連携・交流の体制づくり
・つながりを意識した幼児教育・保育内容の充実

・「親と子の育ちの場」の充実
・子育て支援体制の充実 ・センター的機能の整備

・幼児教育関係組織の連携
・幼保一体化など新たな課題への対応
・地域に支えられた園づくりの推進

【幼児】

- ・文字や数字への興味関心が低い
- ・情報が得やすく知識が豊富
- ・素直で人なつこい
- ・物があふれた中での生活
- ・基本的な生活習慣の自立の遅れ
- ・コミュニケーションの能力が未発達
- ・小学校教育への不応
- ・外遊びや直接体験の不足
- ・体の使い方が未熟で、体力・運動能力が低い
- ・自制心や規範意識の不足
- ・遊びこむ（遊びに集中・遊びに広がり・試行錯誤のある遊び等）体験の不足

【保護者】

- ・園行事への参加率が低い
- ・我が子へ愛情をかけている
- ・公的な場でのマナーなど規範意識の低下
- ・子育てよりも自分のことを優先
- ・しつけ、子育てを幼稚園や保育所にまかせがち
- ・コミュニケーション能力、人となつがる力の弱さ
- ・子育ての孤立化・子育て不安や情緒不安定

【地域・社会】

- ・少子・核家族化
- ・身近な自然や遊び場の減少
- ・子育て支援体制整備の充実と活用
- ・メディアへの依存
- ・近所の人や地域とのつながりの希薄化
- ・育児情報の氾濫
- ・子ども同士で遊び、葛藤しながら成長する体験の機会の減少

【教員等】

- ・家庭や世帯社会の教育力の低下に対応するための資質・専門性を高める必要
- ・教員等自身の多様な体験の不足
- ・保護者等との良好な関係を構築する力が未熟
- ・保育を構想し実践する能力が不足する傾向
- ・多様な発達や家庭環境に対応する力が必要

鳥取県の特徴

- ・女性就業率が高い
- ・保育所入所児の割合が高い
- ・長期間保育・長時間保育の子どもの多い

背景

概要版

鳥取県幼児教育振興プログラム（改訂版）

遊びきる子ども

～鳥取県のめざす幼児の姿～

このプログラムは、県教育委員会が知事部局をはじめ関係機関と連携して、0歳から就学前の乳幼児に対する幼児教育・保育の充実を図るための取組を示すものです。

乳幼児期に
ふさわしい
遊びと生活

関係機関が
つながる

専門性の向上

家庭教育を
支える

相互理解

平成25年3月

鳥取県教育委員会

鳥取県教育委員会事務局小中学校課 〒680-8570 鳥取市東町一丁目271番地
TEL 0857-26-7512 FAX 0857-26-8170 E-mail shouchuugakkou@pref.tottori.jp

遊びは

めざす幼児

遊びきる

遊びの楽しさは、子どもが**遊びたい**ことで始まります。そして、**遊びこ**ろさが深まったり広がったりしていき**びきる**ことにつながり、遊びきるこ

わっていくのです。
この満足感や達成感といった自己充を
を生み出すエネルギーになるのです。
持ちの切り替えにつながるのです。

乳幼児期にふさわしい遊びと生活

1 幼児教育・保育内容の充実

P19

基本方針（1）幼稚園教育要領・保育所保育指針に沿った幼児教育・保育の展開

目標① 幼稚園教育要領・保育所保育指針の内容の理解推進

目標② 幼児教育・保育内容の充実

目標③ 学校評価・自己評価の実施

基本方針（2）幼児教育・保育環境の改善

目標① 幼児教育・保育環境の整備

基本方針（3）特別支援教育の推進

目標① 園内体制の整備

目標② 個別の(教育)支援計画の作成・活用

5領域について～指導のポイント～

健康な心と体づくり

自立心と人とかかわる力

思考力の芽生え

言葉の獲得

表現する力

P23

友達とたっぷり遊ぶ時間と場を保障し、心ゆくまで遊びきることができる環境を構成することが必要です。

わあ、楽しいなあ
こんなに深くなったよ

【驚き・感動】【満足感】

【楽しさ】【有能感】【充実感】

水を入れるよ【提案】【意欲】

くずれるからだめだよ【葛藤】

じゃあ、固まってからにする

【折り合いをつける】

汚れなんか気にしてられない

【夢中】【没頭】【集中】

【探究心】【真剣】

専門性の向上

2 教員・保育士等の資質の向上

P39

基本方針（1）研修体制の整備

目標① 計画的・組織的な研修の推進

目標② 研修体系の整備

基本方針（2）研修内容の充実

目標① 課題に基づいた研修の充実

目標② 幼保一体化に向けた研修の充実

幼稚園・保育所等では、研修の体制を整備したり、研修の方法を工夫したりして、全教職員が共通理解のもと研修を進められるようにしましょう。

P44

相互理解

3 小学校教育との連携推進

P49

基本方針（1）連携・交流の体制づくり

目標① 幼児・児童の交流活動の推進

目標② 幼稚園・保育所・認定こども園・小

基本方針（2）つながりを意識した幼児教育・保育

目標① 接続期のカリキュラムの作成

目標② 地域における連携体制の整備

は 学 び

幼児の姿

る子ども

たいという意欲から、自ら遊びだす
こむことで、遊びの楽しさやおもしろ
いきます。十分に遊びこむことが遊
ことで心地よい満足感や達成感を味

己充実感が自信となり、新たな遊び
す。このエネルギーが育つことで気

い川にしようよ

共通の目的】



失敗してもあきらめない

【チャレンジ】

おもしろそうだね

【興味関心】

どうしてかな

どうすればうまくいくのかな

【気づき】【探究心】【試行錯誤】

・小学校教職員の連携・交流の推進

保育内容の充実

P50

スタートカリキュラムの
例を掲載しています。

関係機関がつながる

5 地域で支える幼児教育の推進

P73

基本方針（１）幼児教育関係組織の連携

目標① 連携体制の整備

目標② 市町村における幼児教育の充実に向けた政策プログラムの策定

基本方針（２）幼保一体化など新たな課題への対応

目標① 幼稚園・保育所・認定こども園の連携推進

目標② 認定こども園の充実

基本方針（３）地域に支えられた園づくりの推進

目標① 地域資源の活用

家庭教育を支える

4 子育て・親育ち支援の充実

P59

基本方針（１）「親と子の育ちの場」の充実

目標① 多様な場を活用した交流機会の提供

目標② 保護者の育ちを応援する学びの機会の充実

目標③ 親と子の生活習慣づくりの支援

基本方針（２）子育て支援体制の充実

目標① 関係機関と連携した子育て支援体制の充実

目標② 家庭や地域における子育て支援体制の充実

基本方針（３）センター的機能の整備

目標① 幼稚園・保育所・認定こども園におけるセンター的機能の充実

【PTA 研修会、学級学年懇談会等への保護者の参加状況】



就学後の PTA 研修会、学級学年懇談会では、参加者
が固定化し、参加人数も減少しています。保護者同士が
つながる研修会や懇談会の工夫が求められます。

P60

推進の柱に沿った主な施策

推進の柱1

P20

幼児教育専任指導主事・保育専門員による園訪問



鳥取県教育委員会には幼児教育専任指導主事が、鳥取県福祉保健部には保育専門員が配置されています。訪問を通して、園の現状と課題の把握、園内研修支援、小学校との連携推進、情報提供など、各幼稚園・保育所・認定こども園、地域の実態に応じた支援を行っています。

推進の柱2

P46

幼児教育・保育相互理解研修

幼保一体化への移行を踏まえ、希望する幼稚園・保育所の教職員が設置者の垣根を越えて、幼稚園・保育所・認定こども園・幼保一体化施設で行う1日以上、保育体験研修を支援します。

- ・施設見学
- ・保育参観・参加
- ・給食
- ・協議 他



推進の柱3

長期社会体験研修

P52

小学校教員の幼稚園・保育所における長期社会体験研修(イメージ図)

【研修内容】

- 保育体験を通して、幼児教育や幼児期の発達について理解する。
- 主に5歳児を担当し、幼児期の指導及び育ちを踏まえた小学校低学年での指導のあり方について研修する。

【現状と課題】

- ・幼稚園と小学校の相互理解が不十分
- ・小学校入学前における児童の戸惑い

【対応策】

- ・幼児と小学校の教員・保育士の交流・連携の推進による相互理解と教育内容・指導方法の見直し・改善(幼稚園・保育所・小学校の作成、幼児と児童の合同活動や生活科の指導計画の見直し等)
- ・幼稚園・保育所側の教員の育成

【研修生】

・幼稚園・保育所での保育体験(主に5歳児の保育)

・テーマをもった研修

・交流・連携の調査

・県教育センターの専門研修、幼稚園教員・保育士の合同研修会等への参加

・県教育委員会が開催する連絡協議会への参加

【市町村】

・連絡協議会への参加

・研修者・幼稚園・保育所・小学校への交流・調整

・研修後

・地域の幼保との交流・連携

・小学校・幼稚園等の研修会での成果発表 等



平成19年度から、小学校教員の幼稚園・保育所における1年間の保育体験研修を実施しています。幼児の発達や生活などについて学んだことが小学校での教育活動につながっていきます。

推進の柱4

P60

とっとり子育て親育ちプログラム

プログラムの構成と流れ

導入

うちとける(10分)

- ・簡単なゲームなどで、初対面の緊張をほぐし、気軽に思いや考えが話せる雰囲気を作ります。グループ作りを兼ねることもあります。

展開

話し合う(30分)

- ・身近なテーマについて、自分の思いをシートに記入し、グループで意見交換を行う参加型学習です。家庭教育の悩みや情報を共有し、共感しながら、楽しく話し合いを進めます。

まとめ

気づく(ふりかえる)(10分)

- ・学習で気づいたことを個人やグループで振り返ります。他の人の感想を聞くことにより、自分の子どもとの関わり方を振り返り、新たな気づきが生れます。
- ・保護者同士の一体感も生まれ、ネットワークが生まれます。



子育ての悩みや課題を題材に、ワークショップや話し合いなどの楽しい時間を共有することで親同士のつながりを深め、家庭教育について学び合う仲間づくりを進めるものです。ファシリテータの研修を受けた人だけでなく、PTAの役員や教員・保育士等も進行できるようになっており、いろいろな場面で活用できます。

推進の柱5

P74

幼児教育関係者による意見交換

鳥取県幼児教育振興プログラムの進捗状況を的確に把握するとともに、施策が効果的に実施できるよう地域の幼児教育関係者や県関係課による意見交換の機会を設定します。



プログラム冊子は、各幼稚園、保育所、認定こども園、小学校などへ配布しています。また小中学校課ホームページにも掲載しています。

<http://www.pref.tottori.lg.jp/30030.htm>

概要版



鳥取県幼保小連携カリキュラム

「遊びきる子ども」をめざして



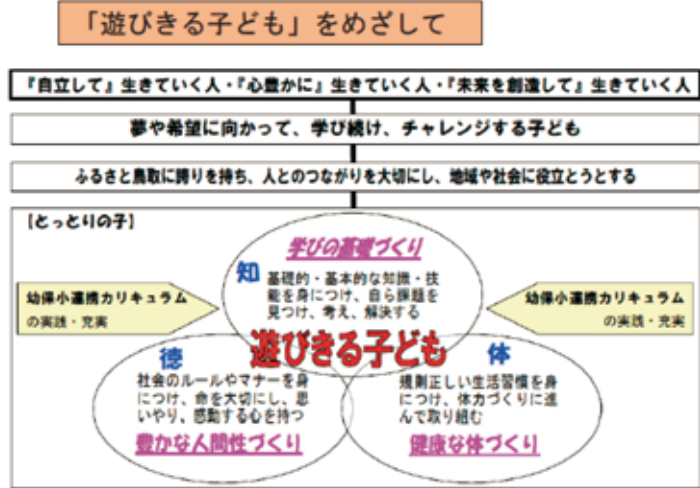
平成26年3月

鳥取県教育委員会

鳥取県幼保小連携カリキュラム

「遊びきる子ども」をめざして

平成24年度に策定した「鳥取県幼児教育振興プログラム（改訂版）」に基づき、**幼保小の相互理解と、連携による教育の充実と一層の推進をめざし、円滑な接続をすすめるための『鳥取県幼保小連携カリキュラム』**を開発しました。



各年齢のカリキュラム

例 接続期

各年齢のカリキュラムには、「遊びきる子ども」につながる各年齢におけるめざす姿を示しています。

【3歳未満児】各年齢におけるめざす姿を年間で大きくとらえて示しています。

【3歳以上児】めざす姿をより具体的にするため、1年間を4期に分けて、各期におけるめざす姿を示しています。

【接 続 期】5歳児後半のめざす姿と入門期のめざす姿を並べて示しています。

		接 続 期（5歳児後半から小学校1年生夏休み前まで）				接 続 期（5歳児後半から小学校1年生夏休み前まで）			
		10月 → 11月 → 12月 →	1月 → 2月 → 3月 →			4月 → 5月 → 6月 → 7月			
生活（習慣を身につけよう）	健康 いげんきいっぱい	・食事のマナーに気を付け、友達や保育者と一緒に楽しく食事をする。 ・食べ物の調理の過程を知り、進んで食べようとする。 ・栽培物を収穫したり調理したりして食べる喜びを味わう。 ・食材や食事を用意してくれる人へ感謝し、命の大切さに気付く。	・給食時間内に残さず食べる。			・給食に慣れ、友達や先生と楽しく食事をする。 ・食べ飽く心をもたせ、好き嫌いせず何でも食べようとする。 ・給食の身支度を整え、友達と協力して配膳や後片付けをする。 ・基本的な食事のマナーを守る。		・時間内に残さず食べる。（20～25分程度） ・食べ物や、給食に携わっている多くの人に感謝の気持ちをもつ。	
	運動	・戸外で、進んで体を動かして遊ぶことを楽しむ。 ・季節などではさまざまな遊びを通して、思いやり活動を楽しむ。 ・友達と積極的に体を動かす運動を取り組み、競い合ったり、ルールを作ってみて進んで取り組むことを楽しむ。 ・自分だけの力で進んで、金銭を使って多様な運動遊びを楽しむ。 ・用具の特長を生かして、いろいろな運動遊びを楽しむ。				・友達と楽しく体を動かす。（体育、休憩時間） ・道具や用具の使い方を学び、守らうとする。		・友達と競い合ったり、力を合わせてたり、基本的な動きや多様な動きを身につける。 ・道具や用具の特長を生かして、いろいろな運動遊びを楽しむ。	
	安全	・ルールの必要性や危険なことについて、意識して行動しようとする。	・危険な遊びや場所に関心し、自分で判断して安全に行動しようとする。			・安全に過ごすためのきまりが分かり、安全に気を付けて生活しようとする。（教室での過ごし方、廊下歩行の仕方、道具の使い方など） ・交通安全ルールやマナーを守って安全に通学する。（通学路の歩き方、横断歩道の渡り方など）		・危険な場所や行動について、自分で判断して安全に過ごすこととする。 ・地震や火災発生、不審者侵入などの際の安全避難の仕方を知る。	
	生活習慣 ～みにつけよう～	・起床・早起き・朝ご飯などの基本的な生活習慣を身につける。 ・身近に使うものを大切に扱う。身の回りの整理や片付けを進んでしたりする。 ・園生活の流れを予測したり、見通しをもって行動したりしようとする。 ・健康な生活や病気の予防に関心をもたせ、意識して行動する。	・時間を意識しながら生活に見通しをもち、場や状況に応じた行動をとる。 ・進んで生活に必要なあいさつや正しい言葉遣いをする。			・起床・早起き・朝ご飯などの基本的な生活習慣を身につける。 ・衣服の整理や自分の持ち物の整理整頓をする。 ・トイレや手洗い場を正しく使う。 ・チャームや時間割表に合わせて行動する。 ・家族と一緒に次の日の準備をし、忘れ物をしないよう意識する。 ・明るく元気なあいさつや返事を返す。 ・「です」「ます」を使った丁寧な言葉遣いをする。 ・尋ねられたことに答えて、聞かれたことを伝える。		・学習や休みの切り替え、チャームや時計を意識して見通しをもって生活する。 ・当番活動や係活動など自分のやるべきことを最後まで行う。 （担任以外の教職員）	
人とのつながり（豊かな人間性づくり）	自己発現 ～みて、きいて～	・自分のことを認めてもらう経験を通して自信をもって行動する。 ・友達と十分にかかわり、自分の力を発揮し、遊びを進めていく達成感を味わう。 ・友達の考えを聞いて、自分の考えや意見などを話し合ったり、伝えるうれしさを感じる。	・自分のやりたい遊びに夢中になる。 ・クラスや同年代の友達とみんなで活動する楽しさが分かり、友達との連帯感を感じながら自分の力を発揮する。			・自分の感じていることや思っていることを先生や友達に伝える。 ・友達や先生の話を最後まで聞くこと。 ・学習や生活のなかで自分のしたいことを見つめ、集中して取り組む。		・学習や生活を振り返り、楽しかったことや頑張ったことに気づき、自信をもつ。 ・自分の伝えたいことを最後まで話す。 ・自分の気持ちを伝え、進んでいろいろな友達とかわらうとする。	
	協同性 ～いっしょにやろう～	・自分の考えや相手の考えの違いに気づき、折り合いをつけて遊びを進めようとする。 ・友達と役割を分担し、互いに考えを出し合い協力して遊びや生活を進める。 ・グループの友達と共通の目的に向けて遊ぶ中で、一緒に進めていく楽しさややりがいを満ちた満足感を味わう。	・自分の感じたことや考えたことを友達に分かるように伝えようとしたり、友達の話も聞き、受け止める。			・友達や先生に親しみをもって接し、一緒に学習や生活を楽しくする。 ・いろいろな友達と協力して、当番活動や係活動などの仕事に取り組む。		・周りの友達と仲良く助け合い、楽しい学校生活を送る。 ・相手の気持ちを考え、思いやりをもって接しようとする。 ・友達の考えを知り、折り合いをつけて生活する。	
	きまり ～たのしいね～	・自分たちできまりを作ったり、遊びを考えたりしてみんなで楽しむ。	・今は何をすべきかなどを自分なりに判断し、状況に応じた行動をする。 ・友達と一緒に考えたルールを守りながら、自分たちで遊びを進める。			・学校生活のきまりを守り、みんなが使う場所や物を大切に守る。		・善悪の判断を自分でし、よいと思うことを進んで行う。 ・学校生活を楽しむためのルールを相談してつくる。	
自然・環境（自然環境の理解）	意欲 ～おもしろそうだ～	・戸外遊びに意欲的に取り組み、友達と一緒に遊びを発展させる。 ・身近な動植物や自然現象に興味や関心をもたせ、遊びの中に取り入れようとする。	・小学校での交流などを通して、就学への期待を膨らませ意欲的に生活する。			・学校の学習や生活を楽しくする。 ・いろいろなことに「やりたい」という気持ちをもって取り組む。 ・自然現象や学校の動植物に進んでかかわり、興味・関心をもつ。		・「分かった」「できた」という喜びを感じ、進んで学習や生活をしようとする。 ・身の回りの自然や現象に触れながら、驚きや発見などの喜びを感じる。	
	探究心 ～どうしてかな～	・自然物を使ってさまざまな遊びに取り組み、その感触や特徴などに気付いたり調べたりする。 ・積極的に園外に出かけ自然物で遊んだり、身近な自然と触れ合ったりしながら、季節の移り変わりに気付く。	・身近な環境に自分がかかわり、考えたり試したり工夫したりして遊ぶ。 ・失敗してもあきらめずに遊びを広げたり深めたりする。			・生活や学習のなかで、いろいろな方法を考えたり工夫したりすることを楽しむ。 ・新しいことや苦手なことには挑戦しようとする。		・困難なことや自分の課題にもあきらめずに挑戦し、乗り越えようとする。 ・不思議に思ったこと、疑問に思ったことを尋ねたり、進んで調べたりする。	
	表現 ～つたえたいな～	・絵本や物語に親しみ興味をもって聞き、イメージを豊かに表現する楽しさを感じてみる。 ・友達といっしょに歌や歌った音楽を使って曲の感じやリズムの変化を楽しむ。 ・日常生活の中で、数や文字に関心をもち、生活に取り入れる。	・いろいろな材料を自分のイメージに合わせて見て、工夫して使う。 ・思ったことや感じたことを絵や言葉などで表現する。			・姿勢や口形、声の大きさや速さなどに注意して、相手に伝わるように話す。 ・絵本や物語に興味をもたせ、挿絵や言葉、文章などから想像する楽しさを感じる。（読み聞かせを聞く、自分で読む） ・歌を歌ったり、音楽に合わせて体を動かしたりして表現活動を楽しむ。		・学習したことや生活のなかで使おうとする。 ・友達や先生に自分の考えを話したり、絵や文字でかいたりする。	
学習規律						・学習に必要なきまりを知り、守る。（手の上げ方、発表の仕方、椅子の座り方、話の聞き方など） ・学習に慣れ、一定時間集中して取り組む。（20分程度） ・家庭学習に取り組む。 ・教科書や筆記用具など学習用具の使い方を学び、大切に使う。		・45分間の学習に慣れ、進んで学習に取り組む。	

各年齢の活動事例

例 2歳児

各年齢のカリキュラムに基づく活動事例を掲載しています。活動事例は、各年齢で4事例ずつ紹介しています。

この活動事例を参考に、幼稚園・保育所・認定こども園や地域の特色を生かし実践すること、自園ならではの「活動事例」を開発していくことが大切です。

2歳児 活動事例4 色水遊びをしよう（7月）
観点（興味・関心） 視点（意欲 おもしろそうだな）

【遊びの経過】
 夏ならではの水遊びやボディペインティング、かたくりスライムなどの遊びを、開放感を味わいながら楽しんできた。そのなかで少しずつ色に興味をもち、生活や遊びのなかで色の名前を使うようになってきた。

【ねらい】
 色に興味をもち、容器に入れたり移したりしながら色水遊びを楽しむ。

【〇幼児の活動 ★環境の構成 ■保育者の援助】

〇水に絵の具が混ざり、色水ができる様子を見る。

あつ、赤だ。【発見】
 知っている色だ。【自覚】
 何だろう。【興味・関心】
 【不思議】
 わあ、きれい。【喜び】
 【期待】

〇好きな色や容器を選んで、色水を入れたり移したりして遊ぶ。

入るかな。【チャレンジ】
 【集中】
 こぼしても、へっちゃら。【夢中】
 【没頭】
 【集中】
 よし、混ぜてみよう。どうなるかな。【探求心】
 【期待】
 色が変わった。【驚き】
 【発見】

■色水遊びへの興味・関心が高まるように、水の入ったペットボトルに絵の具を少し混ぜ、色水ができていく様子を見せる。
■色への興味・関心がさらに広がるように、遊びのなかで色の名前を伝える。
■子どもたちのつぶやきを受け止め、繰り返し言葉にししながら子どもの発見に共感する。
■遊びのイメージがもてるように、できた色水を容器に移す様子を見せる。

★いろいろな形や大きさの容器を準備する。
★混色しても濁りにくい色を選んで準備する。

■安心して遊びに集中できるように、「こぼれてもいいよ」「大丈夫だよ」などの言葉をかけ、繰り返し楽しんでいる姿を見守る。
■遊びが広がるように、子どもたちの発見や驚きに共感するとともに、まわりの子どもたちにも伝える。
■見立て遊びやごっこ遊びが見られた時には、遊びが展開するように、子どもたちの色に対するイメージを受け止め、「ぶどうジュースください。」などの声をかける。
■子どもたちが自ら楽しんで工夫したりできるように、色や容器の形、大きさ、量などいろいろな違いや変化に気付けるような声をかける。

【評価】
 ・好きな色や容器を選び、色水を入れたり移したりすることを楽しんでいる。

スタートカリキュラム

1年生がスムーズに小学校生活をスタートできるための指導計画の実践例や計画のたてかたの留意点を示しています。

A 年間単元配当表

POINT
 生活面・学習面で「付けたい力」を明確にしています。それにより、学校生活への適応を図ることができます。

POINT
 生活科を中核とした総合的・関連的な指導に関連している教科等を示しています。それにより、教科等ごとのねらいを明確にした指導をすることができます。

B スタートカリキュラム 全体図

POINT
 各教科等の時間数を示しています。それにより、各教科等のねらいが効果的に実現され、効率的な授業時間の活用を図ることができます。

POINT
 指導内容をより明確にするために月案を作成しています。それはきめ細かな指導につながります。

D スタートカリキュラム 月案

E スタートカリキュラム 週案

《『幼保小連携カリキュラム』のイメージ》

遊びきる子ども



夢に向かって、学び続け、
チャレンジする子ども

円滑な接続に向けて

- * 幼児教育・保育と小学校教育の相互理解
- * 幼児教育・保育、小学校教育の充実



幼稚園・保育所・認定こども園

乳幼児期

0歳

1歳

2歳

3歳

4歳

5歳

接続期

小学校

児童期

1年生
(入門期)

2年生→→6年

各年齢のカリキュラム
「めざす子どもの姿」

円滑な接続

スタート
カリキュラム

学びの基礎力を育成するための「三つの自立」、「学力の三つの要素」

幼児期の終わり～児童期（低学年）

＜三つの自立＞

- ・ 学びの自立
- ・ 生活上の自立
- ・ 精神的な自立

児童期及びそれ以降の時期

＜学力の三つの要素＞

- ・ 基礎的な知識・技能
- ・ 課題解決のために必要な思考力
判断力・表現力等
- ・ 主体的に学習に取り組む態度

連続性 ・ 一貫性のある教育

「幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続の在り方について（報告）」
(平成22年11月11日)

* 接続期とは・・・学びの基礎力の育成期間である幼児期と児童期の教育双方が接続を意識する期間。

(このカリキュラムでは、「5歳児後半から小学校1年生夏休み前まで」としています。)

* 入門期とは・・・小学校に入学したばかりの児童が、学校生活や学習のスタイルに慣れるための期間。

(このカリキュラムでは、「小学校入学から小学校1年生夏休み前まで」としています。)

保護者の皆様へ

「遊びきる子どもをめざして」保護者版リーフレット

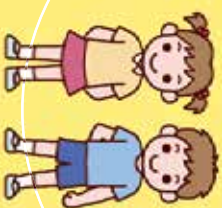
幼児にとって、遊びは大切な学びです！

子どもは夢中になって遊ぶなかで、保育者や友達、地域の人々、自然やさまざまなもの・出来事に出会います。それらとのかかわりを広げたり深めたりしていくことで、新しい世界に気づき、自分自身について振り返るようになっていきます。

子どもは、幼稚園や保育所・認定こども園等で、興味や関心に基づいた自発的な活動や具体的な体験を通して多くのことを学びます。子どもの「遊び」には、成長や発達にとって重要な体験がたくさん含まれているのです。

「遊びきる子ども」をめざす取組の一つとして..

鳥取県教育委員会は、平成24年度に策定した「鳥取県幼児教育振興プログラム（改訂版）」に基づき、平成25年度、幼保小の相互理解と、連携による幼児教育・保育及び小学校教育の充実と一層の推進をめざし、円滑な接続を進めるための「鳥取県幼保小連携カリキュラム」（各年齢のめざす姿や活動事例、幼児教育・保育と小学校教育のつながりを示した冊子）を作成しました。



鳥取県のめざす幼児の姿は「遊びきる子ども」です。

一人一人の育ちを大切にします！

鳥取県幼保小連携カリキュラム

めざす保育

- ・教職員が各年齢のめざす姿を意識しながら、一人一人の発達や発達に応じ、個を大切にする保育
- ・集団生活のなかでの育ちを保障し、一人一人が生かされる集団づくりを行う保育



この冊子を、県内全ての幼稚園・保育所・認定こども園及び小学校に配布しています。



1歳児

片付けながら楽しめた



3歳児

（はしごを使って）へんちやうだよ



5歳児

忍者修行に挑戦した

～夢中になって遊ぶ子どもたち～（鳥取県内幼稚園・保育所）

子どもたちの体や心が健やかに成長することを願って冊子を構成しています！

各年齢のめざす姿

- ★「遊びきる子ども」につながる各年齢におけるめざす姿を示しています。

活動事例

- ★めざす姿に向けて、保育を展開していくうえで参考となる活動事例を示しています。

小学校とのつながり

- ★幼児教育・保育と小学校1年生夏休み前までの教育内容や学びのつながりを示しています。

たどれば裏面は続く

園では、どんなことを学んでいるのかな？

☆活動事例の一部分を紹介します

2歳児「色水遊びをしよう」

〔鳥取県幼児保育連携カリキュラム〕（33ページ）

＊好きな容器を選んで、色水を入れたり移したりする遊びで…

意欲・欲求
なくなっちゃった。黄色、ちょうだい。



チャレンジ・集中
入るかな。

夢中・没頭・集中
こぼしても、へっちゃら。

POINT

こんなことを学んでいます

- ★遊びのなかで、考えたり試したり工夫したりすることで思考力が伸びます。
- ★遊びのなかで、もの的大小や量などに興味をもつことにつながります。



「遊び」を通して、いろんな力が育まれます！

小学校以降の学習や生活につながります

5歳児「宝とリゲームをしよう」

〔鳥取県幼児保育連携カリキュラム〕（44ページ）

＊どうしたらつかまらないうで宝がとれるか相談する遊びで…

仲間意識・人とかがわり
助けにきたよ。
ありがとう。
今度はつかまらないうにしよう。



葛藤
助けたいなあ。
でも鬼につかまるとかも。

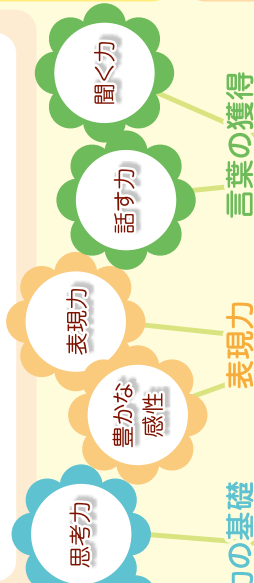
意欲
つかまえたので、逃げられないようにしよう。

期待
こっちにも助けに来てほしいな。

POINT

こんなことを学んでいます

- ★身のまわりのことを自分でやろうとしたり、自分で考えて行動したりするようになります。
- ★友達や先生とコミュニケーションを楽しみ、したいに相手に分かるように話すようになります。
- ★友達への思いやりや感謝の気持ちをもつとともに、仲間としての一体感を味わうようになります。



言葉の獲得

表現力

思考力の基礎

自立心・人とかがわる力

健康な心と体

保護者の皆様へ

一緒に「遊びきる子ども」を育てましょう！

- ★園と家庭が連絡を取り合い、生活につながりを持たせることで、子どもは安心し自信を持ててすごせるようになります。お子さんのやかな成長のためには、園と家庭が協力していくことが大切です。
- ★園では、「遊びきる子ども」をめざして、お子さんが好きな遊びに集中したり、繰り返し楽しんだり、新しい遊びに挑戦したりしている姿を大切にしています。
- ★ご家庭でも、下記の「家庭での5つのがんばりポイント」を参考に、お子さんとの時間をすごしていきましょう。

家庭での5つのがんばりポイント



- ★「早寝、早起き、朝ごはん」など基本的な生活習慣を大事にしましょう。
- ★一緒に運動したり、本を読んだりするなど、親子のふれあいの時間をとりましょう。
- ★家族の肌のぬくもりを感じ、安心感・満足感に満たされます。
- ★間違っことは、愛情を持って、本気で叱りましょう。
- ★保護者が子どもの手本となってルールやマナーを教えましょう。

さらに詳しくお知らせしたい方は、鳥取県教育委員会小中学校課のホームページで御覧いただけます

とりネット 幼児教育

検索

問合せ先

鳥取県教育委員会事務局小中学校課
電話：0857-26-7915 ファクシミリ：0857-26-8170
メールアドレス：shouchuugakkou@pref.tottori.jp

★活用場面★



幼稚園・保育園・認定こども園等で

～映像を活用した研修～

- ・子どもの行動や心の動きを客観的にそして多面的にとらえることができます。
- ・教職員で協議することを通して、新たな気づきや見方などが生まれます。そして、このことが自分の保育の幅を広げ、実践力を高めていくことにつながります。

小学校等で

～スタートカリキュラム作成・園児との交流活動～

- ・就学前の育ちや学び、園で行っている教育・保育を理解することができます。

- ・園児との交流活動内容を考える際の参考として、園との円滑な接続を意識した実践につながります。

幼稚園・保育園・認定こども園等、小学校等で

～保育体験、連絡協議会、合同研修会等～

- ・園で大切にしていることや子どもにとって「遊び」は「学び」であることを共通理解するための素材として活用できます。

- ・お互いの教育内容の違いやよさを知り、それぞれの教育の質を高めるとともに、これまで以上に、幼保小連携のあり方について、理解を深めることにつながります。

【保育場面提供協力園】

鳥取市立こじか幼稚園、三朝町立竹田保育園、聖心幼稚園

【情報提供園・小学校】

小さき花園幼稚園、米子みどり幼稚園、湯梨浜町立とうごうこども園、北栄町立北条こども園、北栄町立大谷こども園、認定こども園鳥取第二幼稚園・おひさま保育園、鳥取市立美保保育園、鳥取市立みたから保育園、鳥取市立湖南保育園、岩美町立みなみ保育所、境港市立あがりみち保育園、かいけ心正こども園、おつみ保育園、上北条保育園、認定こども園キッスタウンかみごとう、えんぜる保育園、鳥取市立晴風小学校、鳥取市立城北小学校、鳥取市立美保小学校、岩美町立岩美南小学校、湯梨浜町立東郷小学校、北栄町立北条小学校、江府町立江府小学校
【アドバイザー】塩野谷 斉（鳥取大学地域学部教授）

【問合せ先】鳥取県教育委員会事務局小中学校課

電話：0857-26-7915 ファクシミリ：0857-26-8170
メールアドレス：shouchuugakkou@pref.tottori.jp

「園内研修 DVD」～園内研修の充実をめざして～

鳥取県のめざす幼児の姿は「遊びきる子ども」です!!

鳥取県教育委員会では、各園における「遊びきる子ども」の育成をめざし、「園内研修用 DVD」を作成しました。



平成28年3月
鳥取県教育委員会

各園において、このDVDを参考に取り組むことで、園内研修等の充実による保育者の資質及び園の教育力・保育力の向上が図られることを心から願っています。

「園内研修 DVD」の活用に向けて

★「園内研修用 DVD」の構成★

Chapter1 園内研修用 DVD の活用にあたって

Chapter2 保育者の援助と環境の構成について考えましょう



- 「みんなであそぶの運動会ごっこ」をしよう（4歳児）（9月）
- ◇園内研修例①【保育者の援助】をテーマに研修しましょう
- ◇園内研修例②【環境の構成】をテーマに研修しましょう

Chapter3 視点を絞って保育を振り返りましょう



- 「木工遊びを楽しもう」（4・5歳児）（10月）
- ◇園内研修例③ 視点を絞って保育を振り返りましょう
- ◇園内研修例④ 実践事例の作成を通して園内研修

Chapter4 様々な側面から子どもの姿や育ちをとらえましょう



- 「ばら組迷路を作ろう」（5歳児）（10月）
- ◇園内研修例④ 様々な側面から子どもの姿や育ちをとらえましょう

Chapter5 「遊びきる子ども」をめざして

POINT

「鳥取県『遊びきる子ども』を育む取組事例集～幼児教育・保育の充実をめざして～」も「園内研修用 DVD」と一緒に活用しましょう。

*「鳥取県幼児教育振興プログラム（改訂版）」
「鳥取県幼保小連携カリキュラム」も一緒に活用しましょう。

自園の研究テーマに 合わせて

子どもの心の動き、主体的な学び、友達とのかかわり等、園の研究テーマに合わせて、録画映像を視聴し、協議することができます。

みんなと一緒に

同じ保育場面を視聴し、協議することで、多面的に子どもの姿を見取ることがができます。

いろいろな研修会で

園全体の研修で、グループの研修で、個人の自主的な研修で、小学校等の研修で…。様々な用途で活用することができます。

★活用方法★

必要な情報を選んで

チャプター構成になっているので、視聴したい部分のみを取り出して活用することができます。

繰り返し何度でも

映像を止めたり、音を消したりして、表情や行動を読み取ることができます。協議を行った後に再度、視聴して幼児理解を深める等、何度も繰り返し活用することもできます。



鳥取県『遊びきる子ども』を育む取組事例集

～ 幼児教育・保育の充実をめざして ～

平成２８年３月発行



発行：鳥取県教育委員会事務局小中学校課

〒６８０－８５７０ 鳥取市東町一丁目２７１番地

電 話 （０８５７）２６－７５１２

ファクシミリ （０８５７）２６－８１７０

電子メール shouchuugakkou@pref.tottori.jp

